

02

Survey Data Analysis

LIFULL HOME'S 総研 オリジナルアンケート調査分析 [1] 在留外国人の居住実態と日本人の意識に関する調査

株式会社ディ・プラス 代表取締役 橋口理文

はしぐち・まさふみ／東京大学経済学部卒業後、(株)リクルートに入社。主に新規事業関連企業のマーケティング・リサーチを担当。マーケティングリサーチ・エージェンシー取締役を経て、2019年に住生活、高等教育、観光・地方創生を中心とするリサーチ&コンサルティング企業(株)ディ・プラスを設立。(現・取締役)。

リサーチャー／株式会社ディ・プラス フェロー 吉永奈央子

よしなが・なおこ／上智大学文学部卒業後、インターネットリサーチ会社に入社。リサーチャーとして様々な調査に関わり、退社後もフリーリサーチャー、(株)ディ・プラス フェローとして調査業に従事。また、東京学芸大学大学院を修了、公認心理師、臨床心理士として心理発達支援にも携わる。

株式会社マーケティングリサーチシステム

2015年1月設立。アンケート集計・データ処理、分析・多変量解析をはじめ、調査企画業務やレポート、実査などマーケティング・リサーチ業務全般を行っている。特に自社開発のアンケート集計システムによるデータ処理、アンケート集計・分析とレポート作成を主力業務としている。

LIFULL HOME'S 総研 オリジナルアンケート調査分析 [2] 日本で暮らす外国人のウェルビーイング

九州大学大学院 人間環境学研究院 都市・建築学部門 助教 有馬 雄祐



02^①

Survey Data Analysis

オリジナルアンケート調査分析 [1]

調査概要	P.035
------	-------

Part.01：基本分析編（在留外国人調査／日本人調査）

0. 日本人／在留外国人プロフィール

① 性・年代	P.040
② 在留資格	P.040
③ 職業区分	P.041
④ 居住年数	P.042
⑤ 家族構成	P.043

Part.02：在留外国人の住まい・生活（在留外国人調査）

1. 在留外国人の生活・居住実態

① 居住実態

① 住居種類	P.046
② 間取り	P.047
③ 広さ	P.048
④ 通勤・通学時間	P.049
⑤ 物件価格	P.050
⑥ 賃料	P.051

② 住まい探しの実態

① 住まい選びの重視条件	P.052
② 住まい探しの情報源	P.053
③ 住まい探しで困ったこと	P.054

③ 住宅満足度

① 住み替えの予定	P.055
② 日本での住宅購入意向	P.056
③ 住居満足度	P.057

2. 日本人との交流実態と希望

① 日本人との交流頻度	P.058
② 頼れる友人・知人の数	P.059
③ 交流の希望	P.060

3. 日本の生活に対する在留外国人の評価

① 日本に住もうと思ったきっかけ	P.061
② 暮らして感じた日本の魅力	P.062
③ 暮らして気を配っていること	P.063
④ 住んでから困ったこと【ハード面】	P.064
⑤ 住んでから困ったこと【ソフト面】	P.065
⑥ 外国人問題に対する意見	P.066

在留外国人調査サマリー	P.067
-------------	-------

Part.03：在留外国人への日本人の意識（日本人調査）

1. 経験・生活・プロフィール

① 外国語習熟度	P.070
② 海外居住経験	P.071
③ 外国人友人の人数	P.071
④ 外国人の近隣居住状況	P.072
⑤ 外国人観光客との接触状況	P.073
⑥ 外国人との交流頻度	P.074
⑦ 外国人との交流希望	P.075

2. 外国人が増えることへの評価

① 評価

① 外国人が増えることへの評価	P.076
② 守ってほしい日本的暗黙のルール	P.078

② 評価の源泉（体験・メディア）

① 実際に外国人から迷惑を被っていること	P.079
② イメージ形成メディア	P.080

3. 外国人への期待・希望・課題

① 外国人が増えることへの肯定的評価理由	P.081
② 外国人が増えることへの否定的評価理由	P.082
③ 外国人問題に対する意見	P.083

4. ナショナリズム

① 愛国主義指標	P.084
② 純化主義指標	P.085
③ 排外主義指標	P.086

5. 外国人への寛容さはどこから生まれるか

① ナショナリズム3指標と外国人が増えることへの評価	P.088
② 【外国人が増えることへの評価別】基本プロフィール	P.090
③ 【外国人が増えることへの評価別】満足度指標	P.094

日本人調査サマリー	P.096
-----------	-------

調査概要

調査対象

【在留外国人調査】

関東7都県（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）、東海4県（岐阜県、静岡県、愛知県、三重県）、京都府・大阪府・兵庫県に居住する、国籍・地域が中国、ベトナム、韓国、フィリピン、ネパール、インドネシア、ブラジル、ミャンマー、スリランカ、台湾、米国（表記と順序は法務省の令和7年6月の「在留外国人統計」の在留外国人数に基づく）である、18～79歳の男女1,704名。

▶上記国籍「中国」には「香港」を加えている。

【日本人調査】

外国人の人口比率が高い市区町村に居住する18～79歳までの男女2,060名。

調査方法：インターネット調査

■ 在留外国人調査、日本人調査とも、株式会社マクロミルのインターネット・リサーチパネルを利用。

在留外国人調査の調査対象条件と回収サンプル目標数の設定

- 居住都道府県と年齢以外に、「在留資格」を保有していること、「在留資格」が「短期滞在」ではないことを調査対象条件とした。なお「特別永住者」は回収サンプル数が少なかったため集計から除外した。
- 国籍・地域は、「中国（香港含む）」、「台湾」、「韓国」、「インドネシア」、「フィリピン」、「ベトナム」、「ミャンマー」、「ネパール」、「スリランカ」、「アメリカ」、「ブラジル」に分類し、それぞれ150名ずつ回収目標に設定した。

日本人調査の調査対象地域の抽出と回収サンプル数の設定

- 市区町村別の在留外国人の人口比率は、令和7年国勢調査（総務省）における総人口（日本人＋外国人＋日本人・外国人の別「不詳」）を分母とし、在留外国人統計（法務省）における2025年6月末現在の在留外国人総数を分子として算出した。
 - 市区町村の区分は、東京23区、政令指定都市の区、および市町村である。
- 各市区町村の「在留外国人の人口比率」を上位から順番に並べ、累積在留外国人総数の割合が50%を超えるまでの自治体を調査対象地域と設定した。結果、調査対象自治体の数は292となった。
- この292自治体に居住する18～79歳までの男女について、各性年代ごとに206名ずつ回収した。
 - 年代は、「29歳以下」「30～39歳」「40～49歳」「50～59歳」「60歳以上」の5区分である。

調査対象時期

- 在留外国人調査：2026年5月29日（金）～6月11日（木）
- 日本人調査：2026年7月14日（火）～7月15日（水）

調査実施機関

株式会社ディ・プラス

データ補正（ウェイトバック）

- 在留外国人向け調査の分析にあたっては、在留資格の人数構成比を反映したウェイトバック係数を用いている。
- 具体的には、在留外国人統計（法務省）における2025年6月末現在の総在留外国人の総数から、「特別永住者」、「短期滞在」資格の人数を差し引いた人数に基づいて調整している。
 - ▶在留資格の区分は、調査票の選択肢に合わせている。
 - ▶ウェイトバック係数を掛けたため、本レポート中の各セグメントの調査数を合算しても全体の調査数にはならないケースがある。

都道府県	調査対象市区町村	在留外国人数	総人口	外国人比率	累計構成比
北海道	占冠村	444	1,306	34.0	0.01
北海道	赤井川村	381	1,165	32.7	0.02
長野県	川上村	1345	4,344	31.0	0.05
大阪府	大阪市 生野区	31019	127,309	24.4	0.84
群馬県	大泉町	9417	42,089	22.4	1.08
長野県	南牧村	713	3,242	22.0	1.10
大阪府	大阪市 浪速区	14330	75,504	19.0	1.46
北海道	留寿都村	308	1,911	16.1	1.47
大阪府	大阪市 西成区	16890	106,111	15.9	1.89
東京都	新宿区	51263	349,385	14.7	3.19
沖縄県	恩納村	1548	10,869	14.2	3.23
埼玉県	蕨市	10435	74,283	14.0	3.50
北海道	ニセコ町	694	5,074	13.7	3.51
大阪府	大阪市 中央区	13707	103,726	13.2	3.86
神奈川県	横浜市 中区	19901	151,388	13.1	4.36
愛知県	名古屋市中区	11974	93,100	12.9	4.67
長野県	白馬村	1099	8,575	12.8	4.70
東京都	豊島区	38409	301,599	12.7	5.67
三重県	木曽岬町	748	6,023	12.4	5.69
北海道	倶知安町	1815	15,129	12.0	5.73
茨城県	常総市	7217	60,834	11.9	5.92
神奈川県	箱根町	1319	11,293	11.7	5.95
東京都	荒川区	25235	217,475	11.6	6.59
岐阜県	美濃加茂市	6559	56,689	11.6	6.75
愛知県	飛島村	521	4,575	11.4	6.77
群馬県	昭和村	786	6,953	11.3	6.79
大阪府	大阪市 東成区	9388	84,906	11.1	7.02
兵庫県	神戸市 中央区	16130	147,518	10.9	7.43
愛知県	高浜市	4967	46,106	10.8	7.56
群馬県	草津町	648	6,049	10.7	7.58
茨城県	八千代町	2142	21,026	10.2	7.63
東京都	台東区	21233	211,444	10.0	8.17
岐阜県	可児市	9822	99,968	9.8	8.42
神奈川県	愛川町	3891	39,869	9.8	8.51
東京都	北区	34539	355,213	9.7	9.39
愛知県	碧南市	6932	72,458	9.6	9.56
東京都	港区	24545	260,486	9.4	10.19
茨城県	坂東市	4849	52,265	9.3	10.31
岐阜県	坂祝町	748	8,071	9.3	10.33
神奈川県	川崎市 川崎区	21356	232,965	9.2	10.87
兵庫県	神戸市 長田区	8685	94,791	9.2	11.09
群馬県	嬬恋村	810	8,850	9.2	11.11
北海道	仁木町	288	3,180	9.1	11.12
静岡県	吉田町	2592	28,919	9.0	11.18
千葉県	富里市	4425	49,735	8.9	11.29
茨城県	鉾田市	4079	45,953	8.9	11.40
茨城県	利根町	1339	15,340	8.7	11.43
埼玉県	川口市	51698	594,274	8.7	12.74
静岡県	菊川市	4152	47,789	8.7	12.84
東京都	福生市	4865	56,414	8.6	12.97
大阪府	大阪市 天王寺区	7052	82,148	8.6	13.15
愛知県	名古屋市中港区	12187	143,715	8.5	13.46
愛知県	知立市	6094	72,193	8.4	13.61
千葉県	成田市	10996	132,906	8.3	13.89
群馬県	伊勢崎市	17472	211,850	8.2	14.33
京都府	久御山町	1244	15,250	8.2	14.36
愛知県	岩倉市	3893	47,983	8.1	14.46
滋賀県	湖南市	4404	54,460	8.1	14.57
茨城県	下妻市	3419	42,521	8.0	14.66
兵庫県	神戸市 兵庫区	8768	109,144	8.0	14.88
東京都	中央区	13554	169,179	8.0	15.22
東京都	江東区	42003	524,310	8.0	16.29
長野県	小谷村	212	2,647	8.0	16.29
北海道	雄武町	335	4,199	8.0	16.30
福井県	越前市	6401	80,611	7.9	16.46
愛知県	小牧市	11809	148,831	7.9	16.76
茨城県	境町	1902	24,201	7.9	16.81
大阪府	大阪市 西区	8255	105,862	7.8	17.02
福島県	富岡町	165	2,128	7.8	17.02
東京都	中野区	26635	344,880	7.7	17.70
山梨県	中央市	2400	31,216	7.7	17.76
愛知県	西尾市	12989	169,046	7.7	18.09
静岡県	湖西市	4434	57,885	7.7	18.20
茨城県	大洗町	1192	15,715	7.6	18.23
福島県	大熊町	64	847	7.6	18.23
沖縄県	北大東村	44	590	7.5	18.23
東京都	江戸川区	51999	697,932	7.5	19.55
群馬県	太田市	16600	223,014	7.4	19.97
長野県	野沢温泉村	244	3,279	7.4	19.98
千葉県	千葉市 美浜区	11081	148,944	7.4	20.26
神奈川県	横浜市中区	14373	198,157	7.3	20.62
京都府	京都市 南区	7376	101,970	7.2	20.81
静岡県	袋井市	6345	87,864	7.2	20.97
三重県	伊賀市	6396	88,766	7.2	21.13
北海道	佐呂間町	349	4,875	7.2	21.14
山梨県	山中湖村	367	5,179	7.1	21.15
東京都	文京区	16988	240,069	7.1	21.58
大阪府	大阪市 西淀川区	6766	95,864	7.1	21.75
北海道	東川町	584	8,314	7.0	21.76
東京都	葛飾区	31786	453,093	7.0	22.57
大阪府	大阪市 港区	5637	80,948	7.0	22.71
愛知県	弥富市	2968	43,025	6.9	22.79
東京都	板橋区	40266	584,483	6.9	23.81
大阪府	大阪市 北区	9453	139,376	6.8	24.04
東京都	足立区	47074	695,043	6.8	25.24
千葉県	八街市	4566	67,455	6.8	25.35
愛知県	豊明市	4684	69,295	6.8	25.47
埼玉県	戸田市	9347	140,899	6.6	25.71
神奈川県	綾瀬市	5557	83,913	6.6	25.85
東京都	千代田区	4410	66,680	6.6	25.96

都道府県	調査対象市区町村	在留外国人数	総人口	外国人比率	累計構成比
北海道	真狩村	134	2,045	6.6	25.96
北海道	長万部町	334	5,109	6.5	25.97
東京都	墨田区	17747	272,085	6.5	26.42
大阪府	大阪市 淀川区	11812	183,444	6.4	26.72
茨城県	鉅城市	3258	50,645	6.4	26.80
熊本県	南小国町	240	3,750	6.4	26.81
愛知県	名古屋市中村区	8841	138,599	6.4	27.03
神奈川県	横浜市 西区	6688	104,935	6.4	27.20
静岡県	牧之原市	2768	43,502	6.4	27.27
京都府	京都市 東山区	2326	36,602	6.4	27.33
京都府	京都市 上京区	5300	83,832	6.3	27.46
北海道	喜茂別町	135	2,156	6.3	27.47
静岡県	磐田市	10423	166,672	6.3	27.73
北海道	猿払村	162	2,611	6.2	27.74
愛知県	豊橋市	22957	371,920	6.2	28.32
滋賀県	愛荘町	1285	20,893	6.2	28.35
神奈川県	横浜市 鶴見区	18077	297,437	6.1	28.81
茨城県	つくば市	14650	241,656	6.1	29.18
三重県	いなべ市	2713	44,973	6.0	29.25
群馬県	千代田町	655	10,861	6.0	29.26
京都府	京都市 下京区	4988	82,784	6.0	29.39
大阪府	大阪市 住之江区	7209	120,072	6.0	29.57
愛知県	名古屋市中南区	8031	134,510	6.0	29.78
京都府	宇治田原町	532	8,911	6.0	29.79
京都府	京都市 左京区	9806	166,039	5.9	30.04
栃木県	真岡市	4588	78,190	5.9	30.15
愛知県	蟹江町	2188	37,338	5.9	30.21
群馬県	館林市	4347	75,309	5.8	30.32
埼玉県	八潮市	5371	93,363	5.8	30.46
北海道	新冠町	305	5,309	5.7	30.46
三重県	川越町	867	15,123	5.7	30.48
香川県	多度津町	1284	22,445	5.7	30.52
滋賀県	甲賀市	5044	88,358	5.7	30.65
北海道	興部町	206	3,628	5.7	30.65
大阪府	大阪市 東淀川区	9967	177,120	5.6	30.90
東京都	渋谷区	13706	243,883	5.6	31.25
三重県	亀山市	2774	49,835	5.6	31.32
千葉県	酒々井町	1154	20,745	5.6	31.35
愛知県	豊田市	23402	422,330	5.5	31.94
福岡県	福岡市 博多区	13960	252,034	5.5	32.30
大阪府	大阪市 東住吉区	7064	127,849	5.5	32.47
三重県	鈴鹿市	10759	195,670	5.5	32.75
福島県	葛尾村	23	420	5.5	32.75
大阪府	大阪市 平野区	10511	192,152	5.5	33.01
埼玉県	神川町	723	13,359	5.4	33.03
栃木県	小山市	8952	166,666	5.4	33.26
愛知県	名古屋市中東区	4531	84,392	5.4	33.37
岐阜県	輪之内町	518	9,654	5.4	33.39
大阪府	大阪市 阿倍野区	5936	110,995	5.3	33.54
群馬県	邑楽町	1364	25,522	5.3	33.57
熊本県	長洲町	821	15,372	5.3	33.59
奈良県	安堵町	385	7,225	5.3	33.60
群馬県	板倉町	749	14,083	5.3	33.62
埼玉県	三郷市	7516	142,145	5.3	33.81
岐阜県	瑞穂市	2928	56,388	5.2	33.88
北海道	鹿部町	195	3,760	5.2	33.89
千葉県	松戸市	25828	498,232	5.2	34.54
香川県	宇多津町	957	18,699	5.1	34.57
北海道	日高町	576	11,279	5.1	34.58
広島県	東広島市	10038	196,608	5.1	34.84
岐阜県	御嵩町	894	17,516	5.1	34.86
埼玉県	羽生市	2689	52,862	5.1	34.93
福島県	飯館村	67	1,318	5.1	34.93
滋賀県	日野町	1062	20,964	5.1	34.96
神奈川県	中井町	471	9,300	5.1	34.97
北海道	上士幌町	241	4,778	5.0	34.97
埼玉県	上里町	1523	30,343	5.0	35.01
千葉県	山武市	2429	48,444	5.0	35.07
新潟県	湯沢町	387	7,767	5.0	35.08
静岡県	東伊豆町	572	11,488	5.0	35.10
静岡県	掛川市	5714	114,954	5.0	35.24
埼玉県	草加市	12334	248,304	5.0	35.55
愛知県	豊川市	9164	184,661	5.0	35.79
茨城県	五霞町	401	8,093	5.0	35.80
千葉県	銚子市	2892	58,431	4.9	35.87
千葉県	芝山町	347	7,033	4.9	35.88
大阪府	大阪市 此花区	3216	65,251	4.9	35.96
北海道	むかわ町	376	7,651	4.9	35.97
大阪府	大阪市 都島区	5300	107,904	4.9	36.10
愛知県	みよし市	3039	61,952	4.9	36.18
大阪府	大阪市 大正区	3043	62,083	4.9	36.26
山梨県	富士河口湖町	1277	26,082	4.9	36.29
大分県	別府市	5642	115,321	4.9	36.43
大阪府	東大阪市	24163	493,940	4.9	37.05
茨城県	かすみがうら市	1959	40,087	4.9	37.09
神奈川県	厚木市	10905	223,705	4.9	37.37
大分県	豊後高田市	1073	22,112	4.9	37.40
長野県	軽井沢町	930	19,188	4.8	37.42
栃木県	足利市	6995	144,746	4.8	37.60
愛知県	安城市	9083	187,990	4.8	37.83
三重県	桑名市	6697	138,613	4.8	38.00
茨城県	土浦市	6838	142,074	4.8	38.17
宮城県	女川町	309	6,430	4.8	38.18
京都府	京都市 中京区	5305	110,488	4.8	38.31
千葉県	市川市	23847	496,676	4.8	38.92
静岡県	清水町	1521	31,710	4.8	38.96
北海道	浜頓別町	165	3,448	4.8	38.96
茨城県	稲敷市	1868	39,039	4.8	39.01
大阪府	堺市 堺区	7071	148,682	4.8	39.19
愛知県	蒲郡市	3772	79,538	4.7	39.28

都道府県	調査対象市区町村	在留外国人数	総人口	外国人比率	累計構成比
茨城県	龍ヶ崎市	3621	76,420	4.7	39.37
兵庫県	加東市	1925	40,645	4.7	39.42
大阪府	大阪市 住吉区	7247	153,056	4.7	39.61
北海道	枝幸町	358	7,565	4.7	39.61
埼玉県	嵐山町	844	17,889	4.7	39.64
福岡県	福岡市 東区	15182	322,503	4.7	40.02
埼玉県	東松山市	4319	91,791	4.7	40.13
愛知県	名古屋市 千種区	7774	165,245	4.7	40.33
熊本県	産山村	65	1,382	4.7	40.33
愛知県	津島市	2863	60,942	4.7	40.40
愛知県	名古屋市 昭和区	5050	107,599	4.7	40.53
北海道	京極町	138	2,941	4.7	40.53
福島県	檜葉町	174	3,710	4.7	40.54
茨城県	小美玉市	2292	48,870	4.7	40.59
愛知県	名古屋市 熱田区	3137	66,957	4.7	40.67
北海道	浦河町	565	12,074	4.7	40.69
愛知県	名古屋市 北区	7590	162,956	4.7	40.88
鹿児島県	大崎町	576	12,385	4.7	40.89
北海道	紋別市	986	21,215	4.6	40.92
千葉県	多古町	637	13,735	4.6	40.94
広島県	江田島市	1017	21,930	4.6	40.96
愛知県	名古屋市 中川区	10229	220,728	4.6	41.22
東京都	大田区	34541	748,081	4.6	42.10
茨城県	筑西市	4647	100,753	4.6	42.21
広島県	大崎上島町	329	7,158	4.6	42.22
北海道	浜中町	253	5,507	4.6	42.23
愛媛県	上島町	299	6,509	4.6	42.24
滋賀県	東近江市	5170	112,819	4.6	42.37
京都府	京都市 伏見区	12713	277,858	4.6	42.69
北海道	西興部村	48	1,053	4.6	42.69
三重県	四日市市	13901	305,424	4.6	43.04
茨城県	古河市	6329	139,344	4.5	43.20
静岡県	焼津市	6215	136,845	4.5	43.36
長野県	宮田村	389	8,569	4.5	43.37
岐阜県	安八町	650	14,355	4.5	43.39
千葉県	八千代市	9019	199,498	4.5	43.61
茨城県	美浦村	658	14,602	4.5	43.63
長野県	小海町	196	4,353	4.5	43.64
千葉県	千葉市 中央区	9528	211,736	4.5	43.88
埼玉県	本庄市	3535	78,569	4.5	43.97
群馬県	玉村町	1621	36,054	4.5	44.01
千葉県	神崎町	260	5,816	4.5	44.01
北海道	森町	640	14,338	4.5	44.03
神奈川県	川崎市 幸区	7633	171,119	4.5	44.22
千葉県	千葉市 花見川区	7905	177,328	4.5	44.42
愛知県	瀬戸市	5688	127,792	4.5	44.57
北海道	別海町	640	14,380	4.5	44.58
長野県	坂城町	618	14,004	4.4	44.60
山梨県	忍野村	407	9,237	4.4	44.61
京都府	八幡市	3102	70,433	4.4	44.69
秋田県	東成瀬村	119	2,704	4.4	44.69
福岡県	大刀洗町	683	15,521	4.4	44.71
愛知県	半田市	5179	117,884	4.4	44.84
千葉県	四街道市	4096	93,576	4.4	44.94
茨城県	行方市	1398	32,185	4.3	44.98
沖縄県	北谷町	1223	28,201	4.3	45.01
北海道	遠別町	109	2,520	4.3	45.01
東京都	品川区	18253	422,488	4.3	45.47
岐阜県	大垣市	6838	158,286	4.3	45.65
大阪府	大阪市 城東区	7289	169,043	4.3	45.83
東京都	目黒区	12422	288,088	4.3	46.15
岐阜県	土岐市	2386	55,348	4.3	46.21
広島県	安芸高田市	1134	26,448	4.3	46.24
大阪府	泉佐野市	4274	100,131	4.3	46.34
愛知県	南知多町	708	16,617	4.3	46.36
愛知県	豊山町	664	15,613	4.3	46.38
広島県	北広島町	754	17,763	4.2	46.40
神奈川県	横浜市 神奈川区	10445	247,267	4.2	46.66
岐阜県	垂井町	1113	26,402	4.2	46.69
岐阜県	海津市	1378	32,735	4.2	46.72
福岡県	荻田町	1581	37,684	4.2	46.76
愛知県	大口町	1019	24,305	4.2	46.79
埼玉県	坂戸市	4201	100,275	4.2	46.90
千葉県	千葉市 若葉区	6146	146,940	4.2	47.05
群馬県	長野原町	213	5,095	4.2	47.06
富山県	射水市	3790	90,742	4.2	47.15
神奈川県	横浜市 磯子区	6958	166,731	4.2	47.33
三重県	津市	11426	274,537	4.2	47.62
愛知県	東郷町	1822	43,903	4.2	47.67
東京都	杉並区	24507	591,108	4.1	48.29
京都府	井手町	307	7,406	4.1	48.29
兵庫県	神戸市 東灘区	8826	213,562	4.1	48.52
兵庫県	加西市	1757	42,700	4.1	48.56
静岡県	熱海市	1403	34,208	4.1	48.60
静岡県	御前崎市	1275	31,103	4.1	48.63
愛知県	大府市	3813	93,123	4.1	48.73
愛知県	犬山市	2984	73,090	4.1	48.80
愛知県	刈谷市	6280	153,834	4.1	48.96
山梨県	甲府市	7733	189,591	4.1	49.16
北海道	湧別町	337	8,270	4.1	49.17
静岡県	浜松市 中央区+浜名区	31089	763992	4.1	49.95
千葉県	東金市	2368	58,219	4.1	50.01

※「在留外国人総数」は「2025年6月末現在の在留外国人統計」より、
「総人口」は「令和7年国勢調査結果」より。
※ 外国人比率は「在留外国人総数」を「総人口」で割った値。本表はこのスコアは大きい順に並べている。
※ 累積構成比は全国の在留外国人総数（ 394万9,747人）に対する割合を示している。

MEMO

Handwriting practice lines consisting of 30 horizontal dashed lines.

Part 01

基本分析編

(在留外国人調査／日本人調査)

0. 日本人／在留外国人プロフィール

① 性・年代

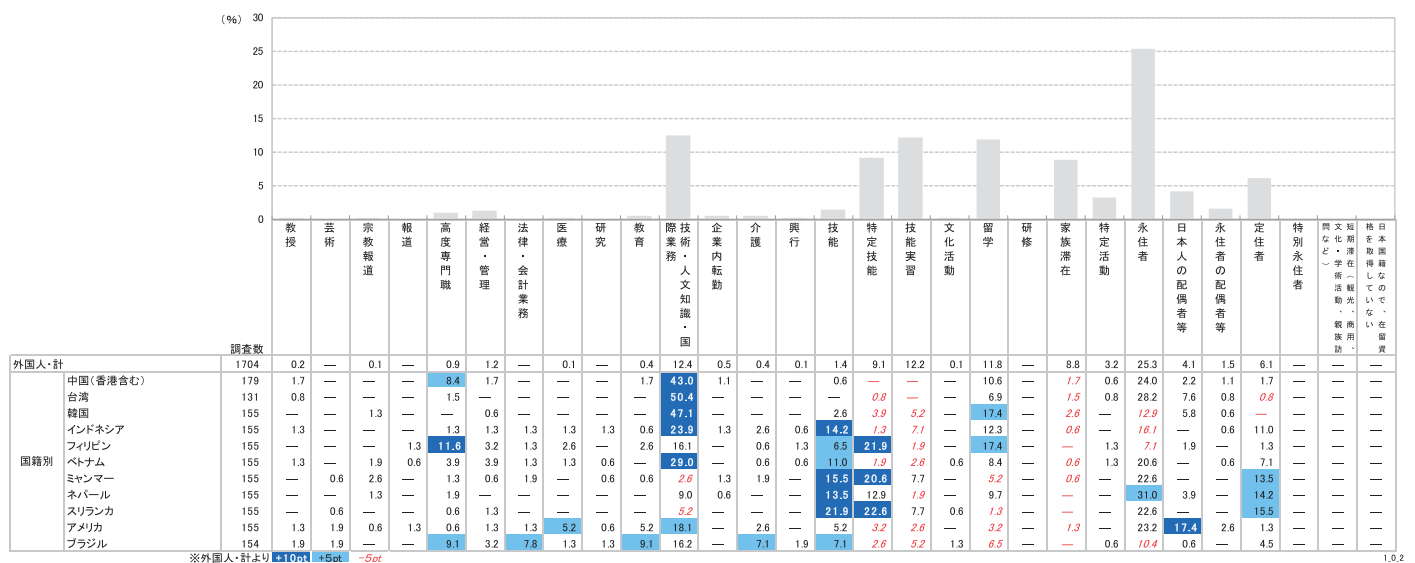
■性・年代(全体／単一回答・実数回答)

				(%)					(歳)	
		調査数	男性	女性	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	平均
日本人・計		2060	50.0	50.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	45.38
外国人・計		1704	44.6	55.4	27.6	42.1	23.8	5.1	1.5	35.72
国籍別	中国(香港含む)	179	42.5	57.5	30.2	57.5	10.1	2.2	—	32.98
	台湾	131	30.5	69.5	16.0	50.4	31.3	2.3	—	36.34
	韓国	155	41.9	58.1	35.5	41.9	20.6	1.9	—	33.48
	インドネシア	155	51.6	48.4	32.3	41.9	17.4	7.1	1.3	34.90
	フィリピン	155	50.3	49.7	28.4	53.5	17.4	0.6	—	33.45
	ベトナム	155	47.7	52.3	26.5	51.6	16.8	5.2	—	35.18
	ミャンマー	155	51.0	49.0	23.2	40.6	27.7	7.1	1.3	36.37
	ネパール	155	53.5	46.5	21.9	40.6	25.2	11.0	1.3	37.17
	スリランカ	155	49.0	51.0	9.0	45.8	31.0	11.0	3.2	40.15
	アメリカ	155	51.0	49.0	18.1	43.2	23.2	9.0	6.5	39.28
	ブラジル	154	59.7	40.3	27.3	63.0	5.8	1.9	1.9	33.40
※外国人・計より		+10pt	+5pt		-5pt					1.0

② 在留資格

■在留資格(全体／單一回答)

S5.あなたの在留資格をお答えください。※日本国籍の方は、「日本国籍なので、在留資格を取得していない」をお選びください。

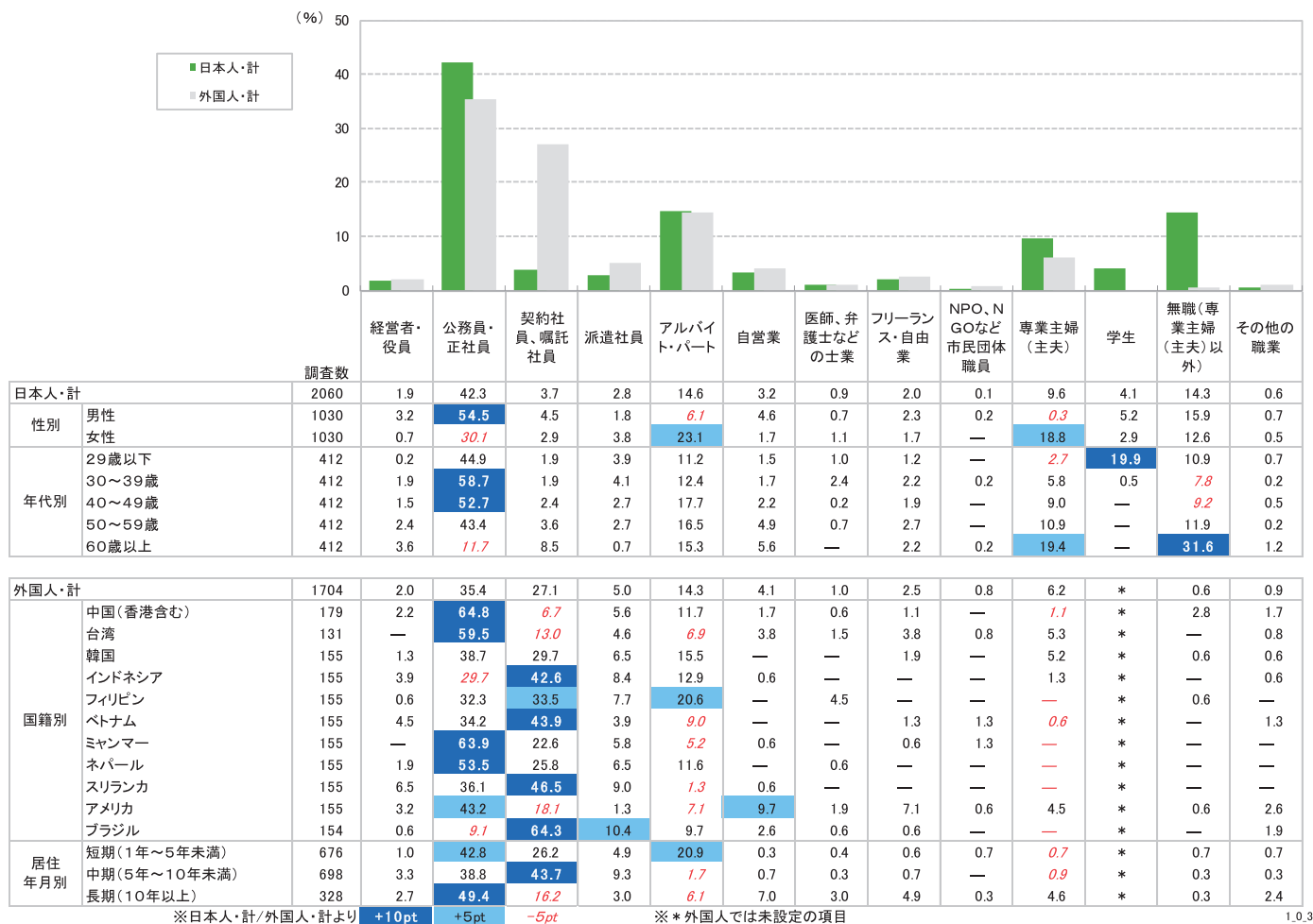


③ 職業区分

- 日本人で最も多いのは、「公務員・正社員」で42%を占める。
- 在留外国人も「正社員」は35%と多いが、「契約社員・嘱託社員」が27%、「アルバイト・パート」が14%を占めている。

■職業(全体／単一回答)

S3/S6.あなたの職業はどれにあてはまりますか。



4 居住年数

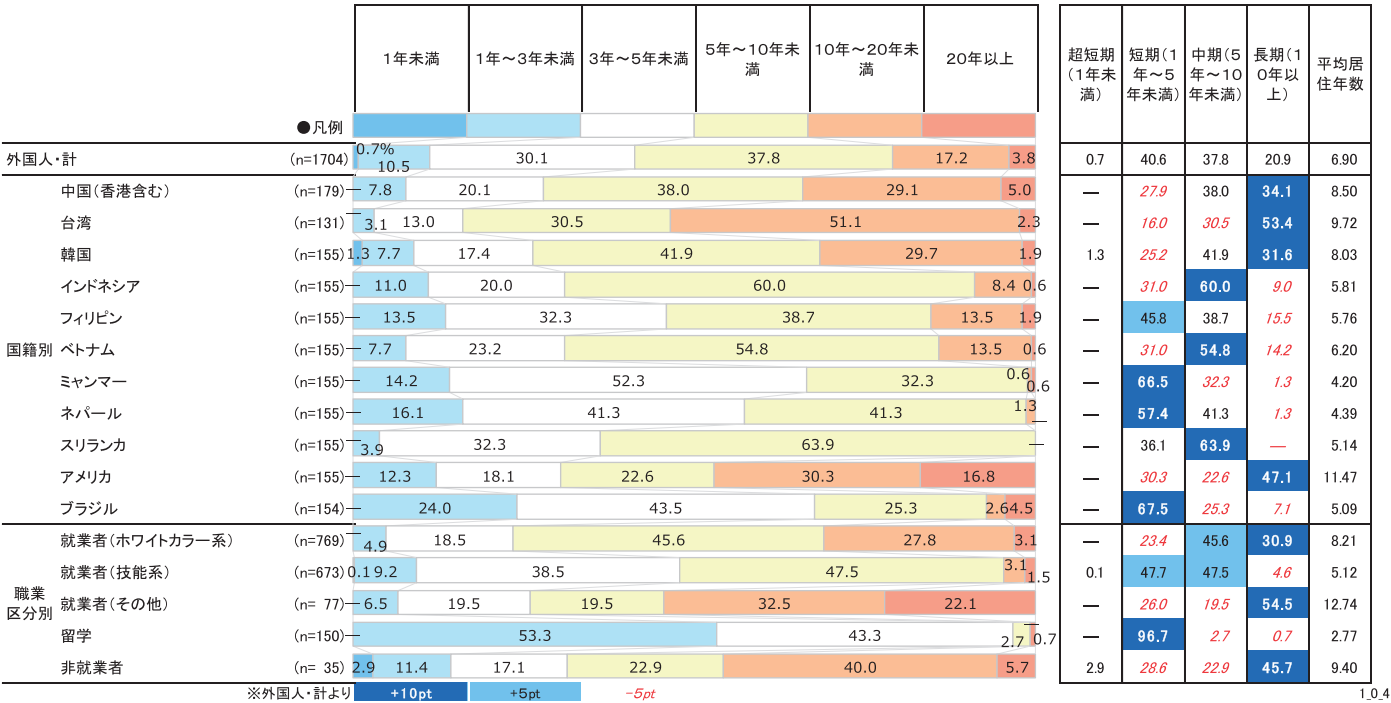
- 在留外国人全体の平均居住年数は6.9年。10年未満の者が8割弱を占めている。
- 国籍別にみて居住年数が長いのは、「アメリカ」（11.5年）。「台湾」、「中国（香港含む）」、「韓国」のアジア系が続いている。
 - 「台湾」の「長期（10年以上）」は半数を超えている。
- 平均居住年数が短いのは「ミャンマー」、「ネパール」など。

▶なお表側の「職業区分別」については、下記の職業区分による回答データから判断した。（以下同じ）

1	農業・漁業・食品生産の技能職
2	工場・製造業の技能職
3	建設・土木・設備の技能職
4	運送・物流・倉庫の技能職
5	飲食店・ホテル・販売・サービスの技能職
6	介護・医療・福祉の仕事
7	事務職・営業職・専門職（IT・通訳・技術職など）
8	高度専門職（研究・開発、経営・管理など）
9	その他

■居住年数（全体／実数回答）

S8あなたは、どのくらい日本に住んでいますか。※1年に満たない場合など、年もしくはヶ月に記載ができない場合は「0」とご記載ください。

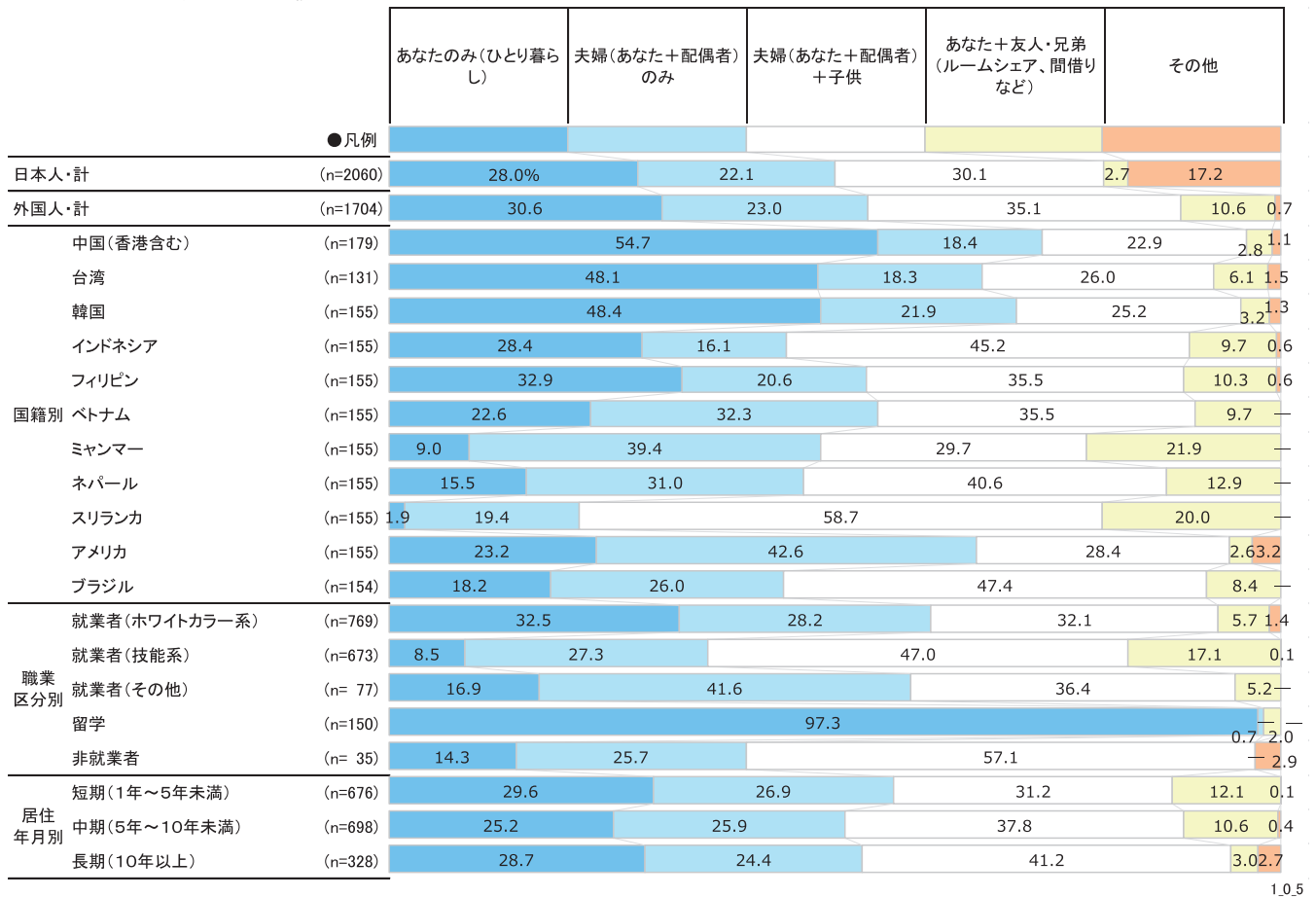


⑤ 家族構成

- 日本人で割合が多いのは、「夫婦（あなた＋配偶者）＋子供」、「あなたのみ（ひとり暮らし）」であり、3割前後で拮抗している。
- 在留外国人も同様の結果であるが、「あなた＋友人・兄弟（ルームシェア、間借りなど）」の割合が1割程度あり、日本人よりも多い。
- 国籍別にみると、「中国（香港含む）」、「台湾」、「韓国」の「あなたのみ（ひとり暮らし）」の割合が5割前後を占め、その多さが目立つ。
 - 「夫婦（あなた＋配偶者）＋子供」が多いのは、「スリランカ」、「インドネシア」、「ブラジル」など。
 - 「あなた＋友人・兄弟（ルームシェア、間借りなど）」が多いのは、「ミャンマー」、「スリランカ」であり、それぞれ2割を超えている。

■ 家族構成（全体／単一回答）

S10. 現在のお住まいに同居しているご家族構成にもっとも近いものをお選びください。



10.5

MEMO

Part 02

在留外国人の住まい・生活

(在留外国人調査)

1. 在留外国人の生活・居住実態

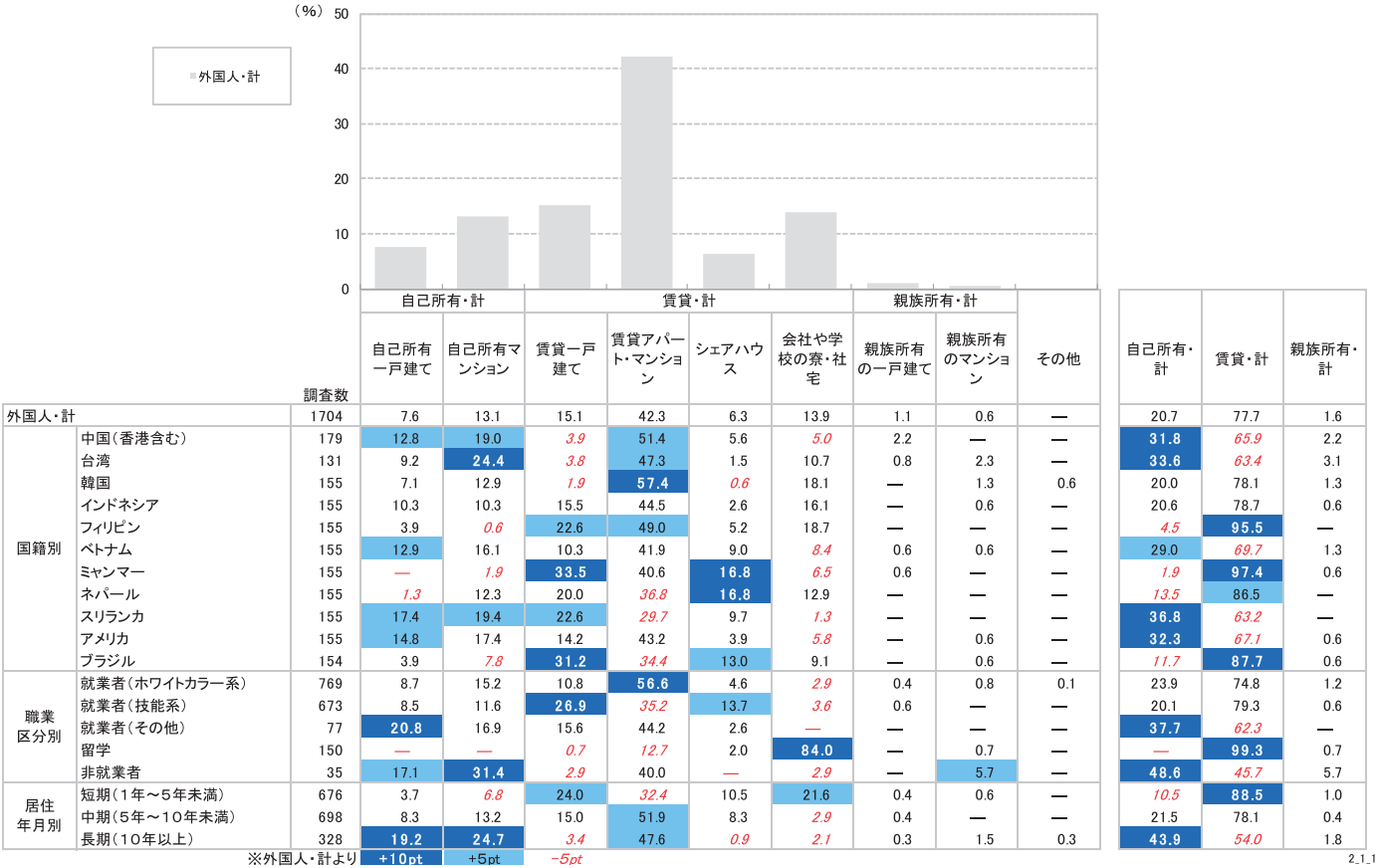
1 居住実態

① 住居種類

- 在留外国人の住居種類で最も多いのは「賃貸アパート・マンション」であり、4割を超える。
「会社や学校の寮・社宅」は14%を占め、「賃貸・計」は78%。
- 約2割が自己所有の住居に住んでいる。13%が「自己所有マンション」である。
- 国籍別にみると、「スリランカ」、「中国（香港含む）」、「アメリカ」、「台湾」の「自己所有・計」が3割を超えており高い。
- 「賃貸・計」が相対的に高いのは、「フィリピン」、「ミャンマー」、「ネパール」である。「フィリピン」、「ミャンマー」はいずれも95%を超えている。
- 居住年月が長くなると「自己所有・計」の比率も上がる。
- 「長期（10年以上）」の「自己所有・計」は44%を占めている。

■ 住居種類（全体／単一回答）

Q1.あなたは現在、どのようなお住まいに住んでいらっしゃいますか。

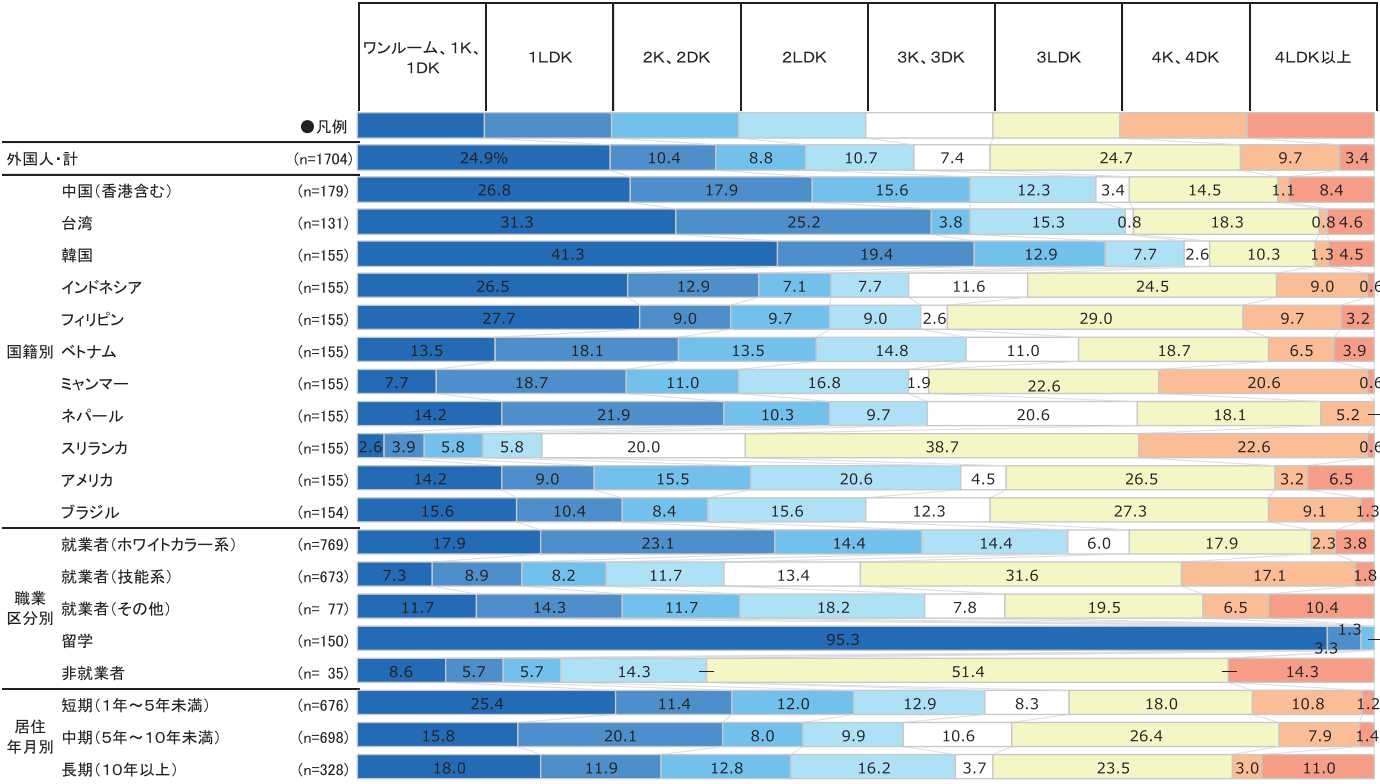


② 間取り

- 最も多いのは「ワンルーム、1K、1DK」と「3LDK」。ともに25%を占める。
- 国籍別にみると、「ワンルーム、1K、1DK」の割合は「韓国」の41%がトップ。「台湾」、「フィリピン」が続く。
- 居住年月別にみると、持ち家の比率が伸びる「中期（5年～10年未満）」で「1LDK」の比率も伸びて2割に。
 - 居住年月が長くなるほど「2LDK」の割合が大きくなるが、「ワンルーム、1K、1DK」および「ワンルーム、1K、1DK」が大きなシェアを占めていることには変わりがない。

■間取り(全体／単一回答)

S5 現在のお住まいの間取りは以下のどれですか。



2.1.2

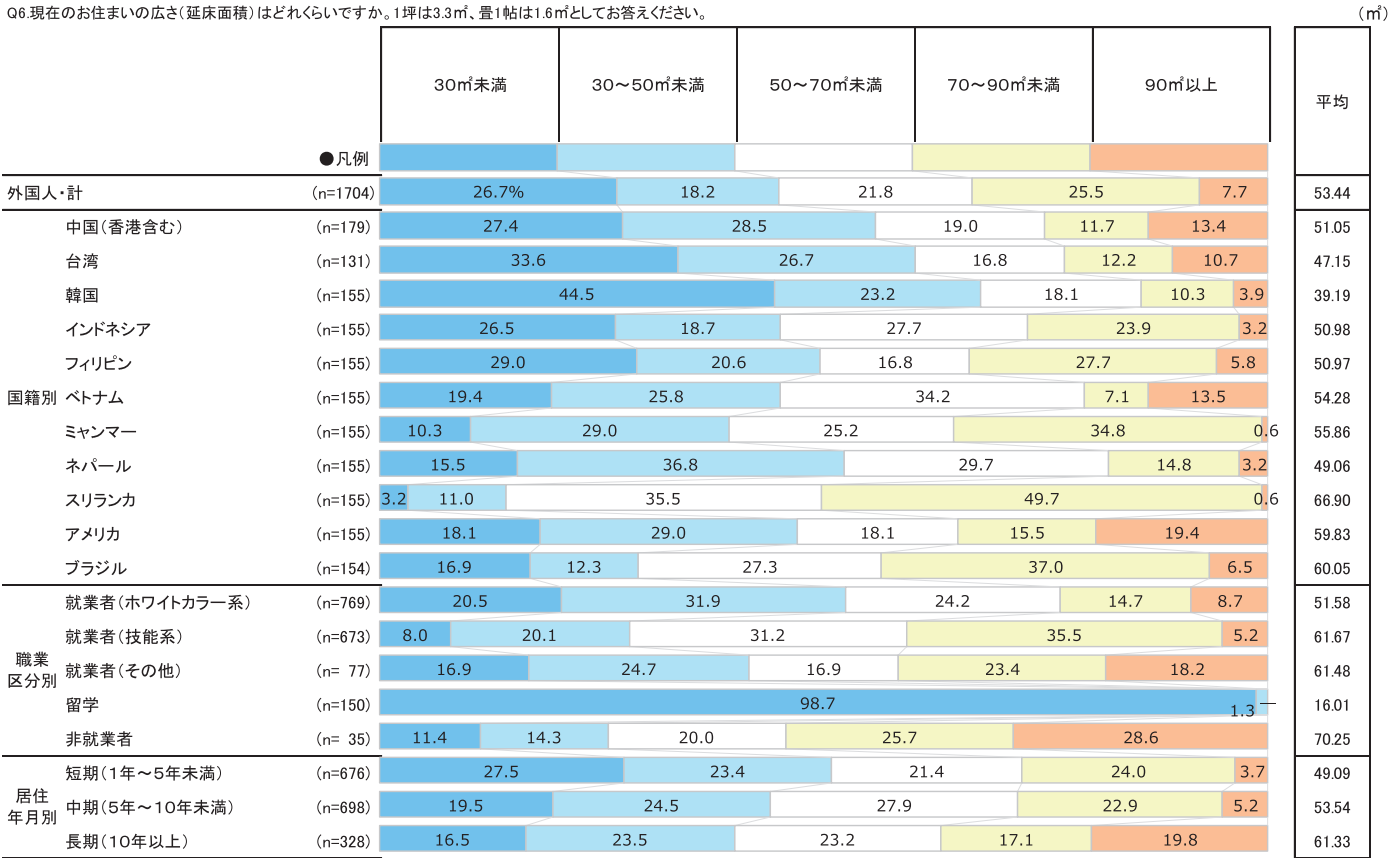
1 居住実態

3 広さ

- 最も多いのは「30㎡未満」であり、27%。平均は53㎡である。
- 70㎡以上の住居に住む者は3割強。
- 国籍別にみると、「韓国」の平均39㎡が最も狭い。「台湾」、「ネパール」も平均は40㎡台である。
- 平均平米数が高いのは、「スリランカ」、「ブラジル」、「アメリカ」など。なお、「90㎡以上」の比率は「アメリカ」、「ベトナム」、「中国（香港含む）」が相対的に高い。
- 居住年月が長くなるにつれ、平均平米数も大きくなる傾向にある。

■ 広さ（全体／実数回答）

Q6. 現在のお住まいの広さ（延床面積）はどれくらいですか。1坪は3.3㎡、畳1帖は1.6㎡としてお答えください。



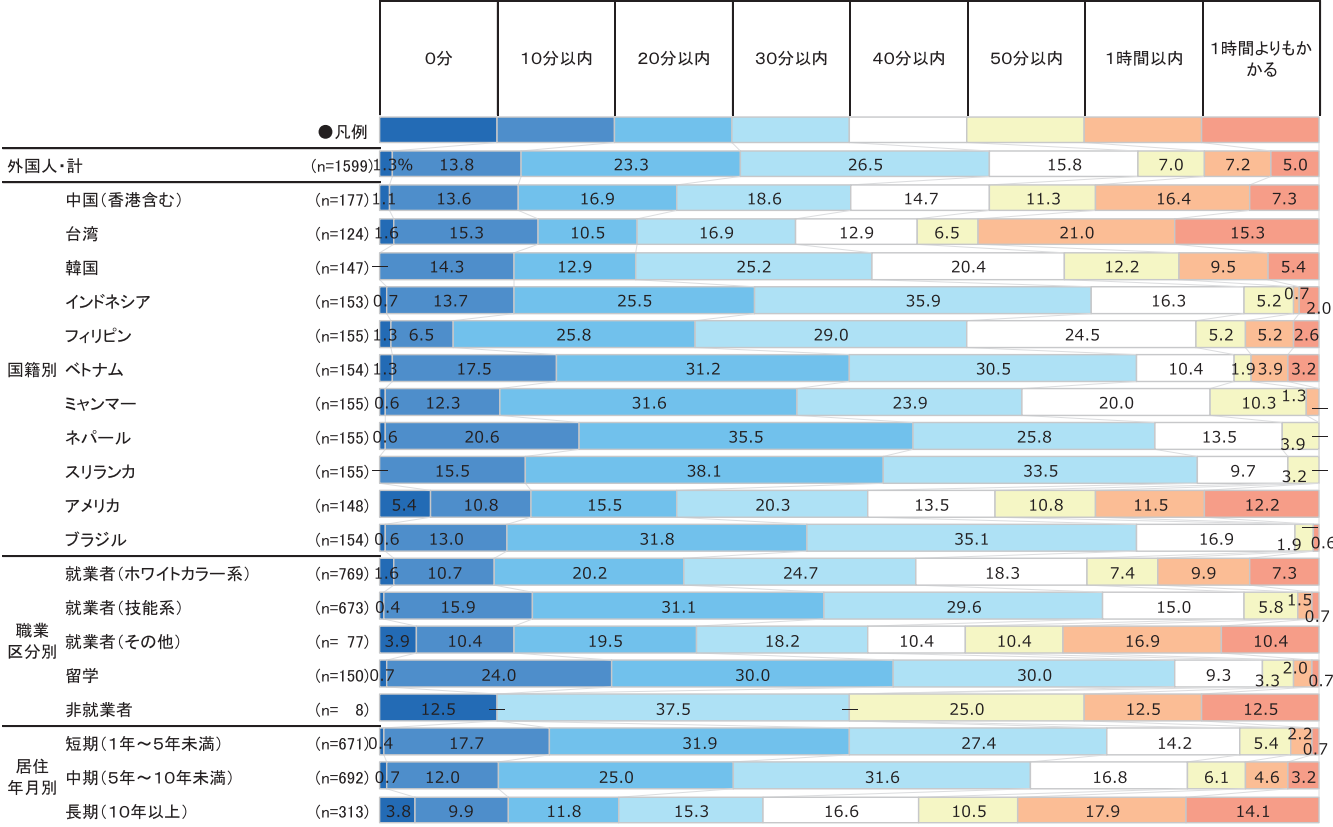
2_1_3

④ 通勤・通学時間

- 「30分以内」以下が全体の6割程度を占める。
- 職業区分別にみると、「40分以内」以上かかるとする比率が最も高いのは、(「非就業者」を除けば)「就業者(ホワイトカラー系)」である。
- 居住年月が長くなると、おおそ通勤・通学時間も長くなる傾向がみられる。

■ 通勤・通学時間(専業主婦(夫)以外の方)／単一回答)

Q7.通勤・通学時間はドアツードアで何分ですか。



2-1.4

1 居住実態

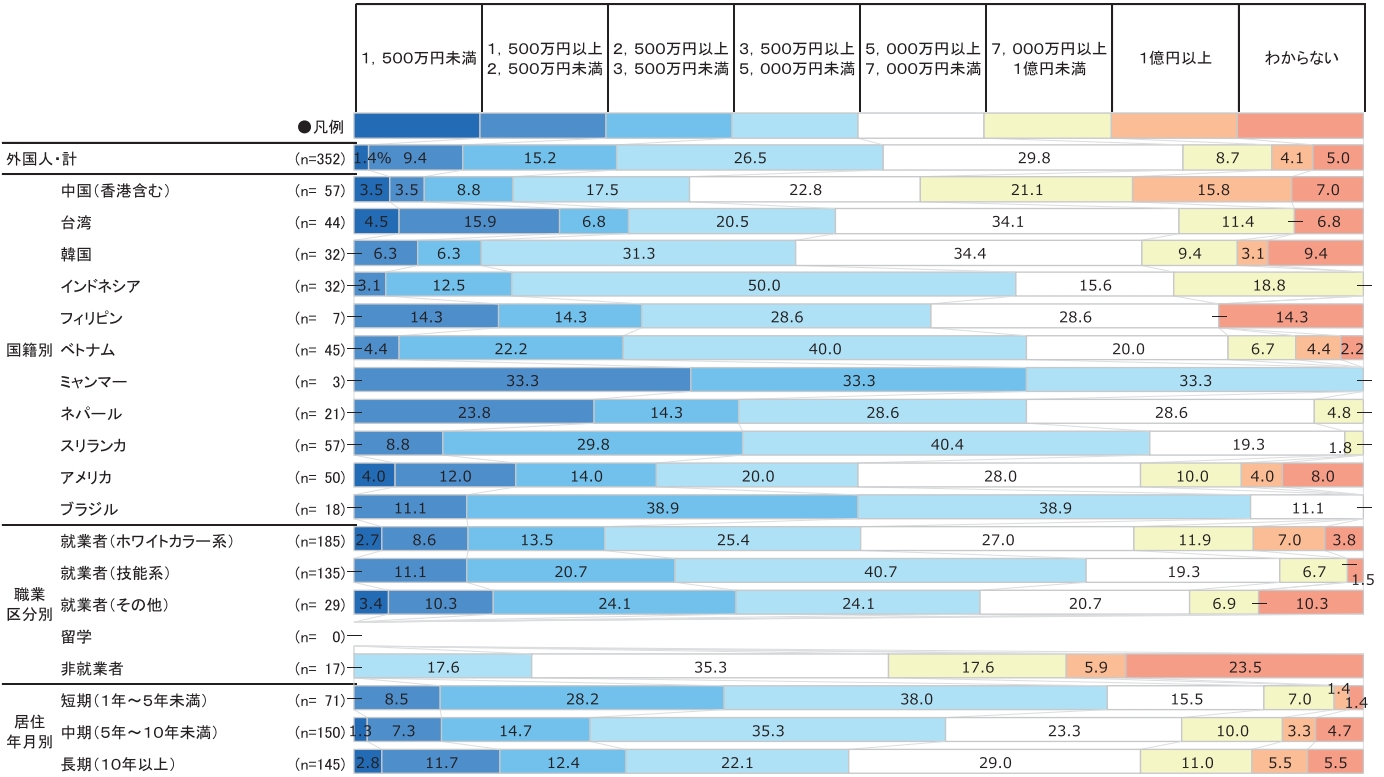
5 物件価格

▶住宅を自己保有している者にその購入価格を聞いた。

- 「5,000万円以上7,000万円未満」が3割。「3,500万円以上5,000万円未満」が27%で続く。
- 国籍別にみると、「中国（香港含む）」の購入価格の高さが目立つ。7,000万円以上が1/3を超えている。

■物件価格（住まいが自己所有の方／単一回答）

Q9.おおよそで構いませんので、現在のお住まいの価格はいくらでしたか。税金等の諸費用は含めずお答えください。※価格がわからない方は、「わからない」をお選びください。



2.1.5

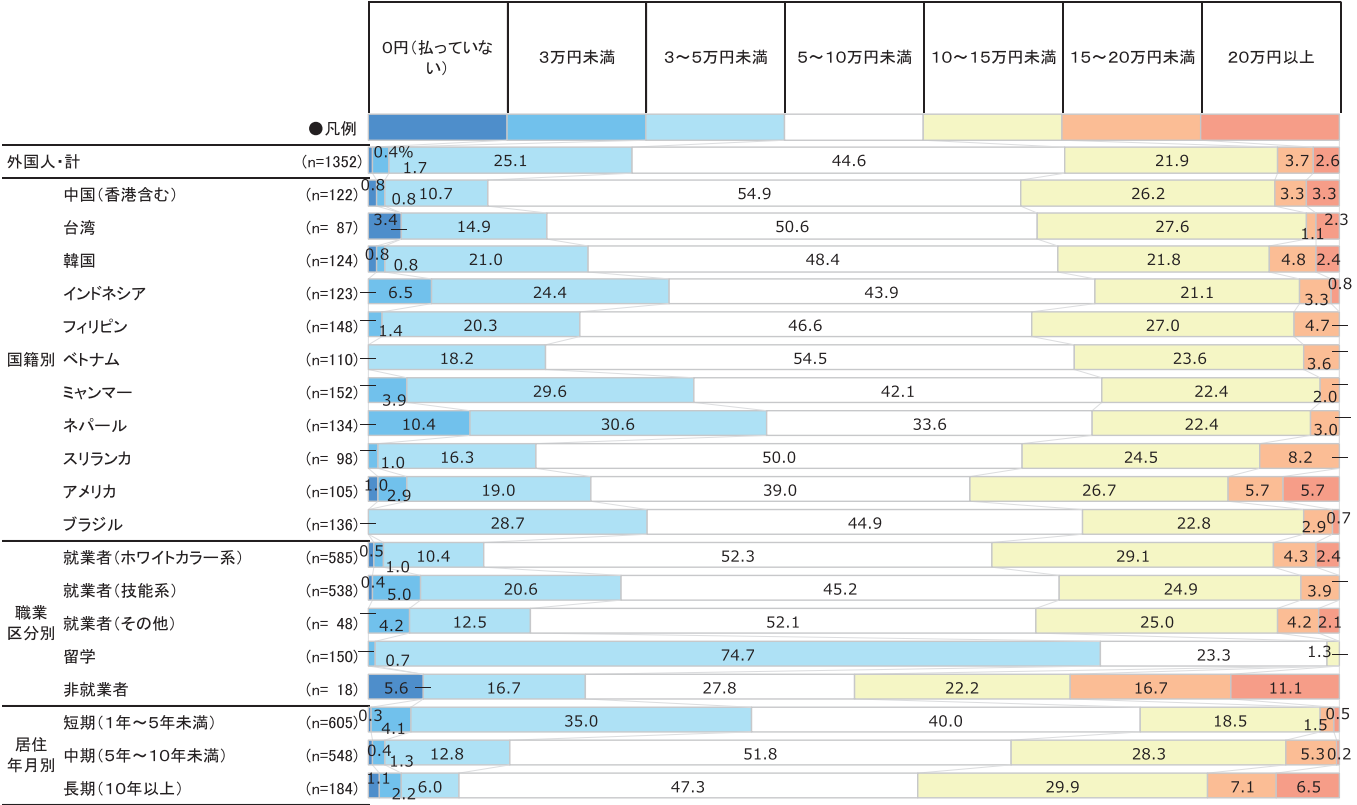
6 賃料

▶賃貸住宅に居住している者にその賃料を聞いた。

- 全体のボリュームゾーンは「5～10万円未満」で45%である。
- 「10～15万円未満」以上の割合が高いのは、「アメリカ」、「中国（香港含む）」、「スリランカ」、「フィリピン」など。
- 居住年月が長いほど賃料も高くなる傾向にある。

■賃料（住まいが自己所有以外の方／単一回答）

Q11.現在のあなたの住居の月額賃料はいくらくらいですか。※ご自分の世帯で実際に支払っている費用をお答えください。※ルームシェアしている方はあなたの負担分をお答え下さい。



2_1_6

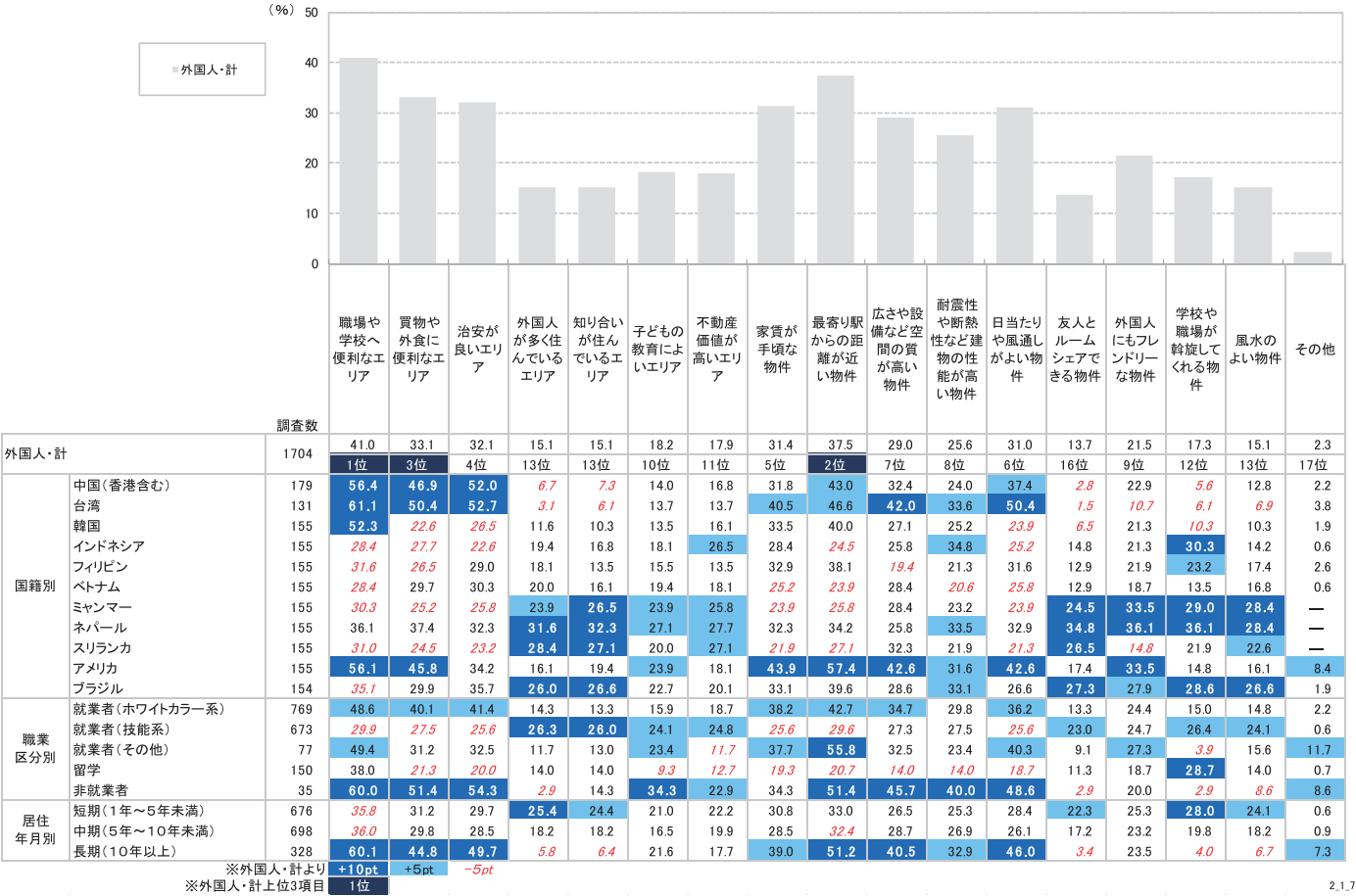
2 住まい探しの実態

① 住まい選びの重視条件

- 住居選びの重視条件として、最も比率が高いのは「職場や学校へ便利なエリア」で4割強。
- 以下、「最寄り駅からの距離が近い物件」、「買物や外食に便利なエリア」、「治安が良いエリア」が続く。利便性と安全性が、求められる条件の上位にあるといえそうだ。
- 利便性と安全を求める傾向が強いのは、「中国（香港含む）」、「台湾」。
- 重視条件は、すべての国籍で共通ではない。
- 「最寄り駅からの距離が近い物件」の比率が高いのは「中国（香港含む）」、「台湾」、「韓国」、「アメリカ」などだが、「ミャンマー」、「ネパール」、「スリランカ」、「ブラジル」などは「外国人が多く住んでいるエリア」、「知り合いが住んでいるエリア」、「友人とルームシェアできる物件」、「風水のよい物件」などが共通して高い。

■ 住まい選びの重視条件（全体／複数回答）

Q2.今の住まいを探す時に、あなたが希望していた条件はどのようなものですか。あてはまるものをすべてお選びください。

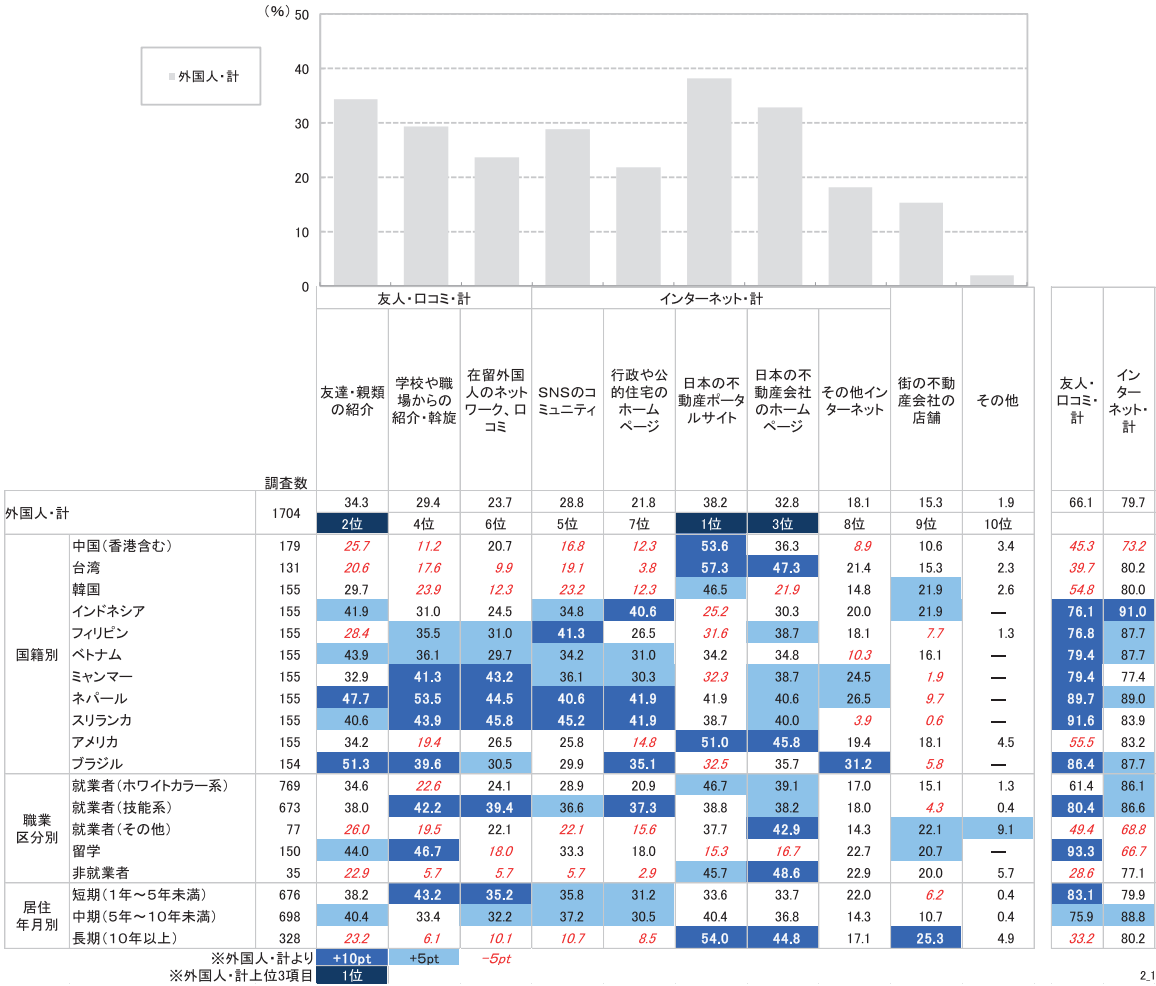


② 住まい探しの情報源

- 在留外国人の「住まい探しの情報源」で多いのは、「日本の不動産ポータルサイト」であり、4割弱。「友達・親類の紹介」、「日本の不動産会社のホームページ」が3割前半で続く。
- 国籍別にみた場合、「アメリカ」、「中国（香港含む）」、「台湾」、「韓国」の「友人・ロコミ・計」の比率が低く、「インターネット・計」が高いことがわかる。それ以外の国籍は、すべて「友人・ロコミ・計」が全体平均よりも高い。
- 特に「ミャンマー」、「ネパール」、「スリランカ」、「ブラジル」などは、「学校や職場からの紹介・斡旋」、「在留外国人のネットワーク、ロコミ」が高いのが特徴である。

■ 住まい探しの情報源(全体／複数回答)

Q3.今の住まいを探す時に使った情報源は何ですか。



2.1.8

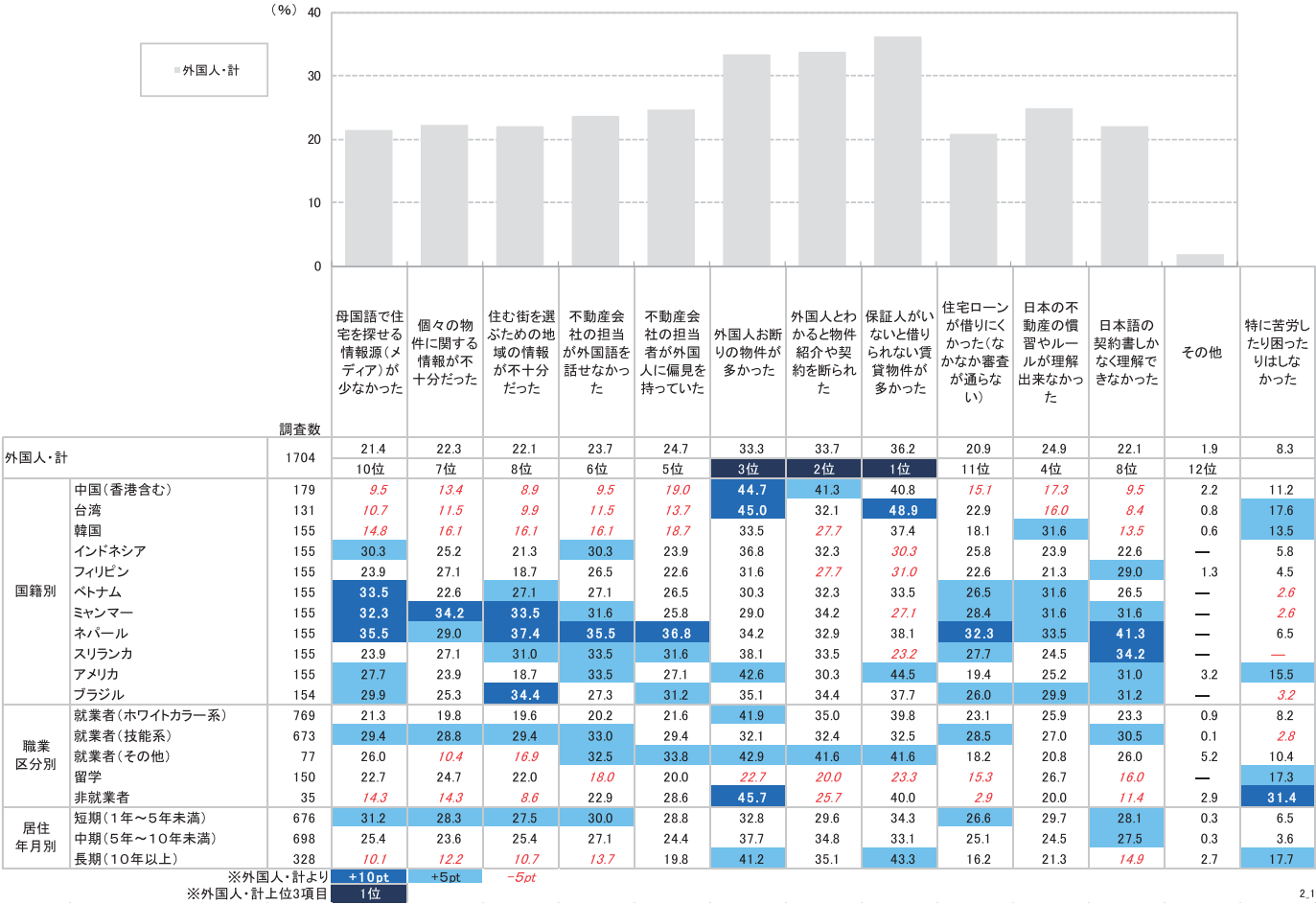
2 住まい探しの実態

3 住まい探しで困ったこと

- 在留外国人が「住まい探しで困ったこと」の比率の上位は、
「保証人がいないと借りられない賃貸物件が多かった」
「外国人とわかると物件紹介や契約を断られた」
「外国人お断りの物件が多かった」
であり、いずれも30%を超える。
- 上記を国籍別にみると、「中国(香港含む)」や「台湾」の「外国人お断りの物件が多かった」や「保証人がいないと借りられない賃貸物件が多かった」が相対的に高いことがわかる。
- これに対して「ミャンマー」、「ネパール」、「スリランカ」、「ブラジル」、「ベトナム」などは、「母国語で住宅を探せる情報源(メディア)が少なかった」や「住む街を選ぶための地域の情報が不十分だった」、「不動産会社の担当が外国語を話せなかった」など、住宅探し・決定の段階での苦労や困りごとが多くなっている。

■ 住まい探しで困ったこと(全体／複数回答)

Q4.あなたが日本での住居を探す時、苦労したり困ったりした点がありましたか。あてはまるものをすべてお選びください。



3 住宅満足度

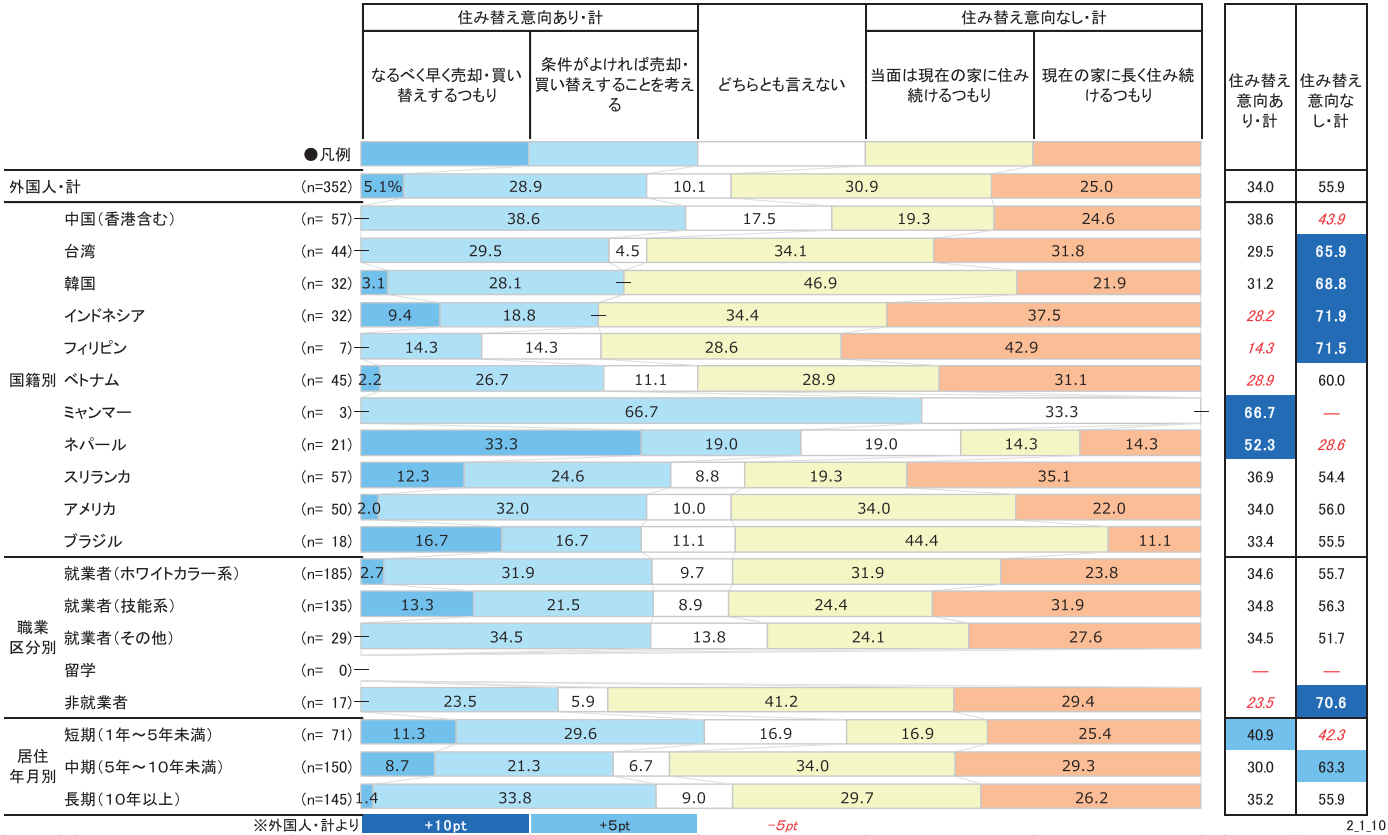
① 住み替えの予定

▶住宅を自己所有している者に住み替え意向を聞いた。

- 住み替え意向がある者は34%。「住み替え意向なし・計」(56%)の方が20ポイント以上上回る。
- 国籍別にみると、「中国(香港含む)」、「スリランカ」の「住み替え意向あり・計」が若干高めである。
これに対して「住み替え意向なし・計」は、「台湾」、「韓国」、「インドネシア」、「フィリピン」で7割前後であり、特徴的に高い。
- 職業区分別には各カテゴリーでの差はあまりみられないが、「就業者(技能系)」の「なるべく早く売却・買い替えるつもり」が1割を超えているのが目立つ。

■ 住み替えの予定(住まいが自己所有の方／単一回答)

Q10.現在の家にずっと住み続けるつもりですか、それとも売却・買い替えることを考えていますか。



2_1_10

3 住宅満足度

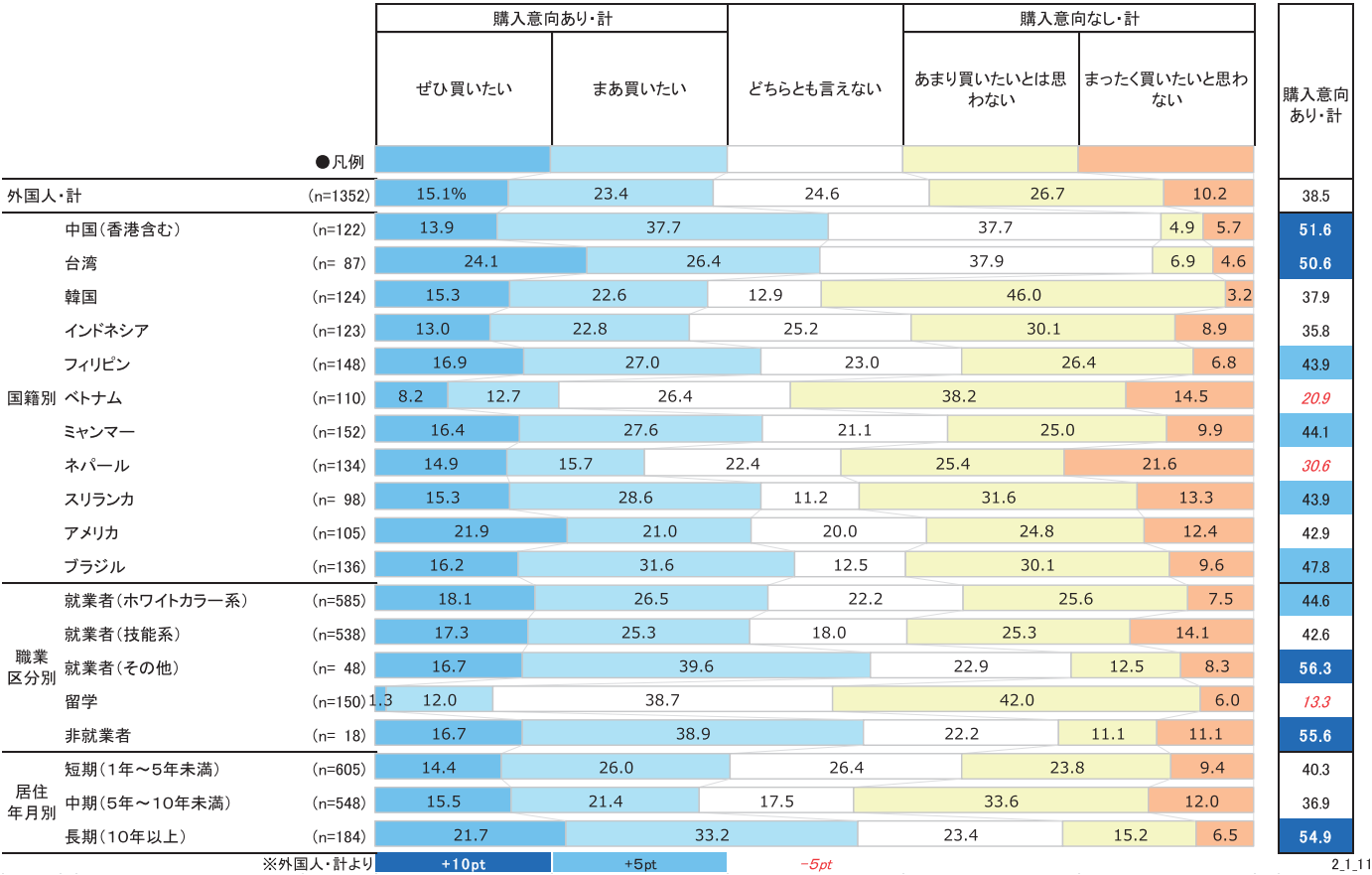
② 日本での住宅購入意向

▶現在の住居が賃貸の者に住宅購入意向を聞いた。

- 今後日本での住宅購入意向がある者（「購入意向あり・計」）は4割弱。
- 「購入意向あり・計」のスコアが相対的に高いのは、「中国（香港含む）」、「台湾」であり、半数を超えている。
- 居住年月が長くなるほど、「ぜひ買いたい」の比率が上昇するが、「長期（10年以上）」の比率の高さが目立つ。

■ 日本での住宅購入意向（住まいが自己所有以外の方／単一回答）

Q12.あなたは、今後日本で自分の持ち家を買いたいと思いますか？

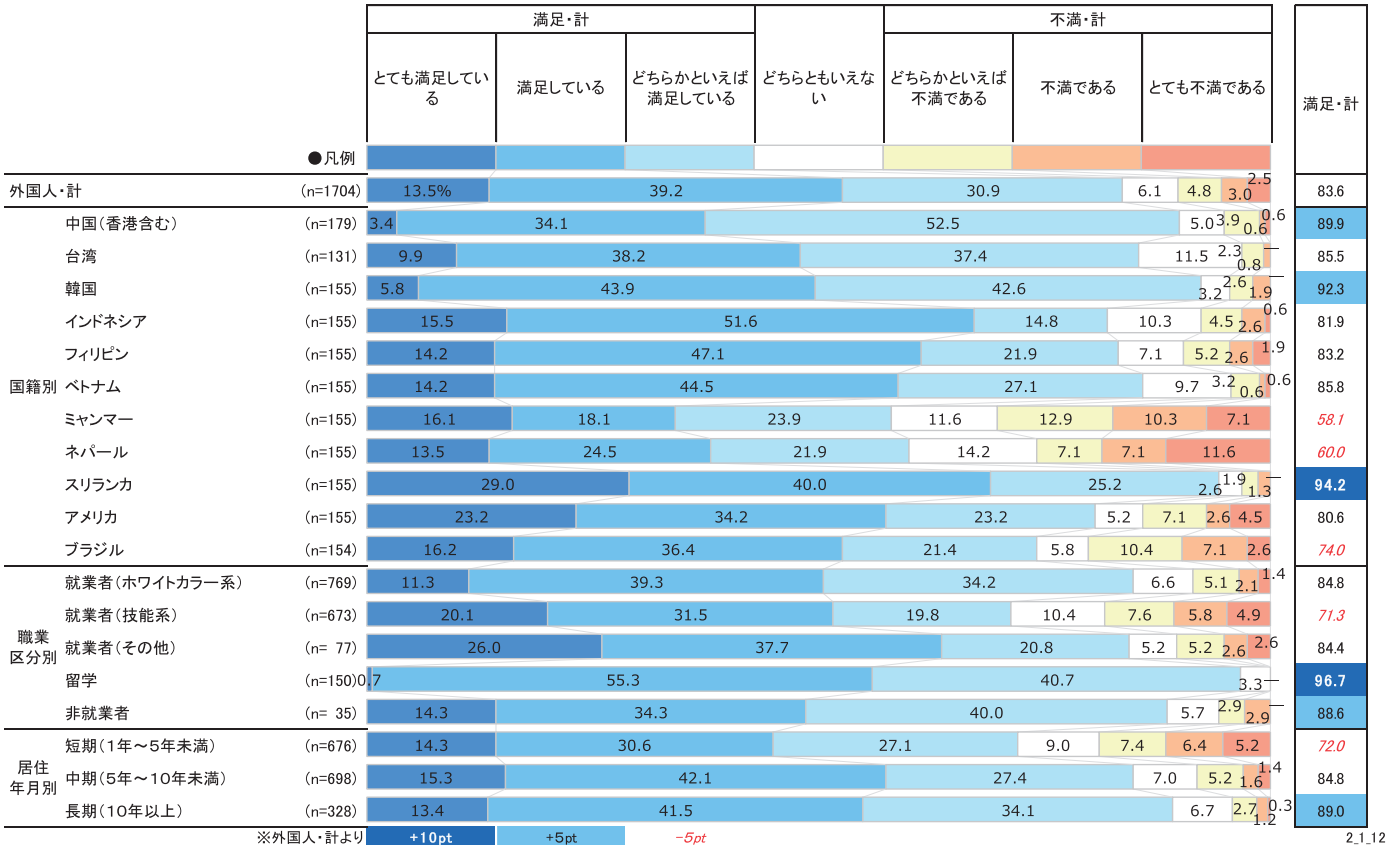


③ 住居満足度

- 現在の住居に、「とても満足している」または「満足している」と回答した者（「満足・計」）の比率は8割を超えている。
- 国籍別には、「ミャンマー」、「ネパール」の「満足・計」が6割前後にとどまる。「ブラジル」の「満足・計」も相対的に低い。いずれも「賃貸」の多い国籍である。

■ 住居満足度(全体／単一回答)

Q15.あなたは、「現在のお住まい」について、どの程度満足していますか。



2_1_12

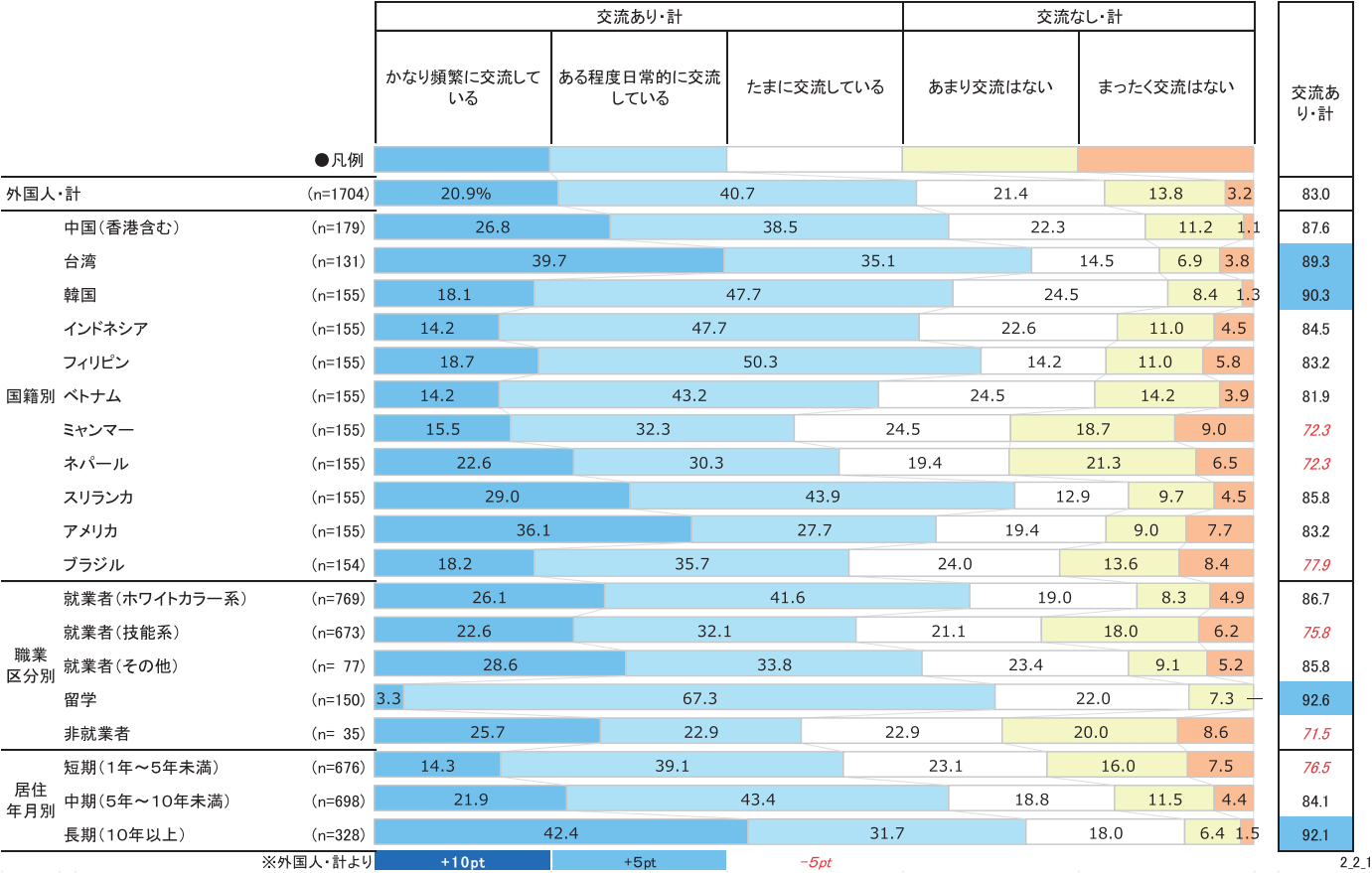
2. 日本人との交流実態と希望

① 日本人との交流頻度

- 日頃の生活で日本人と交流がある（「交流あり・計」）のは8割強。
 - 「かなり頻繁に交流している」と「ある程度日常的に交流している」とを合わせた「交流あり・計」を国籍別にみると、「中国（香港含む）」、「台湾」、「韓国」は相対的にスコアが高い。
 - 一方で「交流あり・計」が低いのは、「ベトナム」、「ミャンマー」、「ブラジル」などである。
 - 居住年月が長くなるほど「交流あり・計」の比率は高くなる。
 - なお職業区分別には、「就業者（技能系）」よりも「就業者（ホワイトカラー）」の方が高い。

■ 日本人との交流頻度（全体／単一回答）

Q16 あなたは日頃の生活において、日本人とどの程度の交流がありますか。※仕事上の交流も含めてお答えください。



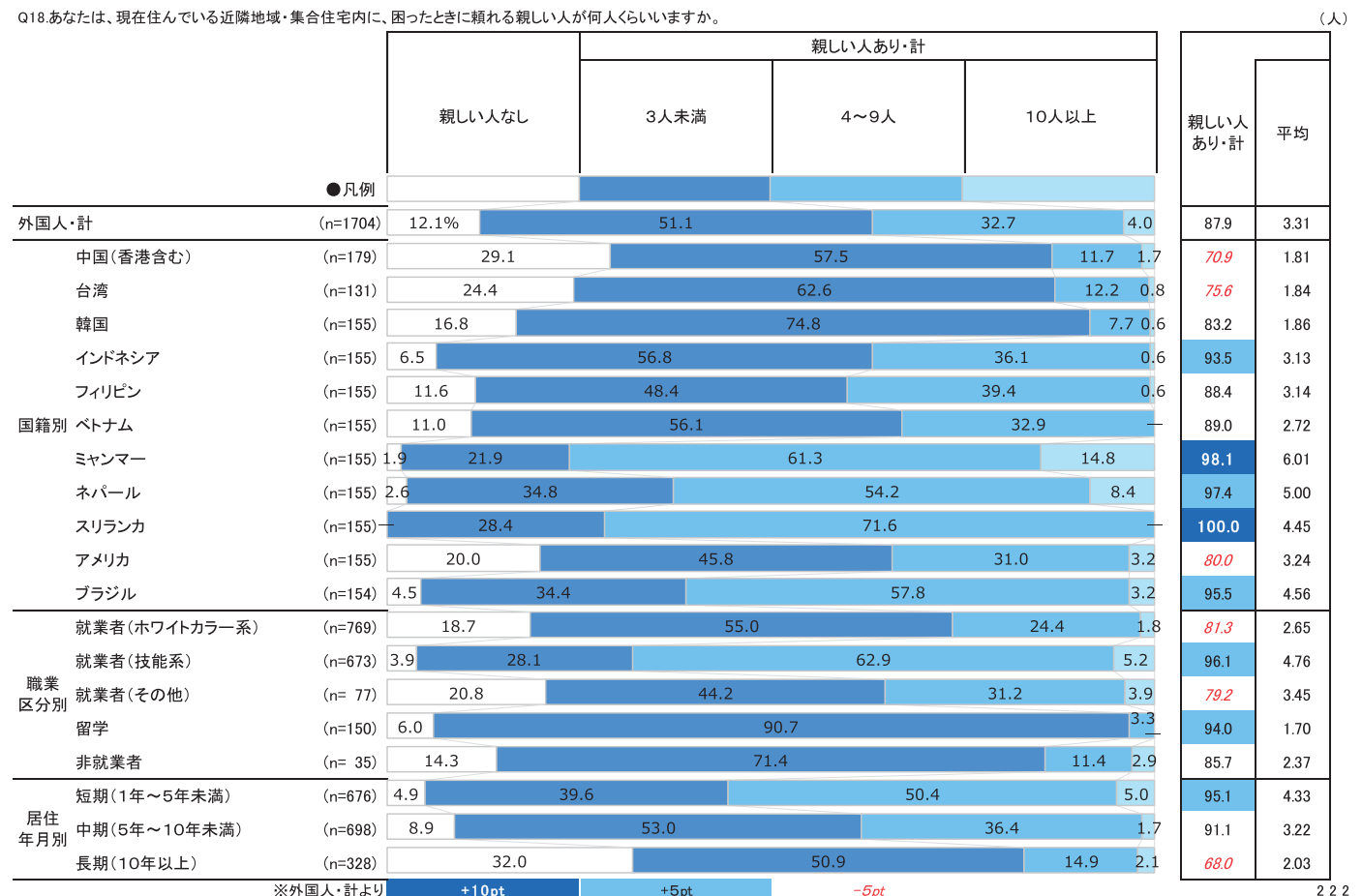
② 頼れる友人・知人の数

■ 困った時に頼れる友人がいる者（「親しい人あり・計」）は9割弱。平均3.3人。

- 国籍別にみて、「中国（香港含む）」、「台湾」の「親しい人あり・計」が平均よりも低く、いずれも7割台にとどまる。「親しい人あり・計」の少なさでは、「アメリカ」、「韓国」が続く。
- 一方、「親しい人あり・計」が多いのは「スリランカ」で100%。続く「ミャンマー」、「ネパール」、「ブラジル」も95%を超えている。
- 「親しい人あり・計」の比率を職業区分別にみると、「就業者（技能系）」、および「留学」が相対的に高い。
- また同様に、居住年月が長くなるほど「親しい人あり・計」の比率も下がる傾向にあり、国籍別の影響が大きいことがうかがえる。

■ 頼れる友人・知人の数（全体／実数回答）

Q18 あなたは、現在住んでいる近隣地域・集合住宅内に、困ったときに頼れる親しい人が何人くらいいますか。



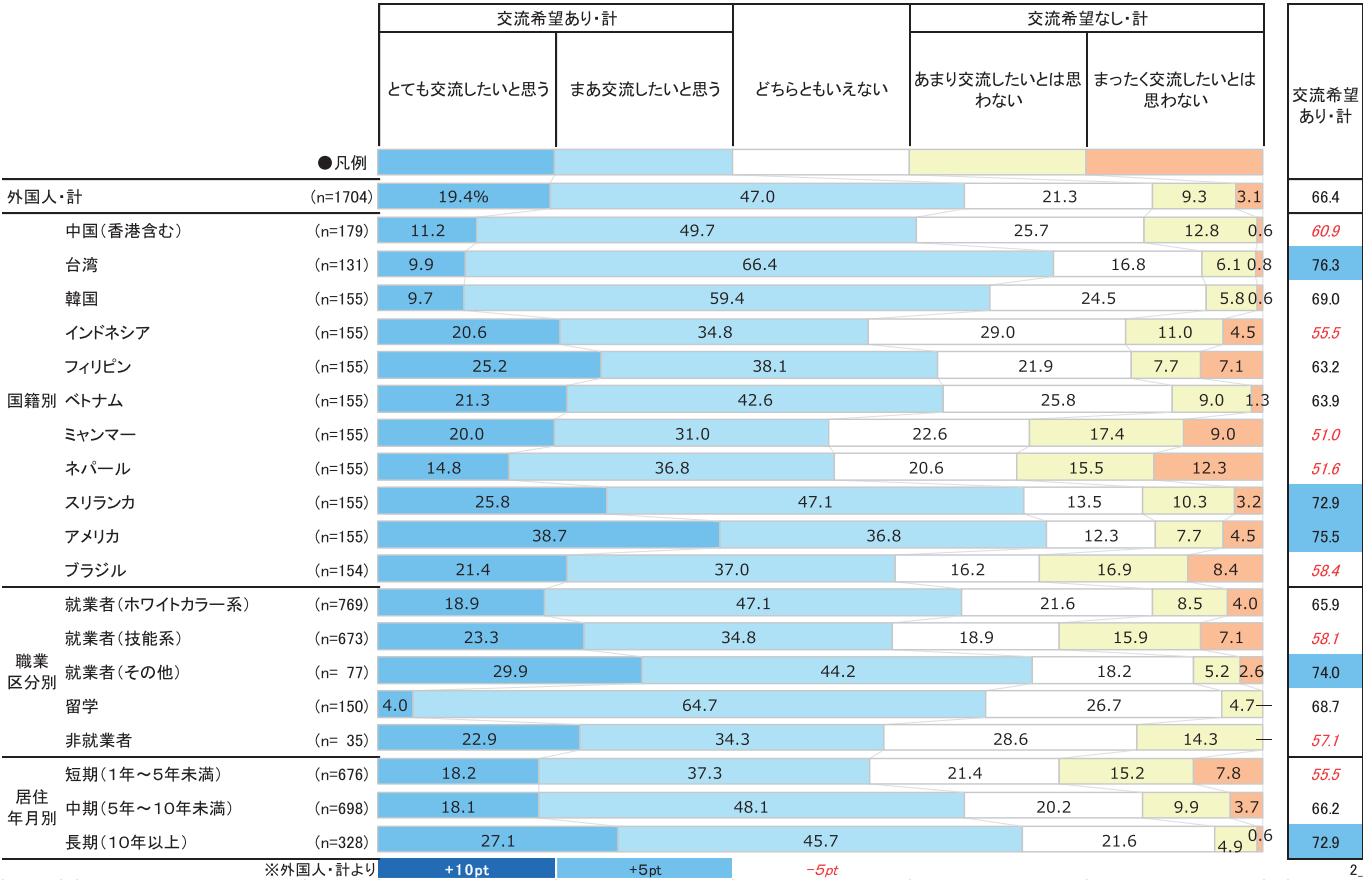
2.2.2

③ 交流の希望

- 日本人との交流希望がある者（「交流希望あり・計」）は66%。
 - 先にみた、実際の「交流あり・計」（8割強）よりも低い。
 - 「交流希望あり・計」が高いのは、「台湾」、「アメリカ」、「スリランカ」などで、7割を超えている。
一方、同スコアが低いのは、「ミャンマー」、「ネパール」、「インドネシア」などであるが、いずれも50％は上回っている。
 - なお、実際の「交流あり・計」では「就業者（技能系）」が「就業者（ホワイトカラー）」を上回ったが、交流希望では「就業者（ホワイトカラー）」の方が高くなっている。

■ 交流の希望（全体／単一回答）

Q17.あなたは日常生活において、日本人との程度「交流したい」と思っていますか。



3. 日本の生活に対する在留外国人の評価

① 日本に住もうと思ったきっかけ

■ 日本に住もうと思ったきっかけの第1位は「日本の街が清潔できれいだから」。

● 同じく【社会制度・生活環境】に属する「日本社会の治安や秩序が安心だから」、「国が発展していて生活水準が高いから」や、「自国よりも給料のよい仕事があるから」が3割弱で続いている。

▶ 国籍別にみると、「日本社会の治安や秩序が安心だから」をはじめ、「アメリカ」、「中国（香港含む）」の【社会制度・生活環境】に属する項目の比率が高いことがわかる。

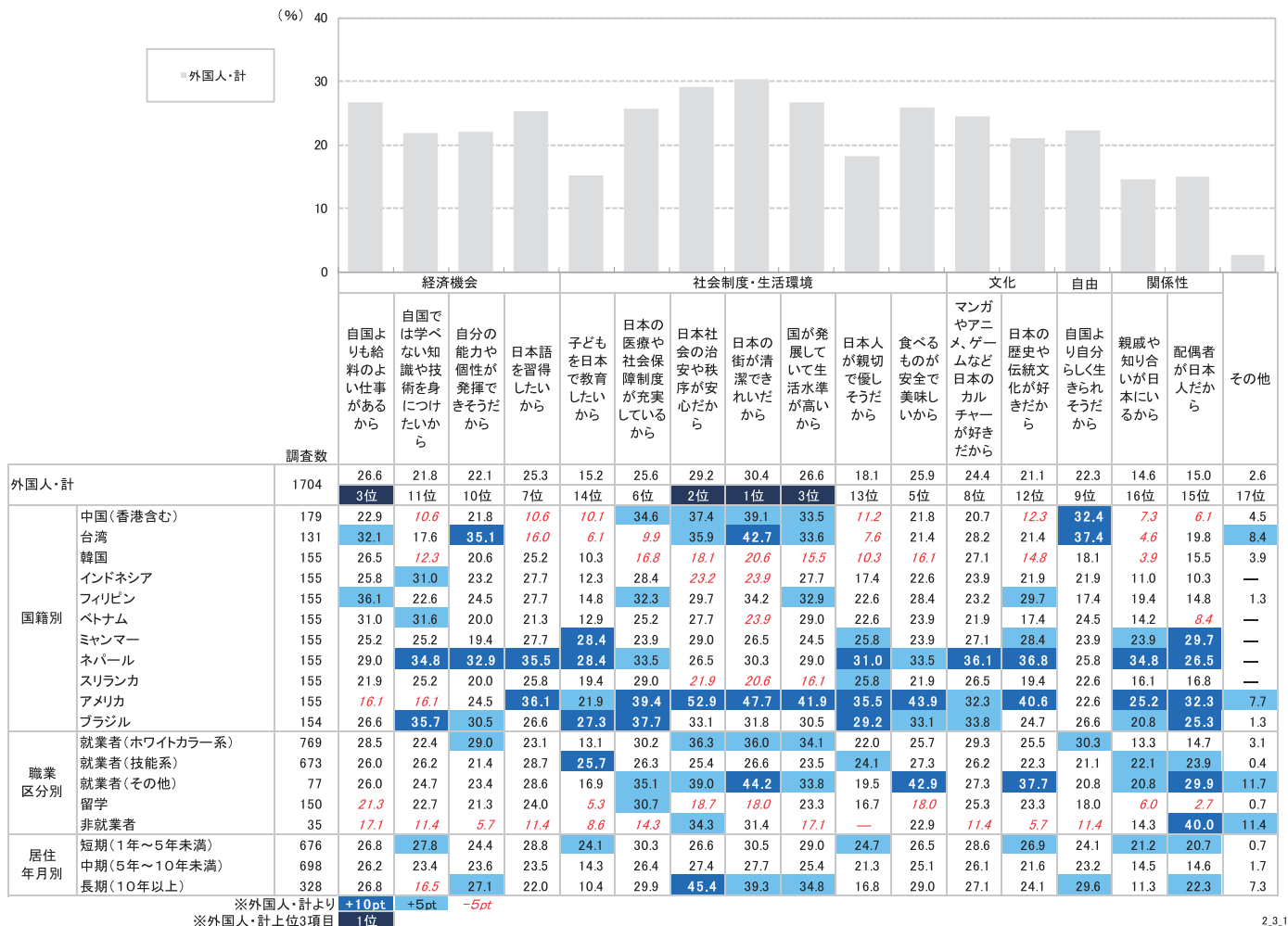
▶ 「中国（香港含む）」、「台湾」の「自国より自分らしく生きられそうだから」が、いずれも3割を超えている点も注目されよう。

▶ 同時に、「ネパール」は「自国では学べない知識や技術を身につけたいから」などの【経済機会】関連項目、および「マンガやアニメ、ゲームなど日本のカルチャーが好きだから」などの【文化】関連項目の比率の高さが目立つ。ちなみに「ネパール」以外で「マンガやアニメ、ゲームなど日本のカルチャーが好きだから」が相対的に高いのは、「台湾」、「アメリカ」、「ブラジル」などである。

▶ また、「ミャンマー」、「ネパール」、「アメリカ」、「ブラジル」などは、「親戚や知り合いが日本にいるから」はじめ【関係性】の項目の比率が相対的に高い。

■ 日本に住もうと思ったきっかけ（全体／複数回答）

Q22. そもそもなぜあなたは日本に住もうと思ったのですか。



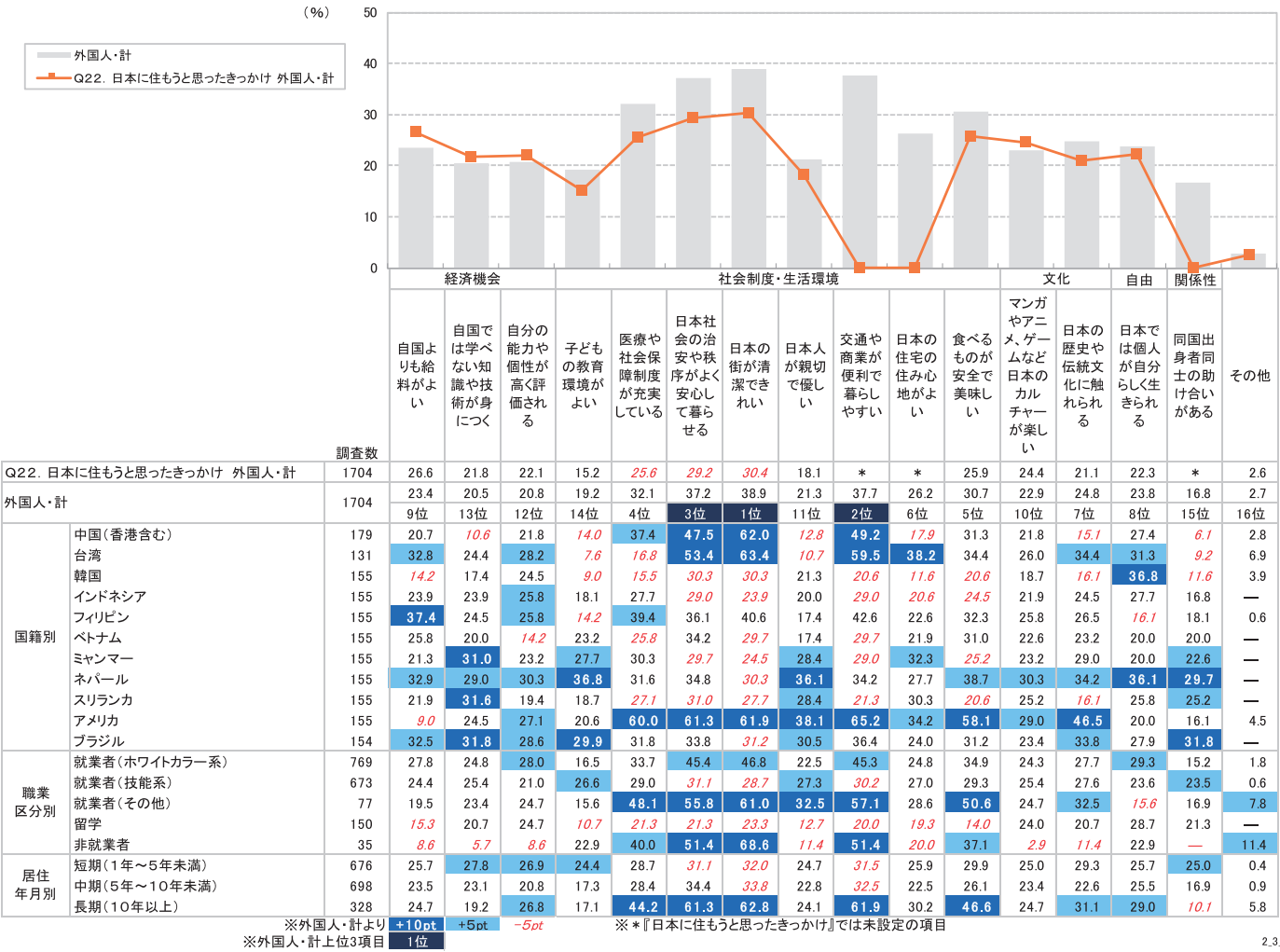
2.3.1

② 暮らして感じた日本の魅力

- 日本に「住んでよかった」と感じる点の第1位は「日本の街が清潔できれいだから」。前項「きっかけ」よりも比率が上昇している。
- 第2位は（「きっかけ」では聞いていないが）「交通や商業が便利で暮らしやすい」。「日本の街が清潔できれいだから」と拮抗している。
- 「きっかけ」として高水準にあった「日本社会の治安や秩序がよく安心して暮らせる」、「医療や社会保障制度が充実している」も比率が大きくアップしている。
- 一方で、「きっかけ」としては第2位だった「自国よりも給料がよい」は、その比率を下げている。
- 総じて、【社会制度・生活環境】関連項目は来日後に評価が大きく伸びるが、【経済機会】に関する項目は若干ながら評価を落とす傾向にある。

■ 暮らして感じた日本の魅力（全体／複数回答）

Q22.日本でもらしてみて、「日本に住んでよかった」と感じる点はどうなところですか。あてはまるものをすべてお選びください。



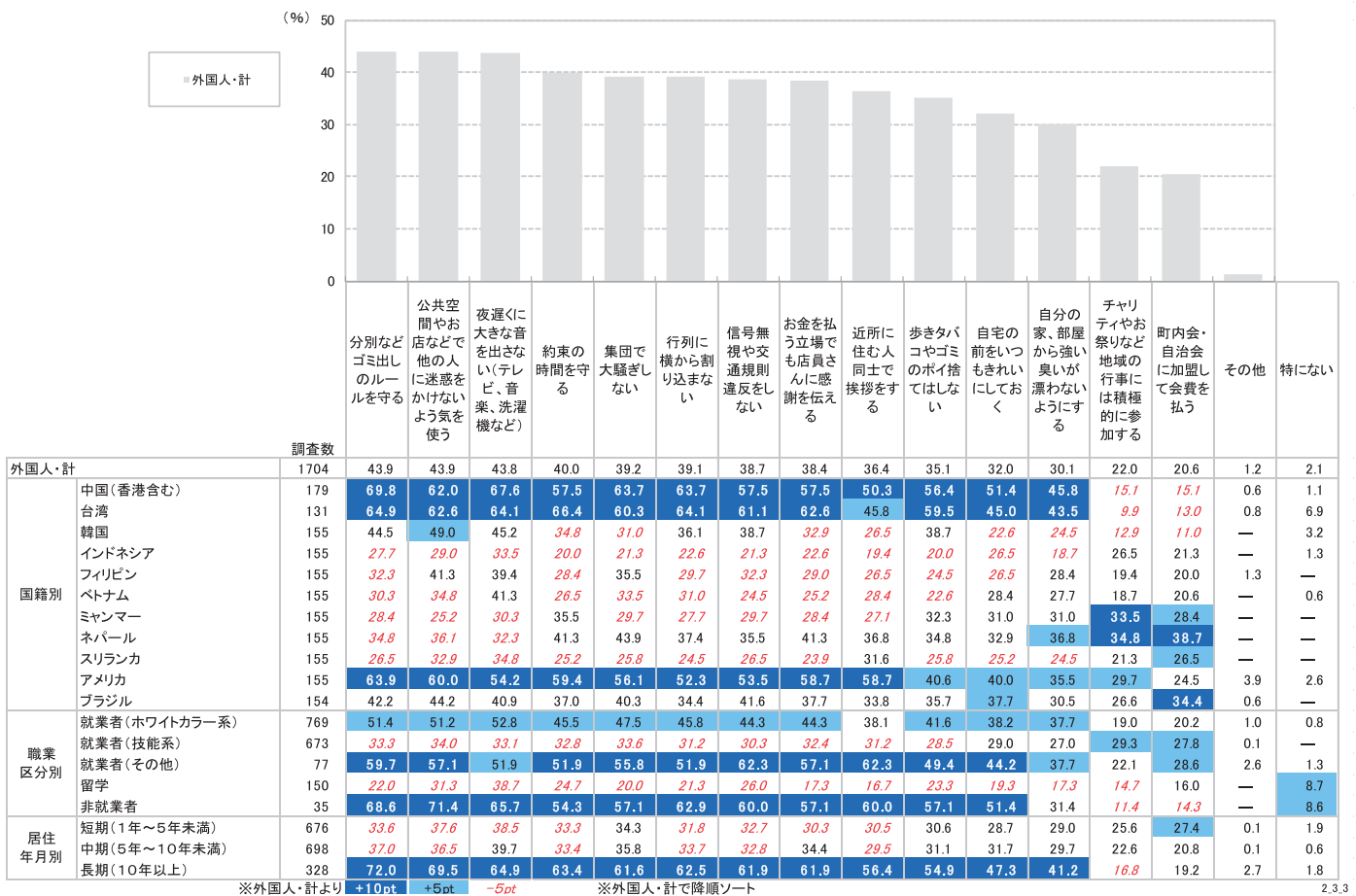
③ 暮らしで気を配っていること

■ トップは「分別などゴミ出しのルールを守る」。

- 以下、「公共空間やお店などで他の人に迷惑をかけないよう気をを使う」、「夜遅くに大きな音を出さない」、「約束の時間を守る」まで4割を超えている。
- 国籍別にみると、「中国（香港含む）」、「台湾」、「アメリカ」は、気を配っているという回答が全体に多い。「チャリティやお祭りなど地域の行事には積極的に参加する」、「町内会・自治会に加盟して会費を払う」など、地域コミュニティに関連するもの以外のほとんどの項目が50%を超えている。
- なお、「チャリティやお祭りなど地域の行事には積極的に参加する」、「町内会・自治会に加盟して会費を払う」が高いのは「ミャンマー」、「ネパール」である。

■ 暮らしで気を配っていること(全体／複数回答)

Q19.現在、あなたが生活するうえで、どのようなことに気を配っていますか。



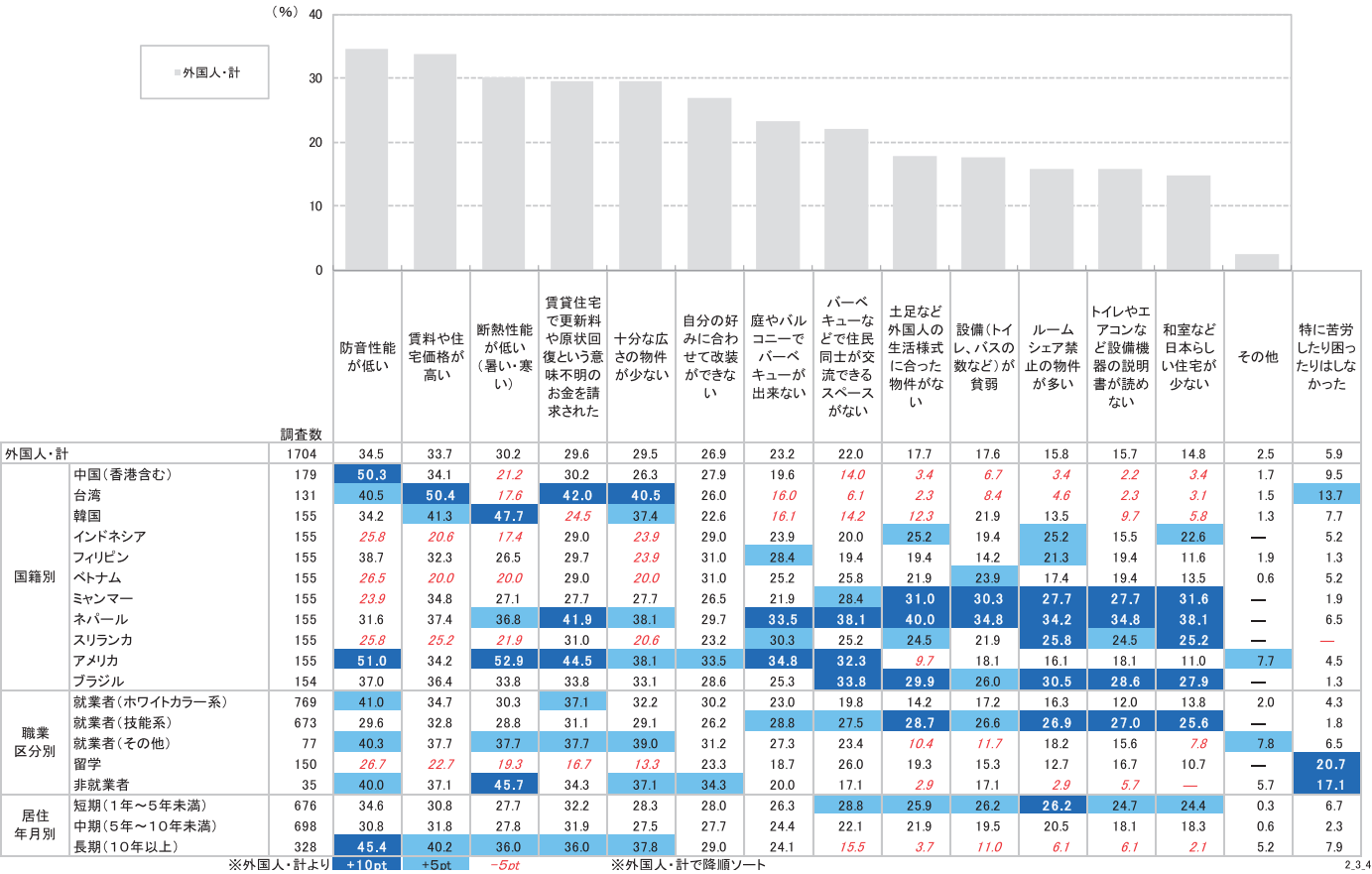
2.3.3

④ 住んでから困ったこと【ハード面】

- 在留外国人の「住んでから困ったハード面」では、「防音性能が低い」がトップであり、「賃料や住宅価格が高い」、「断熱性能が低い（暑い・寒い）」が3割以上で続く。
- 「賃貸住宅で更新料や原状回復という意味不明のお金を請求された」や、「十分な広さの物件が少ない」もほぼ3割で続いている。
- 国籍別にみると、「防音性能が低い」は特に「アメリカ」、「中国（香港含む）」、「台湾」の比率が高い。特に「アメリカ」は、「断熱性能が低い（暑い・寒い）」に加え、「十分な広さの物件がない」など、住宅の基本性能やスペックに関する不満が強いようだ。
- 「中国（香港含む）」は「防音性能が低い」のみが突出して高く、「台湾」、「韓国」は「賃料や住宅価格が高い」、「十分な広さの物件が少ない」が高い点が共通するなど、同じアジア圏の国でも不満のあり方が異なっている。
- その他、「ネパール」、「スリランカ」、「ブラジル」には共通して相対的に高い項目がある。「バーベキューなどで住民同士が交流できるスペースがない」、「ルームシェア禁止の物件が多い」などの交流に関わる項目や、「設備（トイレ、バスの数など）が貧弱」、「トイレやエアコンなど設備機器の説明書が読めない」などの住宅設備に対する不満が高いようだ。

■ 住んでから困ったこと【ハード面】（全体／複数回答）

Q13.あなたが、日本の住宅に実際に住んでみて、不満に思うことはありますか。あてはまるものをすべてお選びください。※過去すべてのお住まいについてお答えください。



⑤ 住んでから困ったこと【ソフト面】

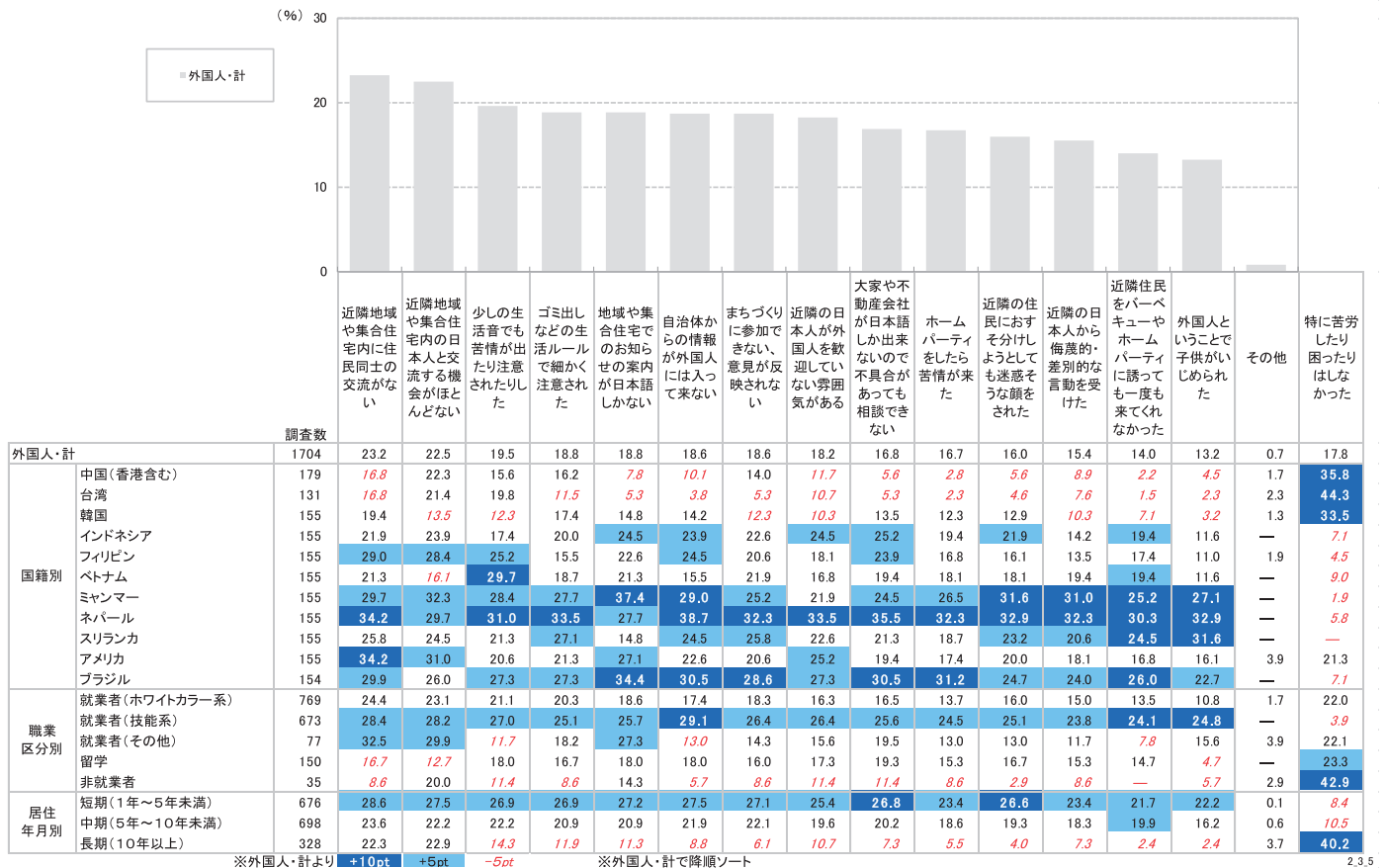
■ 在留外国人の「住んでから困ったソフト面」では、

- 「近隣地域や集合住宅内に住民同士の交流がない」、
- 「近隣地域や集合住宅内の日本人と交流する機会がほとんどない」という、近隣コミュニティ内での交流の少なさに関する項目や、
- 「少しの生活音でも苦情が出たり注意されたりした」、
- 「ゴミ出しなどの生活ルールで細かく注意された」などの生活ルールに関する項目、
- 「自治体からの情報が外国人には入って来ない」などの、公益情報が届きにくいといった不満が上位に並ぶ。

- 国籍別にみると、「中国（香港含む）」、「台湾」、「韓国」の全項目にわたる比率の低さが目立つ。
- それとは対照的に、「ミャンマー」、「ネパール」、「ブラジル」の比率が総じて高くなっている。

■ 住んでから困ったこと【ソフト面】(全体／複数回答)

Q14.あなたが今住んでいる地域や集合住宅のコミュニティについて、苦労したり困ったりした点はありましたか。あてはまるものをすべてお選びください。※過去すべてのお住まいについてお答えください。



6 外国人問題に対する意見

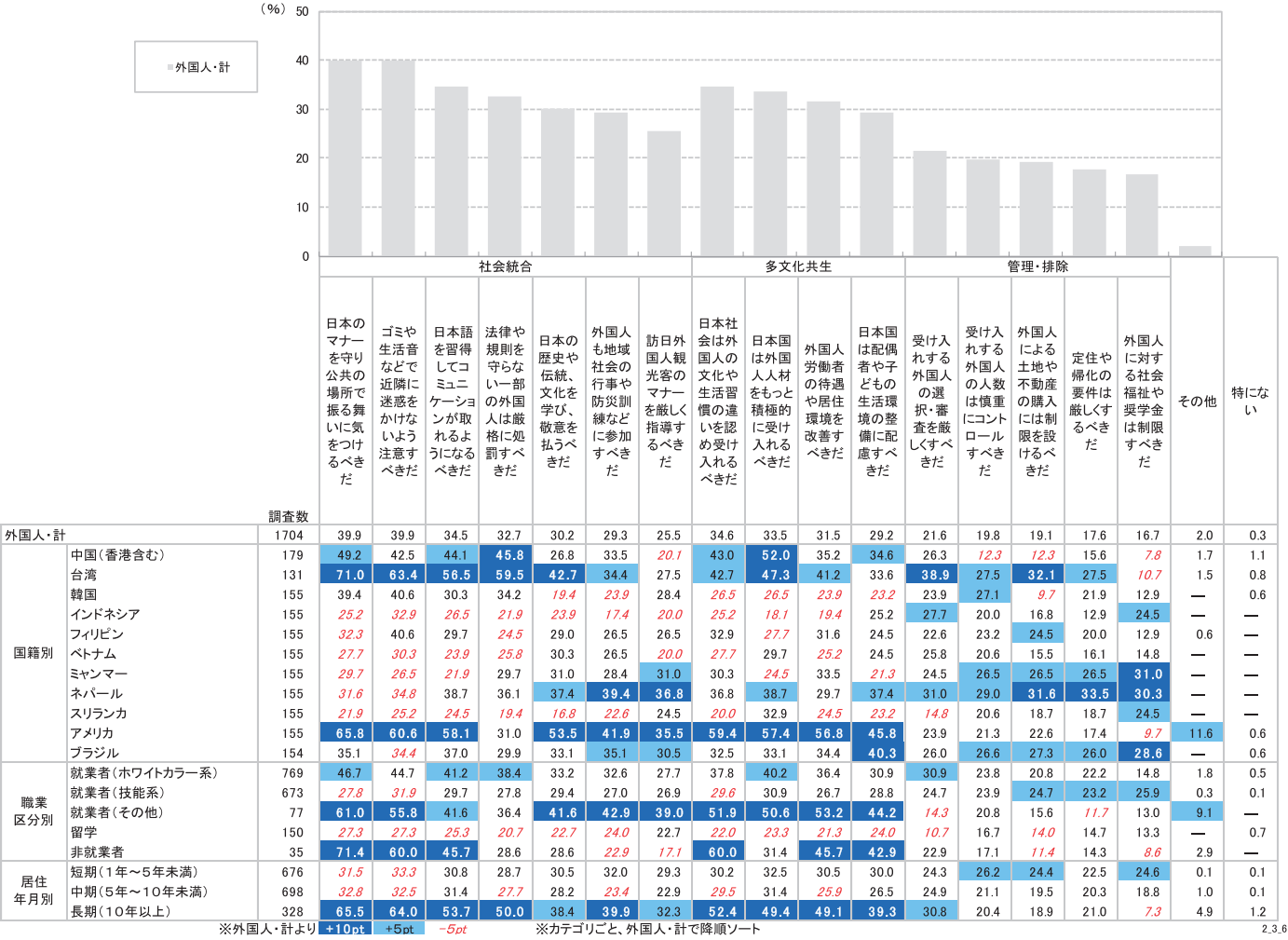
- ▶いわゆる“日本における外国人の問題”として巷間耳にする典型的な考え方・意見を提示し、その評価を聞いた。
- ▶ここでは便宜上3つに分類したが、【多文化共生】だけが「日本（国）に求められること」という意味合いを持つ。

- 「ゴミや生活音などで近隣に迷惑をかけないように注意すべきだ」など、【社会統合】関連の項目は、「台湾」、「アメリカ」が突出して高い。
- 「日本のマナーを守り公共の場所で振る舞いに気をつけるべきだ」、「日本語を習得してコミュニケーションが取れるようになるべきだ」など、50%を大きく超える項目も多い。
- また「台湾」、「アメリカ」は、自分の暮らして気を配っている項目の比率が総じて高かったことも留意すべきである。自分にも他人にも一定の規律を求めているといえよう。
- なお「台湾」は、「受け入れする外国人の選択・審査を厳しくすべきだ」といった【管理・排除】に関する項目の比率も高くなっている。
- 自分の暮らして気を配っている項目の比率が総じて高かった「中国（香港含む）」の場合、他の外国人へのオーダーはそれほど強くないようだが、【多文化共生】に関する項目、例えば「日本国は外国人人材をもっと積極的に受け入れるべきだ」などの日本社会への要望が強いことが特徴的である。

▶なお後ページで、「在留外国人が外国人に求めること」と「日本人が外国人に求めること」の対比を行っている。

外国人問題に対する意見（全体／複数回答）

Q27.日本社会にも移民に対してさまざまな意見があります。以下にあげるような外国人に対する日本人の意見で、あなたが賛同できるものがあればすべてお選びください。



在留外国人調査サマリー

住居形態は、自己所有 2 割、賃貸 8 割弱。平均 53㎡の広さ

- 「中国（香港含む）」「台湾」「スリランカ」「アメリカ」は、自己所有が3割を超える。
- 広さで最も多いのは「30㎡未満」、平均は53㎡。70㎡以上の住居に住む者は3割強。

平均居住年数は 6.9 年

- 居住年数が長くなるほど持ち家率や住宅面積が上昇し、10年以上居住する層では持ち家が44%に達する。
- 現在賃貸の人でも4割弱に住宅購入意向がある。

住まいへの満足度は高いが、借りるまでには壁がある

- 住まい探しは、日本の「不動産ポータルサイト」「不動産会社のホームページ」と「友人・口コミ」に二分される。前者は「中国（香港含む）」「台湾」、後者は「ネパール」「ブラジル」などが多い。
- 現在の住居への満足度は8割を超える。
- ただし、「保証人がいない」「外国人とわかると断られた」「外国人お断りの物件が多い」などで困った経験はいずれも3割を超える。

住宅選びの基本ニーズは、利便性と安全性

- 「職場・学校への便利さ」「駅への近さ」「買い物・外食の便利さ」「治安」が上位を占める。
- 一方、国籍によっては、知人や外国人コミュニティとのつながりを重視する傾向も強い。

外国人自身も、日本のルールやマナーを意識して暮らしている

- ゴミ出し、騒音、臭い、公共空間での振る舞いなどへの配慮が広くみられ、外国人自身も他の外国人に日本のマナーや日本語習得を求めている。
- 特に「台湾」「アメリカ」の、自分で気をつけていること、他の外国人に求めることの比率は日本人を上回る項目が散見される。

日本の魅力は、賃金以上に「暮らしの質」にある

- 清潔さ、治安・秩序、交通・商業の利便性、医療・社会保障などは、実際に暮らした後に評価が高まる。
- 一方、「自国より給料がよい」という評価は低下する。
- また、防音・断熱、住宅価格や広さなどの住宅性能、住民交流の少なさや行政情報の届きにくさなどの地域社会との接点には課題が残る。

全体としてみえてくるのは、在留外国人が日本の魅力（清潔さ、治安・秩序、利便性など）に惹かれて来日し、周囲に気を配りながら生活し、その良さを再認識・再発見していく姿である

- ただし、住宅市場への入口や地域社会との接点には、なお外国人と日本人との間に意図や努力の差があるといえよう。

MEMO

Handwriting practice area with 30 horizontal dashed lines.

Part 03

在留外国人への
日本人の意識

(日本人調査)

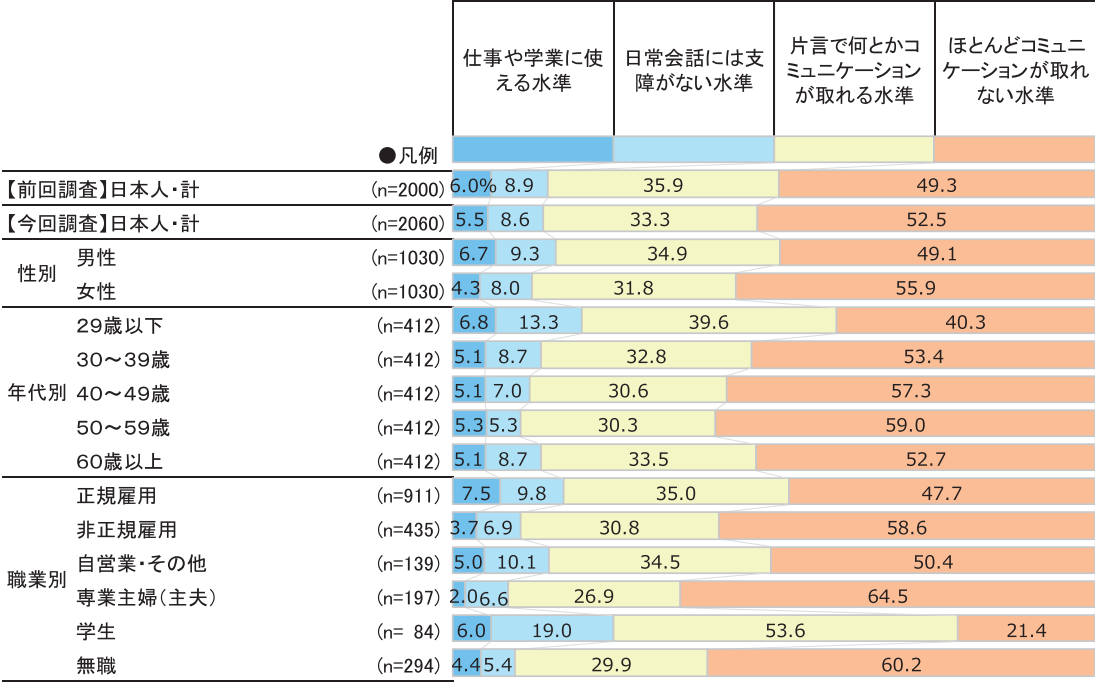
1. 経験・生活・プロフィール

① 外国語習熟度

- 「ほとんどコミュニケーションが取れない水準」が微増、半数を超える。
- 「仕事や学業に使える水準」から「片言で何とかコミュニケーションが取れる水準」まで、各カテゴリーとも微減である。
- 「ほとんどコミュニケーションが取れない水準」は、「29歳以下」と「60歳以上」で相対的に低くなっている。

■ 外国語習熟度（全体／単一回答）

Q3.あなたは、外国語をどの程度使えますか。※最も習熟している日本語以外の言語についてお答えください。



3.1.1

② 海外居住経験

■「日本以外の国に住んだことはない(1か月未満)」が85%。前回調査より3ポイント増加。

●「29歳以下」の「日本以外の国に住んだことはない(1か月未満)」は81%であり、他の年代と比べて少なめである。

■海外居住経験(全体／単一回答)

Q4.あなたはこれまでに、どのくらい長く日本以外の国に住んだことはありますか。※1か月以上、同じ都市・エリアに滞在することを「住む」としてお答えください。※複数回にわたって住んだことがある方は、通算の期間をお答えください。

		1か月～1年未満	1年～3年未満	3年以上	日本以外の国に住んだことはない (1か月未満)
●凡例					
【前回調査】日本人・計		(n=2000)	8.8% 5.2 3.8		82.3
【今回調査】日本人・計		(n=2060)	6.4 3.8 4.5		85.3
性別	男性	(n=1030)	6.5 3.7 4.6		85.2
	女性	(n=1030)	6.2 3.9 4.5		85.4
年代別	29歳以下	(n=412)	8.0 4.9 5.8		81.3
	30～39歳	(n=412)	7.3 3.4 1.7		87.6
	40～49歳	(n=412)	3.9 3.4 3.2		89.6
	50～59歳	(n=412)	6.1 3.4 5.6		85.0
	60歳以上	(n=412)	6.6 3.9 6.3		83.3
職業別	正規雇用	(n=911)	8.7 4.5 5.0		81.8
	非正規雇用	(n=435)	5.3 3.2 3.7		87.8
	自営業・その他	(n=139)	2.9 3.6 2.9		90.6
	専業主婦(主夫)	(n=197)	4.1 3.6 4.1		88.3
	学生	(n= 84)	4.8 4.8 3.6		86.9
	無職	(n=294)	4.4 2.4 5.4		87.8

3.1.2

③ 外国人友人の人数

■ 在留外国人の友人が「いる」のは3割弱。前回調査より7ポイント上昇。

■外国人友人の人数(全体／単一回答／実数回答)

Q5.あなたは日本に住んでいる外国人に、友人が何人くらいいますか。国籍別にお答えください。

		1人もいない	いる・計	無回答	10人未満	10人以上	平均 (人)
●凡例							
【前回調査】日本人・計		(n=439)	78.1%	22.0			
【今回調査】日本人・計		(n=2060)	71.2	28.8	13.8	2.7	7.10
中国人(中国本土、香港含む)		(n=2060)	93.3	6.7	6.4	0.3	0.20
台湾人		(n=2060)	96.3	3.7	3.4	0.3	0.10
韓国人		(n=2060)	93.7	6.3	6.0	0.3	0.20
その他アジア・東南アジア諸国		(n=2060)	94.5	5.5	4.9	0.6	0.30
中東諸国		(n=2060)	98.8	1.2	1.1	—	—
欧米諸国(オーストラリア、ニュージーランド含む)		(n=2060)	95.2	4.8	4.2	0.6	0.30
南米諸国		(n=2060)	98.1	1.9	1.7	0.2	0.10
その他		(n=2060)	86.0	0.7 13.3	0.7	—	—

3.1.3

4 外国人の近隣居住状況

■ 自分の住まいの近隣に外国人が居住しているかどうかを聞いたところ、「ごく近隣に住んでいる」が約1/4を占める。「住んでいない」は37%である。

■外国人の近隣居住状況（全体／単一回答）

Q7.あなたのお住まいの近くに、外国人は住んでいますか。

			ごく近隣に住んでいる	場所はわからないが住 んでいるようだ	住んでいない	
●凡例						
【今回調査】日本人・計			(n=2060)	25.3%	37.9	36.8
性別	男性	(n=1030)	26.7	38.9	34.4	
	女性	(n=1030)	23.9	36.8	39.3	
年代別	29歳以下	(n=412)	19.4	39.8	40.8	
	30～39歳	(n=412)	24.3	38.1	37.6	
	40～49歳	(n=412)	30.1	33.3	36.7	
	50～59歳	(n=412)	24.3	35.2	40.5	
	60歳以上	(n=412)	28.4	43.0	28.6	
職業別	正規雇用	(n=911)	24.8	37.9	37.3	
	非正規雇用	(n=435)	26.7	36.8	36.6	
	自営業・その他	(n=139)	27.3	46.8	25.9	
	専業主婦(主夫)	(n=197)	25.4	35.5	39.1	
	学生	(n= 84)	21.4	40.5	38.1	
	無職	(n=294)	24.8	36.1	39.1	

⑤ 外国人観光客との接触状況

■ 日常生活における外国人観光客との接触状況はどうか。

「日常的にたくさん見かける」は2割強。「よく見かける」まで合わせた「見かける・計」は約5割である。

■外国人観光客との接触状況(全体／単一回答)

Q11.日頃の生活で、外国人観光客と思われる方々を、どの程度目にしますか。

		見かける・計		時々見かける くらい	見かけない・計		見かける・計	見かけ ない・計	
		日常的にたくさ ん見かける	よく見かける		あまり見かけ ない	まったく見かけ ない			
● 凡例									
【今回調査】日本人・計		(n=2060)	21.8%	27.3	24.9	15.3	10.7	49.1	26.0
性別	男性	(n=1030)	21.4	27.6	25.6	14.3	11.2	48.9	25.4
	女性	(n=1030)	22.2	27.1	24.2	16.3	10.2	49.3	26.5
年代別	29歳以下	(n=412)	22.1	34.2	25.0	9.2	9.5	56.3	18.7
	30～39歳	(n=412)	24.3	26.2	24.3	13.3	11.9	50.5	25.2
	40～49歳	(n=412)	20.6	26.9	26.5	14.3	11.7	47.6	26.0
	50～59歳	(n=412)	22.1	23.3	25.0	18.7	10.9	45.4	29.6
	60歳以上	(n=412)	19.9	26.0	23.8	20.9	9.5	45.9	30.3
職業別	正規雇用	(n=911)	25.5	30.7	22.1	13.2	8.6	56.2	21.7
	非正規雇用	(n=435)	19.8	28.5	27.8	14.7	9.2	48.3	23.9
	自営業・その他	(n=139)	20.1	27.3	20.1	20.9	11.5	47.5	32.4
	専業主婦(主夫)	(n=197)	15.7	21.3	26.9	21.8	14.2	37.1	36.0
	学生	(n= 84)	23.8	41.7	17.9	6.0	10.7	65.5	16.7
	無職	(n=294)	17.7	15.0	32.3	18.4	16.7	32.7	35.0
※【今回調査】日本人・計より			+10pt	+5pt	-5pt				

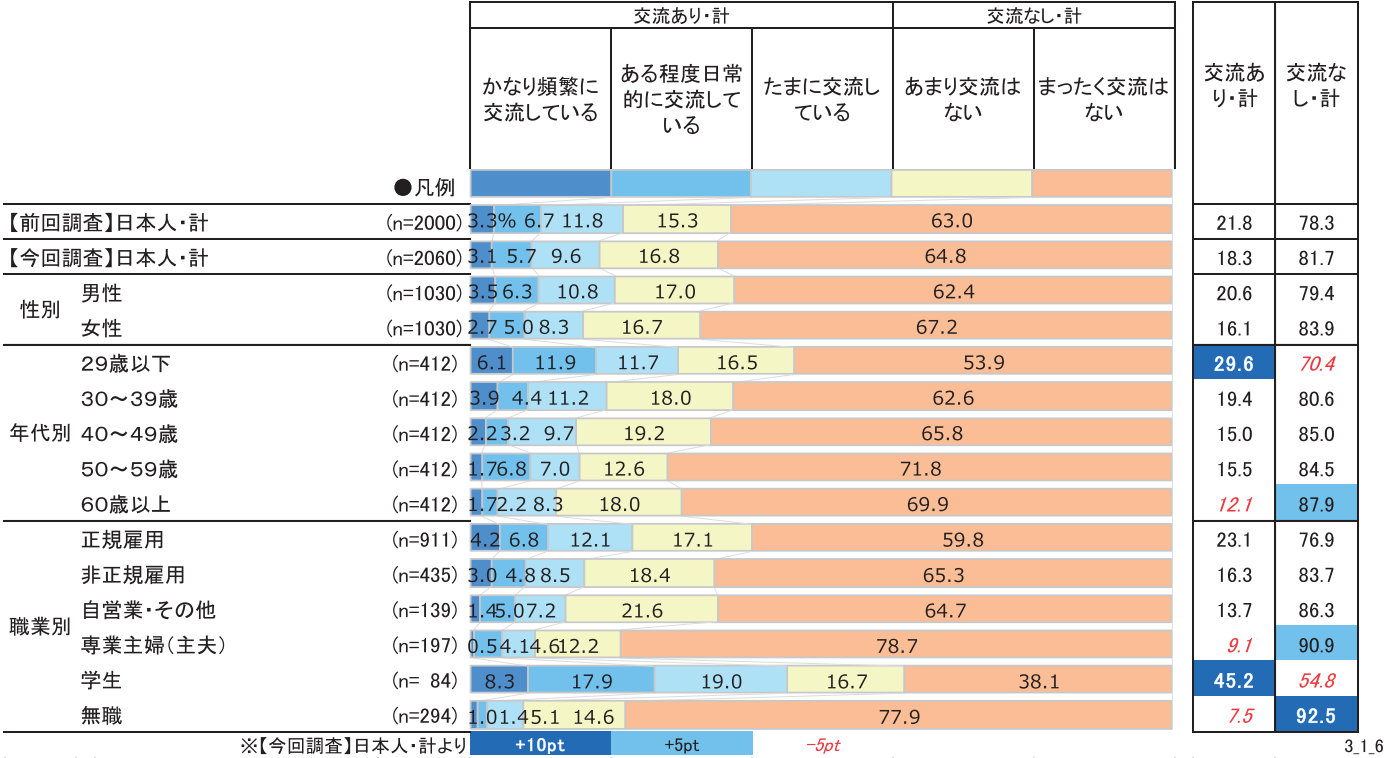
3.1.5

6 外国人との交流頻度

- 日本に住んでいる外国人との交流頻度をみると、「あまり交流はない」と「まったく交流はない」を合わせた「交流なし・計」は82%であり、前回調査から微増。
- 年代別には「29歳以下」の「交流あり・計」が最も高く、年代が高くなるにつれてその割合が減少するが、「60歳以上」でわずかながら反転する。

外国人との交流頻度（全体／単一回答）

Q6.あなたは日頃の生活において、日本に住んでいる外国人と、どの程度の交流がありますか。※仕事上の交流も含めてお答えください。



⑦ 外国人との交流希望

- では、日本に住む外国人との交流希望はどうか。
「とても交流していきたいと思う」と「まあ交流していきたいと思う」を合わせた「交流したい・計」は20%であり、前回調査より10ポイント以上減少している。
- 年代別には、「29歳以下」と「60歳以上」で「交流したい・計」が相対的に高い。職業別では「学生」の同スコアが4割弱と高くなっている。

■ 今後の交流希望（全体／単一回答）

Q22.あなたは、現在住んでいる近隣地域・集合住宅内で、他の住民と交流を今後もっと深めていきたいと思いませんか。

		交流したい・計			交流したくない・計		交流したい・計	交流したくない・計
		とても交流していきたいと思う	まあ交流していきたいと思う	どちらともいえない	あまり交流したいとは思わない	まったく交流したいとは思わない		
● 凡例								
【前回調査】日本人・計		(n=2000) 3.7%	28.9	36.7	19.2	11.6	32.6	30.8
【今回調査】日本人・計		(n=2060) 2.2	18.2	35.9	22.7	21.1	20.4	43.7
性別	男性	(n=1030) 2.7	20.2	34.2	20.8	22.1	22.9	42.9
	女性	(n=1030) 1.7	16.2	37.6	24.6	20.0	17.9	44.6
年代別	29歳以下	(n=412) 5.8	19.4	26.7	22.3	25.7	25.2	48.1
	30～39歳	(n=412) 1.5	14.3	33.5	24.8	26.0	15.8	50.7
	40～49歳	(n=412) 1.0	17.5	37.4	23.3	20.9	18.4	44.2
	50～59歳	(n=412) 1.7	15.0	41.5	21.4	20.4	16.7	41.7
	60歳以上	(n=412) 1.0	24.8	40.3	21.6	12.4	25.7	34.0
職業別	正規雇用	(n=911) 2.2	18.7	35.0	21.8	22.3	20.9	44.1
	非正規雇用	(n=435) 1.4	15.6	38.6	24.4	20.0	17.0	44.4
	自営業・その他	(n=139) 2.2	20.9	38.1	21.6	17.3	23.0	38.8
	専業主婦（主夫）	(n=197) 2.0	15.2	35.0	30.5	17.3	17.3	47.7
	学生	(n= 84) 9.5	28.6	28.6	13.1	20.2	38.1	33.3
	無職	(n=294) 1.4	18.4	36.1	20.7	23.5	19.7	44.2
※【今回調査】日本人・計より		+10pt	+5pt	-5pt				

3.1.7.1

- 上記の交流希望を、国籍別にみた結果が以下のグラフである。
「交流したい・計」が最も高いのは「欧米諸国」であり3割。「台湾人」が28%、「韓国人」が19%で続く。
- 「交流したい・計」が最も低いのは「中国人」であり、9%。

■ 【国籍別】交流希望（全体／単一回答）

Q10.あなたは日常生活において、以下の国籍の日本に住んでいる外国人と、どの程度と交流したいと思いませんか。

		交流したい・計			交流したくない・計		交流したい・計	交流したくない・計
		とても交流したいと思う	まあ交流したいと思う	どちらともいえない	あまり交流したいとは思わない	まったく交流したいとは思わない		
● 凡例								
中国人（中国本土、香港含む）		(n=2060) 1.7%	7.4	26.7	19.1	45.1	9.1	64.3
台湾人		(n=2060) 6.3	21.2	36.1	12.8	23.6	27.5	36.4
韓国人		(n=2060) 4.4	14.8	33.7	16.8	30.3	19.2	47.1
その他アジア・東南アジア諸国		(n=2060) 2.9	12.9	40.1	15.8	28.2	15.8	44.0
中東諸国		(n=2060) 2.2	10.6	37.7	17.9	31.6	12.8	49.5
欧米諸国（オーストラリア、ニュージーランド含む）		(n=2060) 6.1	24.1	38.1	11.5	20.3	30.2	31.7
南米諸国		(n=2060) 3.5	14.6	40.7	15.8	25.4	18.1	41.2

3.1.7.2

2. 外国人が増えることへの評価

1 評価

① 外国人が増えることへの評価

■ 日常生活の周辺に外国人が増えることを肯定的にとらえる人が10ポイント程度減少。

- 日常生活の周辺に外国人が増えることの評価をみると、「良いと思う・計」が15%であるのに対し、「良いと思わない・計」は4割を超えた。
- この結果を前回調査と比べると、「良いと思う・計」が約10ポイント減少し、「良いと思わない・計」が約10ポイント増加したことがわかる。
- より若い年代の「良いと思う・計」が高い傾向にあるが、「29歳以下」の「良いと思わない・計」は43%と全体平均を上回っていることに留意すべきである。「良いと思わない・計」が最も高いのは「30～39歳」であり、「50～59歳」、「60歳以上」は30%台にとどまる。

■外国人が増えることへの評価(全体／単一回答)

Q16.あなたは、ご自分の住まいや職場など、日常生活の周辺に外国人が増えることについて、どのように思いますか。

		良いと思う・計			良いと思わない・計		良いと 思う・計	良いと思わ ない・計	
		とても良いと思 う	良いと思う	どちらともいえ ない	あまり良いとは思 わない	まったく良いと思 わない			
●凡例									
【前回調査】日本人・計		(n=2000)	4.9%	20.1	44.2	18.6	12.4	25.0	30.9
【今回調査】日本人・計		(n=2060)	2.4	13.0	43.4	23.7	17.5	15.4	41.2
性別	男性	(n=1030)	3.3	14.3	44.1	21.7	16.6	17.6	38.3
	女性	(n=1030)	1.6	11.7	42.7	25.7	18.3	13.2	44.1
年代別	29歳以下	(n=412)	4.9	17.0	34.7	23.3	20.1	21.8	43.4
	30～39歳	(n=412)	2.4	13.1	37.1	26.7	20.6	15.5	47.3
	40～49歳	(n=412)	2.4	12.1	43.7	23.1	18.7	14.6	41.7
	50～59歳	(n=412)	1.7	12.1	49.8	20.9	15.5	13.8	36.4
	60歳以上	(n=412)	0.7	10.4	51.7	24.8	12.4	11.2	37.1
職業別	正規雇用	(n=911)	3.1	14.2	43.6	22.4	16.8	17.2	39.2
	非正規雇用	(n=435)	1.1	9.4	44.4	26.0	19.1	10.6	45.1
	自営業・その他	(n=139)	2.9	13.7	46.0	22.3	15.1	16.5	37.4
	専業主婦(主夫)	(n=197)	1.0	8.6	44.2	27.4	18.8	9.6	46.2
	学生	(n= 84)	8.3	26.2	32.1	19.0	14.3	34.5	33.3
	無職	(n=294)	1.4	13.3	42.9	24.1	18.4	14.6	42.5
※【今回調査】日本人・計より			+10pt	+5pt	-5pt				
3.2.1.1									

■ 前項のデータを国籍別にみたのが下記グラフである。

「良いと思う・計」が最も高いのは「欧米諸国」(27%)である。これに迫るのが「台湾人」の25%。

- 「良いと思う・計」が最も低いのは「中国人」であり、8%である。
- 先にみた「交流希望」とほぼ同様の結果である。

■【国籍別】外国人が増えることへの評価(全体／単一回答)

Q17.あなたは、ご自分の住まいや職場など、日常生活の周辺に外国人が増えることについて、どのように思いますか。

		良いと思う・計			良いと思わない・計			良いと思う・計	良いと思わない・計
		とても良いと思う	良いと思う	どちらともいえない	あまり良いとは思わない	まったく良いとは思わない			
● 凡例									
中国人（中国本土、香港含む）	(n=2060)	1.1%6.7	29.8	22.6	40.0		7.7	62.5	
台湾人	(n=2060)	4.0	20.5	46.7	13.8	15.0	24.5	28.7	
韓国人	(n=2060)	2.2	12.0	43.0	19.5	23.3	14.3	42.8	
その他アジア・東南アジア諸国	(n=2060)	2.0	11.1	46.5	19.5	20.9	13.1	40.4	
中東諸国	(n=2060)	1.7	9.1	44.0	22.4	22.8	10.8	45.2	
欧米諸国（オーストラリア、ニュージーランド含む）	(n=2060)	4.3	22.2	48.1	13.6	11.8	26.5	25.4	
南米諸国	(n=2060)	2.0	12.3	48.7	19.1	17.9	14.3	37.0	

3212

3.2.1.2

■ 外国人が増えることへの意見を、さらに職種別にみた結果が下記グラフである。

まず注目されるのは、「日本人の働き手が足りないなら仕方ない」という“容認派”の多さである。

半数弱の回答率である。

●「積極的に受け入れるべき」という肯定的な意見の比率は、どの職種でも10%台にとどまり、今回設定の選択肢の回答率として高い方ではない。

●その中で、「農業・漁業・林業従事者」、「建設の現場職」、「サービス業」、「高度専門職人材」は15% 前後の比率である。

●これに対して「一般の企業勤務者」の比率は10%強にとどまる。

●「あまり受け入れるべきではない」、または「受け入れるべきではない」という否定的な意見が多いのは、「高度専門職人材」、「一般の企業勤務者」などである。

●「高度専門職人材」については、肯定的意見も否定的意見も相対的に多いことになる。

■【職種別】外国人が増えることへの意見(全体／単一回答)

Q18.近い将来、日本は深刻な労働力不足が起こることが危惧されています。

※2030年には、7073万人の労働需要に対し、6429万人の労働供給しか見込めず、「644万人の人手不足」に陥るという試算もあります。
そうした状況を踏まえて、以下の職種に外国人が増えることについて、どのように思いますか。

		積極的に受け 入れるべき	日本人の働き 手が足りない なら仕方ない	あまり受け入 れるべきでは ない	受け入れるべ きではない	わからない
● 凡例						
介護職	(n=2060)	13.8%	47.0	13.1	11.9	14.1
農業・漁業・林業従事者	(n=2060)	15.9	47.7	12.3	11.0	13.0
建設の現場職	(n=2060)	16.0	48.9	11.9	11.2	12.0
サービス業	(n=2060)	14.2	50.7	13.4	10.1	11.5
一般の企業勤務者	(n=2060)	11.9	46.4	17.0	11.7	13.0
高度専門職人材	(n=2060)	14.7	41.8	15.1	14.8	13.6

3.2.1.3

1 評価

2 守ってほしい日本的暗黙のルール

- 「集団で大騒ぎしない」、「分別などのゴミ出しのルールを守る」が6割超。
- 多くの項目で、前回調査よりも比率が上昇している。
- 「夜遅くに大きな音を出さない（テレビ、音楽、洗濯機など）」、「公共空間やお店などで他の人に迷惑をかけないよう気を使う」が5割超で続く。
“大きな音をはじめとして、他人に迷惑をかけないマナー”を求めている者が多いようだ。
▶ こうした要望は、年代別の「30～39歳」で比率が高めの項目が多い。職業別の「専業主婦（主夫）」も同様である。
- 一方で、「近所に住む人同士で挨拶をする」や「町内会・自治会に加盟して会費を払う」、「チャリティやお祭りなど地域の行事には積極的に参加する」など、コミュニティへの参加に関する項目の比率は相対的に低い。
- なお、前回調査との比較では、比率が上昇している項目が多い。特に、
「分別などゴミ出しのルールを守る」、
「集団で大騒ぎしない」、
「信号無視や交通規則違反をしない」などは10ポイント以上の増加となっている。
▶ 「自分の家、部屋から強い臭いが漂わないようにする」など、規則、ルール遵守も含めて“大音量”や“臭い”に関する項目の上昇幅も大きい。

■ 守ってほしい日本的暗黙のルール（全体／複数回答）

Q8.あなたが、日本に住んでいる外国人に、守ってほしいのはどのようなことですか。



		性別		年代別						職業別							(%)
【前回調査】日本人・計	【今回調査】日本人・計	男性	女性	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	正規雇用	非正規雇用	自営業・その他	専業主婦(主夫)	学生	無職			
(n=2000)	(n=2060)	(n=1030)	(n=1030)	(n=412)	(n=412)	(n=412)	(n=412)	(n=412)	(n=911)	(n=435)	(n=130)	(n=197)	(n=84)	(n=294)			
45.7	61.1	55.0	67.2	57.3	60.2	59.2	61.2	67.5	58.7	61.4	59.7	69.0	58.3	63.9			
27.4	37.0	33.0	41.1	40.3	44.2	34.0	34.5	32.3	39.2	34.9	35.3	39.6	40.5	31.6			
44.7	53.2	49.1	57.3	51.2	57.0	53.4	52.2	52.2	52.8	55.2	52.5	56.3	48.8	51.0			
17.0	15.0	16.0	14.1	13.3	13.6	14.1	14.1	20.1	14.7	13.1	15.8	18.8	16.7	15.6			
10.1	14.4	15.0	13.7	14.1	14.1	12.4	12.1	19.2	15.4	12.6	15.1	16.8	9.5	13.3			
	45.1	41.5	48.8	43.2	49.0	42.0	41.7	49.8	44.7	43.2	50.4	50.3	40.5	44.9			
	5.5	6.3	8.3	4.3	11.4	8.0	5.3	3.6	8.2	4.6	7.2	3.6	8.3	3.7			
44.0	44.6	40.5	48.6	46.1	50.7	39.8	43.2	43.0	45.7	43.2	43.9	47.7	46.4	40.8			
40.1	48.3	44.2	52.5	49.5	52.4	44.7	45.9	49.3	49.5	44.6	48.9	54.3	51.2	45.2			
14.9	26.8	25.7	27.9	29.4	29.6	24.0	22.3	28.6	27.6	24.1	33.1	30.5	26.2	23.1			
53.2	64.9	60.5	69.2	59.5	69.9	63.8	67.0	64.1	66.3	65.1	66.2	68.5	54.8	59.9			
30.9	44.9	41.6	48.2	44.4	49.5	42.2	43.7	44.4	44.0	41.8	43.9	53.3	42.9	47.3			
33.7	23.2	22.4	23.9	24.3	25.2	20.6	22.8	22.8	24.0	24.1	19.4	23.4	17.9	22.1			
41.3	51.0	44.9	57.2	54.1	53.2	45.6	49.5	52.7	49.7	49.2	51.1	59.4	56.0	50.7			
12.0	13.5	14.0	13.1	22.3	15.8	10.2	10.2	9.2	14.4	12.0	11.5	10.7	25.0	12.9			
0.4	2.0	2.3	1.7	2.4	1.9	2.2	1.9	1.7	2.1	1.6	2.9	1.0	1.2	3.1			
17.1	14.1	17.0	11.3	13.6	12.9	15.5	14.3	14.3	12.3	13.1	17.3	13.7	16.7	19.4			

10.0 ※「【今回調査】日本人・計」より10ポイント以上高い
5.0 ※「【今回調査】日本人・計」より5ポイント以上高い
-5.0 ※「【今回調査】日本人・計」より5ポイント以上低い

3,2,1,4

2 評価の源泉（体験・メディア）

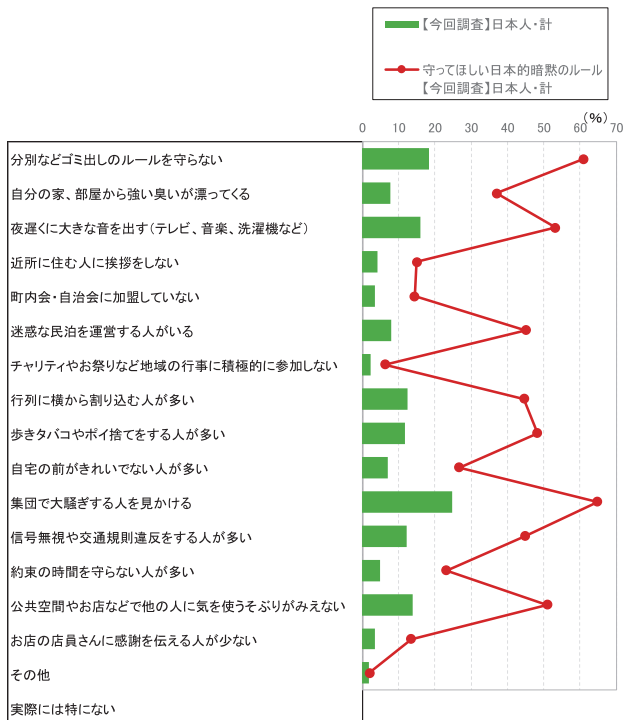
① 実際に外国人から迷惑を被っていること

■ 実際に迷惑を被った比率は、「守ってほしいルール」の比率よりも大幅に低い。

- 「守ってほしい日本の暗黙のルール」と同じ項目を列挙し、実際に迷惑を受けた比率を聞いたところ、ほとんどの項目で両者には大差があることがわかる。
- 比率の高低の傾向は、「守ってほしい日本の暗黙のルール」と「実際に被った迷惑なこと」はほぼ同じであるが、例えば「守ってほしい日本の暗黙のルール」ではトップであった「集団で大騒ぎしない」の比率は25%であり、両者の差は40ポイント程度である。
- ▶ 同様に「分別などのゴミ出しのルールを守る」も、両者の差は40ポイント以上ある。

■ 迷惑なこと【実際】（全体／複数回答）

Q9. では、あなたは実際に、近所に住む外国人に迷惑をかけられたり、嫌な思いをしたことがありますか。または、あてはまるものをすべてお選びください。



(%)															守ってほしい日本の暗黙のルール【今回調査】日本人・計	「守ってほしい日本の暗黙のルール」ー「迷惑なこと【実際】」のスコア
【今回調査】日本人・計	性別		年代別						職業別							
	男性	女性	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	正規雇用	非正規雇用	自営業・その他	専業主婦(主夫)	学生	無職			
(n=2060)	(n=1030)	(n=1030)	(n= 412)	(n= 412)	(n= 412)	(n= 412)	(n= 412)	(n= 911)	(n= 435)	(n= 139)	(n= 197)	(n= 84)	(n= 294)	(n=2060)		
18.4	19.0	17.8	15.8	16.7	19.7	22.3	17.5	19.8	21.1	20.9	15.2	10.7	13.3	61.1	42.7	
7.7	8.3	7.1	10.9	9.5	6.6	5.8	5.8	8.6	6.7	5.8	7.6	13.1	6.1	37.0	29.3	
16.1	16.8	15.4	18.9	18.2	15.8	17.0	10.7	17.2	16.1	16.5	13.7	20.2	12.9	53.2	37.1	
4.3	5.2	3.4	6.3	3.9	3.9	3.6	3.9	4.8	3.0	2.2	4.6	9.5	4.1	15.0	10.7	
3.6	4.7	2.6	4.4	3.9	3.9	3.2	2.9	4.9	1.6	4.3	3.0	3.6	2.7	14.4	10.8	
8.0	8.9	7.1	10.4	9.7	6.1	6.8	7.0	9.3	6.2	7.2	8.6	11.9	5.4	45.1	37.1	
2.3	3.2	1.4	4.1	3.4	2.2	0.7	1.0	3.1	1.4	0.7	1.0	6.0	1.7	6.3	4.0	
12.6	12.1	13.0	16.3	16.0	12.9	10.2	7.5	15.3	11.0	11.5	10.7	17.9	6.8	44.6	32.0	
11.7	13.4	10.0	14.1	14.3	9.2	11.4	9.5	14.2	8.0	15.1	9.6	11.9	9.2	48.3	36.6	
7.0	7.7	6.3	8.5	9.0	6.8	5.3	5.3	8.5	5.5	7.2	6.6	7.1	4.8	26.8	19.8	
24.9	23.4	26.3	28.6	28.9	24.0	23.8	18.9	28.1	27.4	19.4	18.8	25.0	17.7	64.9	40.0	
12.3	12.8	11.7	15.8	13.8	12.4	11.4	8.0	14.3	12.4	9.4	10.7	16.7	7.1	44.9	32.6	
4.9	5.5	4.2	8.5	6.3	3.9	2.9	2.7	5.9	5.5	1.4	3.0	7.1	2.7	23.2	18.3	
14.0	12.3	15.6	16.7	17.2	10.9	13.3	11.7	15.1	14.7	11.5	11.2	19.0	10.9	51.0	37.0	
3.6	4.0	3.2	6.6	3.9	2.9	2.4	2.2	3.7	3.0	2.9	3.6	9.5	2.7	13.5	9.9	
1.9	1.8	2.0	2.2	1.5	2.7	1.7	1.7	2.2	2.5	2.2	1.0	—	1.4	2.0	0.1	
51.9	51.5	52.3	42.2	49.5	52.9	53.2	61.7	47.5	48.3	56.8	64.5	42.9	62.6	14.1	-37.8	
10.0	※【今回調査】日本人・計より10ポイント以上高い															
5.0	※【今回調査】日本人・計より5ポイント以上高い															
-5.0	※【今回調査】日本人・計より5ポイント以上低い															

3,2,2,1

2 評価の源泉（体験・メディア）

② イメージ形成メディア

- 「コンビニや飲食店、工事現場などで働く外国人から」、「外国人観光客から」など、実際に触れる外国人の様子が3割を超えている。
- 「SNSやネットニュースで流れてくる情報から」が31%。全体トップの「新聞やテレビのニュース報道から」（38%）と大差はない水準にあるといえよう。

■イメージ形成メディア（全体／複数回答）

Q24.あなたは、日本に住む外国人についての知識や印象をどのようなところから得ていますか。



【今回調査】日本人・計	性別		年代別						職業別						(%)
	男性	女性	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	正規雇用	非正規雇用	自営業・その他	専業主婦(主夫)	学生	無職		
	(n=2060)	(n=1030)	(n= 412)	(n= 412)	(n= 412)	(n= 412)	(n= 412)	(n= 911)	(n= 435)	(n= 139)	(n= 197)	(n= 84)	(n= 294)		
26.6	27.4	25.8	29.4	29.1	27.7	24.3	22.6	29.5	25.7	24.5	22.8	39.3	18.7		
36.3	34.3	38.3	37.1	33.5	39.6	35.0	36.4	35.5	39.3	38.1	36.0	32.1	35.0		
34.2	33.7	34.7	38.8	36.9	32.3	32.3	30.6	36.9	30.3	35.3	31.0	48.8	28.9		
14.6	15.6	13.5	19.2	16.3	11.4	14.3	11.7	16.8	9.9	17.3	11.7	22.6	12.9		
6.6	8.3	5.0	8.7	7.0	6.8	4.9	5.6	7.6	4.8	5.0	5.6	11.9	6.1		
37.7	39.6	35.8	27.7	32.0	33.7	39.3	55.8	35.2	36.3	41.0	44.7	33.3	42.5		
29.0	28.0	30.0	27.9	27.2	26.5	27.2	36.2	26.3	27.1	25.2	34.0	34.5	36.7		
31.1	31.3	30.9	39.6	42.7	26.7	25.5	20.9	32.2	29.7	32.4	27.9	33.3	30.6		
7.5	9.0	6.0	9.5	6.6	9.5	6.8	5.3	7.8	4.8	10.1	5.1	13.1	9.5		
12.7	13.3	12.0	11.2	12.6	12.6	11.2	15.8	11.9	12.2	14.4	14.7	6.0	15.6		
8.9	9.6	8.2	10.9	8.5	10.2	5.8	9.0	8.7	6.2	7.9	10.2	17.9	10.5		
1.2	0.5	1.9	1.0	1.5	1.2	1.5	1.0	0.9	2.5	1.4	0.5	1.2	0.7		
10.0	※「【今回調査】日本人・計」より10ポイント以上高い														3.2,2.2
5.0	※「【今回調査】日本人・計」より5ポイント以上高い														
-5.0	※「【今回調査】日本人・計」より5ポイント以上低い														

3. 外国人への期待・希望・課題

① 外国人が増えることへの肯定的評価理由

- 肯定的理由のトップは「日本人がやりたがらない仕事をしてくれる」(25%)。
 - 「日本人の国際感覚が養われる」、「日本の良さ・魅力を海外に発信してくれる」、「日本人が気がつかなかった日本の魅力が発見される」が20%台で続く。
- 前回から大きく伸びたのは、「日本人がやりたがらない仕事をしてくれる」。
 - 「人口が増えて自治体の税収が増える」、「日本の人口減少の対策になる」なども上昇幅が大きく、人口減少に伴う痛みを緩和してくれるという見方が強いようである。

■ 外国人が増えることへの評価理由【肯定的】(全体／複数回答)

Q19.ご自分の住まいや職場など、日常生活の周辺に外国人が増えることについて、あなたが「好ましい影響がある」と思うのはどのようなことですか。



【前回調査】 日本人・計	【今回調査】 日本人・計	性別		年代別						職業別							(%)
		男性	女性	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	正規雇用	非正規雇用	自営業・その他	専業主婦(主夫)	学生	無職			
(n=2000)	(n=2060)	(n=1030)	(n=1030)	(n= 412)	(n= 412)	(n= 412)	(n= 412)	(n= 412)	(n= 911)	(n= 435)	(n= 139)	(n= 197)	(n= 84)	(n= 294)			
14.5	9.7	10.3	9.1	12.6	9.7	10.2	9.0	7.0	10.0	7.6	12.2	7.6	17.9	9.9			
11.2	18.7	21.7	15.7	15.5	17.0	16.5	20.4	24.3	20.4	17.2	23.0	16.2	14.3	16.7			
12.7	10.2	9.3	11.2	11.4	9.5	9.0	11.7	9.7	10.0	9.7	10.8	11.2	21.4	7.8			
8.5	12.0	12.5	11.5	14.3	11.4	10.9	13.6	9.7	13.1	9.0	12.9	10.2	15.5	12.9			
24.2	20.9	18.7	23.1	17.5	18.7	19.7	22.3	26.5	20.7	19.1	23.7	21.3	19.0	23.1			
11.6	24.5	24.6	24.5	25.7	21.8	18.9	25.2	30.8	25.0	22.1	25.2	29.4	25.0	22.8			
17.1	18.2	20.1	16.2	17.0	15.5	16.7	20.6	20.9	19.0	15.6	18.7	18.8	25.0	16.7			
10.1	10.8	12.2	9.3	10.9	9.5	9.2	10.9	13.3	11.0	9.0	10.1	11.2	16.7	11.2			
9.8	17.7	19.1	16.2	14.8	19.4	18.2	19.2	16.7	21.0	15.9	20.1	13.7	11.9	13.3			
22.1	14.6	13.7	15.4	15.0	15.0	14.1	14.3	14.3	15.4	12.2	14.4	14.7	19.0	14.3			
13.1	12.8	13.6	12.0	15.3	10.9	15.3	11.2	11.4	13.5	12.0	14.4	9.6	21.4	10.9			
11.5	10.4	11.5	9.3	13.1	9.5	11.2	9.5	8.7	11.6	10.6	10.1	6.6	15.5	7.5			
28.9	21.8	21.7	21.8	17.7	18.0	21.1	23.1	29.1	21.4	19.5	23.0	26.4	16.7	24.1			
22.8	21.3	20.6	21.9	18.4	18.2	19.7	22.6	27.4	20.5	19.5	20.1	22.3	21.4	25.9			
0.3	0.5	0.6	0.4	0.5	—	0.5	0.5	1.0	0.2	0.5	0.7	1.0	—	1.0			
27.3	28.9	29.4	28.3	28.4	34.0	32.0	27.2	22.8	27.6	29.9	29.5	29.9	22.6	32.3			

10.0

※「【今回調査】日本人・計」より10ポイント以上高い

5.0

※「【今回調査】日本人・計」より5ポイント以上高い

-5.0

※「【今回調査】日本人・計」より5ポイント以上低い

3.3.1

3.9.1

② 外国人が増えることへの否定的評価理由

- 否定的理由の比率が、総じて肯定的評価の理由の比率を上回っている。
その中でトップは「治安が悪くなる」(56%)。
- 「公共マナーが悪くなり生活環境が悪化する」も50%を超える。
- さらに「日本の土地が外国人に買い漁られる」が4割弱で続くが、一方、「日本人の雇用が失われる」は20%であり、相対的に低い水準にとどまっている。
- 前回調査からの上昇幅が大きいのは、「日本の土地が外国人に買い漁られる」であり、その差は20ポイント以上。
- 他にも、
「日本語が通じない人が増えて不便になる」、
「自己主張の激しい人ばかりが増える」、
「外国人に対応するための行政コストが増える」、
「公共マナーが悪くなり生活環境が悪化する」などは10ポイント以上の増加。

■ 外国人が増えることへの評価理由【否定的】(全体／複数回答)

Q20.ご自分の住まいや職場など、日常生活の周辺に外国人が増えることについて、あなたが「好ましくない影響がある」と思うのはどのようなことですか。



(96)															
【前回調査】日本人・計	【今回調査】日本人・計	性別		年代別						職業別					
		男性	女性	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	正規雇用	非正規雇用	自営業・その他	専業主婦(主夫)	学生	無職	
(n=2000)	(n=2080)	(n=1030)	(n=1030)	(n=412)	(n=412)	(n=412)	(n=412)	(n=412)	(n=911)	(n=435)	(n=139)	(n=197)	(n=84)	(n=294)	
19.2	29.8	28.7	30.9	31.6	31.8	30.1	26.9	28.6	29.1	26.2	36.0	33.0	34.5	31.0	
5.8	8.1	10.0	6.1	9.5	10.0	5.1	7.3	8.5	8.7	6.2	10.8	6.1	8.3	8.8	
15.6	26.0	25.8	26.1	23.5	29.1	24.3	25.2	27.7	26.3	27.4	23.0	26.4	23.8	24.5	
15.9	29.4	30.1	28.7	30.3	29.4	26.0	27.7	33.7	28.6	29.0	28.1	31.5	28.6	32.0	
11.1	19.8	20.1	19.5	23.8	22.6	15.8	17.7	19.2	21.2	15.6	23.0	20.3	25.0	18.4	
9.4	18.8	21.6	16.1	23.8	18.7	15.5	17.5	18.7	21.4	13.3	23.0	15.2	25.0	17.7	
8.4	13.6	15.0	12.3	18.4	13.8	10.2	12.9	12.9	13.9	13.3	14.4	11.7	19.0	12.6	
17.5	38.1	35.7	40.4	32.3	39.3	33.3	38.1	47.3	39.1	34.5	36.0	46.2	33.3	37.1	
14.4	19.9	19.1	20.7	25.0	21.8	17.2	19.4	16.0	20.0	18.6	25.2	21.8	19.0	18.0	
8.5	15.7	18.2	13.3	19.2	18.0	14.8	14.8	11.9	17.7	13.6	17.3	11.7	13.1	15.6	
7.5	11.7	14.7	8.7	15.5	12.6	9.7	10.4	10.2	13.7	9.0	12.2	8.1	11.9	11.6	
15.2	30.0	29.0	31.1	32.0	31.1	28.2	29.4	29.6	31.4	29.9	24.5	33.5	36.9	24.5	
41.4	53.0	47.8	58.2	48.5	53.6	50.0	52.2	60.4	54.0	55.4	48.9	52.3	39.3	52.4	
48.3	55.6	51.8	59.4	50.0	59.2	54.4	58.5	56.1	57.4	55.2	49.6	61.4	48.8	51.7	
0.5	0.7	0.7	0.7	1.2	0.5	0.5	0.5	0.7	0.5	0.9	—	0.5	2.4	0.7	
21.6	16.5	18.1	14.9	17.0	15.5	18.7	16.3	14.8	15.8	16.1	16.5	14.7	15.5	20.4	
10.0 ※「【今回調査】日本人・計」より10ポイント以上高い															
5.0 ※「【今回調査】日本人・計」より5ポイント以上高い															
-5.0 ※「【今回調査】日本人・計」より5ポイント以上低い															
3.3															

③ 外国人問題に対する意見

▶ 昨今よく目にする、いわゆる“外国人問題”に対する典型的な意見を提示し、それらに対する賛否を質問した。提示する意見を、予め『日本社会との適合』、『多文化共生』、『規制・管理の強化』の3つのグループに分けた。

■ 「日本に住むなら、ゴミや生活音などで近隣に迷惑をかけないように注意すべきだ」をはじめ、“日本社会に適合”すべきだという意見に賛同する比率が高い。

● 賛同の比率が高いのは、『日本社会との適合』に属する以下の3項目である。

「日本に住むなら、ゴミや生活音などで近隣に迷惑をかけないように注意すべきだ」、

「法律や規則を守らない一部の外国人は厳格に処罰すべきだ」、

「日本のマナーを守り公共の場所で振る舞いに気をつけるべきだ」

▶ また、「外国人による土地や不動産の購入には制限を設けるべきだ」、「受け入れする外国人の選択・審査を厳しくすべきだ」といった『規制・管理の強化』に属する項目も4割を超えている。

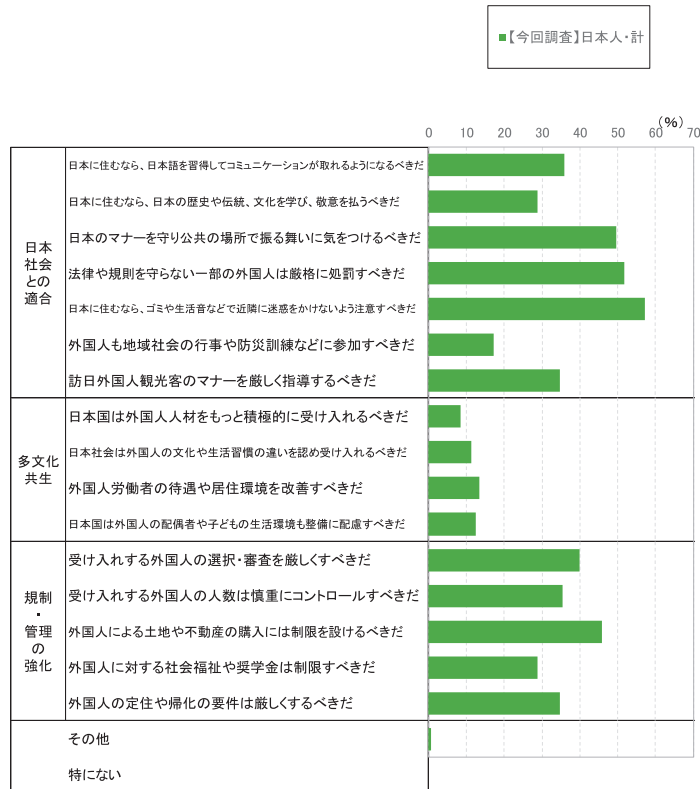
▶ 一方で、『多文化共生』への賛同を示す項目群のスコアは、いずれも1割前後にとどまっている。

● 『日本社会との適合』の各項目の比率は、年代別にみて「30～39歳」、「60歳以上」で相対的に高いが、特に「60歳以上」で比率の高い項目が多いことがわかる。

▶ 職業別にみると、「自営業・その他」、「専業主婦（主夫）」の比率が高い項目が多い。

■ 外国人問題への意見（全体／複数回答）

Q23.日本国内には外国人問題に対してさまざまな考え方があり、以下にあげるような外国人に対する意見で、あなたが賛同できるものがあればすべてお選びください。



(%)

【今回調査】日本人・計	性別		年代別						職業別					
	男性	女性	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	正規雇用	非正規雇用	自営業・その他	専業主婦(主夫)	学生	無職	
(n=2060)	(n=1030)	(n=1030)	(n=412)	(n=412)	(n=412)	(n=412)	(n=412)	(n=911)	(n=435)	(n=139)	(n=197)	(n=84)	(n=294)	
35.9	35.5	36.2	34.0	39.3	33.0	35.2	37.9	36.2	33.1	38.1	39.6	27.4	37.8	
28.9	28.4	29.4	32.8	29.9	28.6	26.5	26.9	30.1	24.6	36.0	29.9	32.1	26.9	
49.7	46.9	52.5	45.1	50.2	45.6	46.1	61.4	48.7	49.2	48.9	55.8	42.9	51.7	
51.7	49.6	53.9	48.1	49.8	50.5	50.2	60.2	49.7	52.2	59.7	57.4	50.0	50.3	
57.3	52.9	61.7	48.1	53.4	57.5	57.3	70.4	54.4	57.5	59.0	66.0	47.6	62.2	
17.3	15.9	18.7	14.8	15.3	16.3	17.0	23.3	16.2	16.3	20.9	18.8	13.1	20.7	
34.7	33.1	36.2	32.8	34.5	32.0	34.5	39.6	33.4	33.1	40.3	41.1	31.0	35.0	
8.5	10.5	6.5	9.0	7.0	8.5	9.0	9.0	9.9	7.4	7.2	5.6	13.1	7.1	
11.4	13.3	9.4	12.1	11.7	10.0	9.0	14.1	11.9	7.6	12.9	9.1	15.5	15.0	
13.5	14.5	12.6	14.6	9.5	12.6	12.6	18.4	13.0	11.5	15.8	12.2	15.5	17.7	
12.4	12.3	12.4	11.2	10.4	11.2	11.7	17.5	11.2	12.4	12.2	13.7	13.1	15.0	
40.0	37.8	42.2	39.8	40.0	38.3	39.6	42.2	39.2	39.3	41.7	46.7	34.5	39.8	
35.4	34.1	36.7	34.7	37.6	35.4	31.8	37.4	34.4	36.1	41.7	38.1	33.3	33.3	
45.8	43.5	48.1	34.5	43.7	43.7	45.4	61.7	43.2	44.1	56.1	53.8	33.3	49.3	
28.7	26.8	30.7	27.2	32.8	29.6	26.2	27.9	28.8	27.6	35.3	33.0	29.8	24.1	
34.7	33.3	36.0	30.3	37.6	32.8	33.5	39.1	34.7	31.3	42.4	38.6	25.0	36.1	
0.7	0.6	0.8	0.7	0.5	1.2	0.2	0.7	0.5	0.9	0.7	—	—	1.4	
15.7	16.8	14.6	18.7	19.2	18.0	13.6	9.0	16.0	16.3	15.8	10.2	17.9	16.7	
10.0	※【今回調査】日本人・計より10ポイント以上高い													
5.0	※【今回調査】日本人・計より5ポイント以上高い													
-5.0	※【今回調査】日本人・計より5ポイント以上低い													

3.3.3.1

4. ナショナリズム

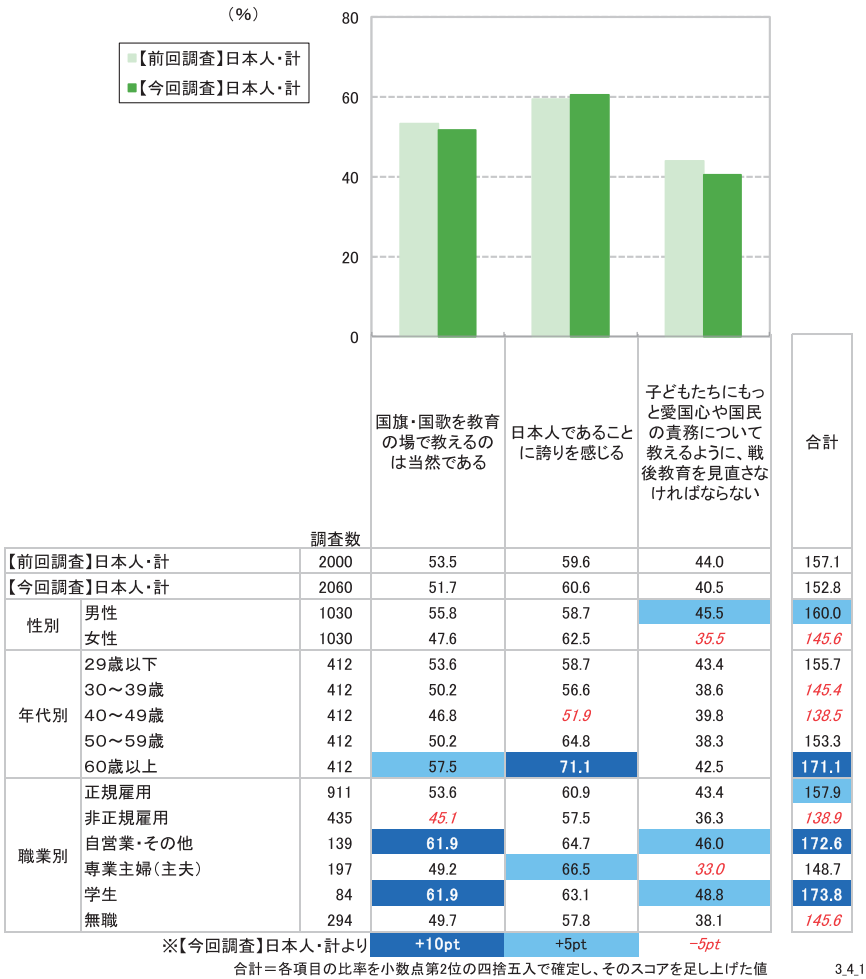
- 前回調査では、主に『外国人へのまなざしと政治意識』（田辺俊介編著）で展開されたナショナリズムの考え方を採用し、3つの下位概念（「愛国主義」「純化主義」「排外主義」）に基づく設問を設定した。
 - ▶ それぞれの主義がどのような項目で構成されるかは、本ページも含めた後続の3ページを参照。
- 今回調査も同様のフレームで調査を行っている。評価の是非はともかく、日本人ファーストやナショナリズムの台頭が喧しい情勢下で、まず何が・どの程度変わってきたのかを把握したうえで、外国人に対する寛容性を拡張するカギがどこにあるのかを探るためである。

1 愛国主義指標

- 愛国主義指標を構成する3つの項目の比率は、前回調査と比べ大きな差はみられない。
- 愛国主義指標は、「29歳以下」と「60歳以上」が相対的に高い。
 - 合計値は、前回と比べて若干の減少。
 - 「日本人であることに誇りを感じる」が6割、「国旗・国歌を教育の場で教えるのは当然である」が5割を超えるが、「子どもたちにもっと愛国心や国民の責務について教えるように、戦後教育を見直さなければならない」は4割である。
 - 年代別にみると、「29歳以降」と「60歳以上」が相対的に高いことがわかる。また、職業別には「自営業」と「学生」が高くなっている。

■ 愛国主義指標：「あてはまる・計」（全体／単一回答）

Q13. 以下にあげる考え方に対して、あなたの考えはどの程度あてはまりますか。



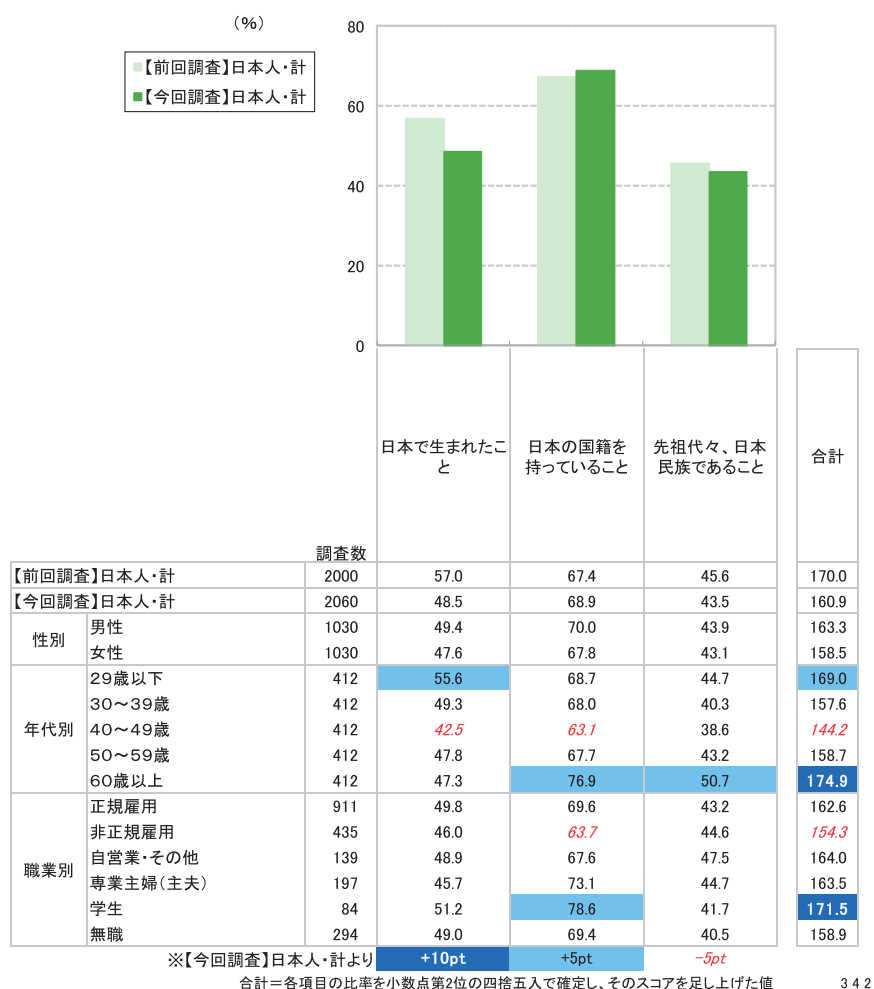
② 純化主義指標

■ 純化主義指標を構成する3つの指標の合計値は、前回調査よりも減少している。

- 日本人であるとみなす条件としての各項目の比率は、「日本の国籍を持っていること」が7割弱で、前回調査より微増しているが、「日本で生まれたこと」は5割弱で前回比9ポイント程度的大幅減少。「先祖代々、日本民族であること」は44%であるが、これも前回比2ポイントの減少。
- 純化主義指標合計値は、「29歳以下」と「60歳以上」が相対的に高い。また、「学生」が相対的に高い。

■ 純化主義指標:「あてはまる・計」(全体／単一回答)

Q14.ある人を本当に日本人であると見なすためには、以下にあげるようなことが「重要だ」という意見と「重要ではない」という意見があります。それぞれについてあなたはどの程度重要だと思いますか。

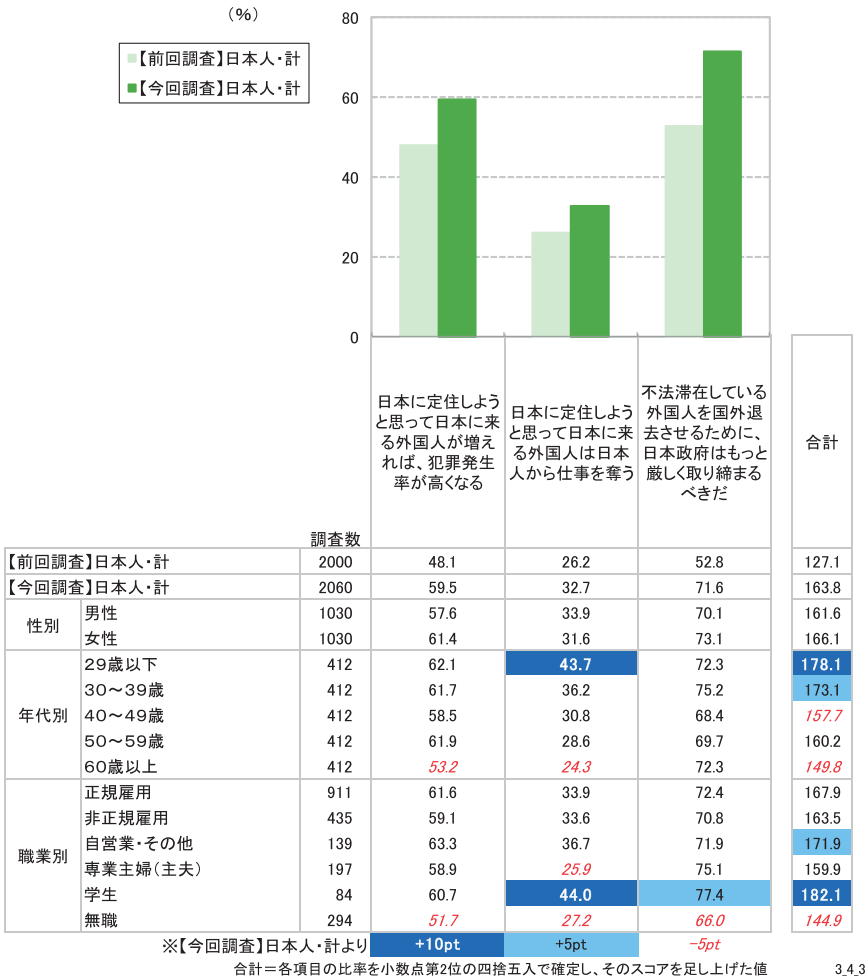


③ 排外主義指標

- 愛国主義指標、純化主義指標とは異なり、排外主義指標の合計値のみが前回調査を大きく上回っている。
- 特に、「不法滞在している外国人を国外退去させるために、日本政府はもっと厳しく取り締まるべきだ」は、前回から20ポイント弱増加して7割を超えている。
- 同様に、「日本に定住しようと思って日本に来る外国人が増えれば、犯罪発生率が高くなる」は10ポイント以上増加して6割、「日本に定住しようと思って日本に来る外国人は日本人から仕事を奪う」も3割強にとどまっているとはいえ、前回比6～7ポイントの増加である。
- 排外主義指標の合計値が相対的に高いのは、性別では「女性」、年代別では「29歳以下」、「30～39歳」の若年層であり、職業別では「学生」、「自営業・その他」である。

■ 排外主義指標：「あてはまる・計」（全体／各単一回答）

Q15 以下にあげる考え方に対して、あなたの考えはどの程度あてはまりますか。



3.4.3

5. 外国人への寛容さはどこから生まれるか

① ナショナリズム3指標と外国人が増えることへの評価

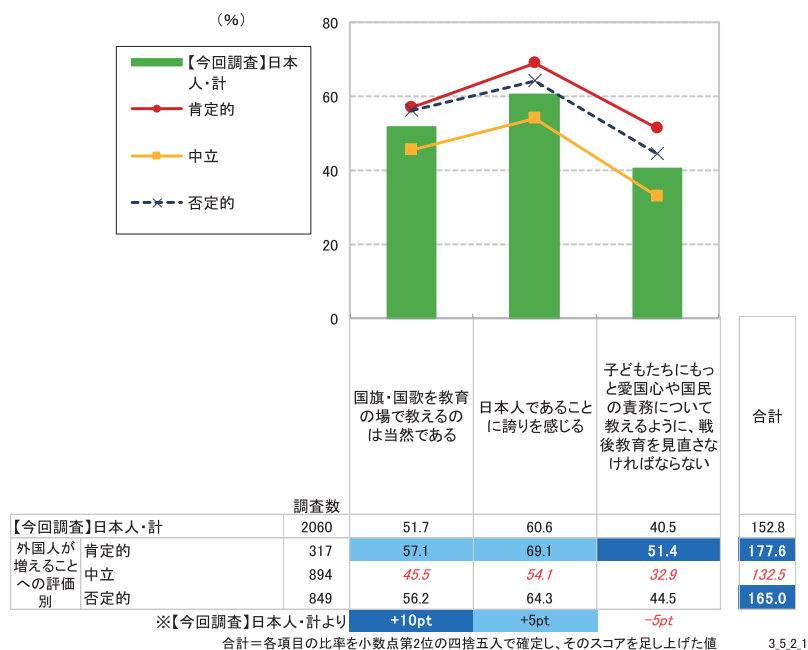
▶ 既述の通り、我々は「外国人が増えることへの評価」を、社会の寛容性を示すひとつの重要指標としてとらえている。ここではナショナリズム3指標と、その「外国人が増えることへの評価」の関係を見る。

■ 「外国人が増えることへの評価」と相関が強いのは、3指標の中でも「排外主義指標」である。

- 3指標とも、「中立」層は比率の水準が低く、きれいに相関していると言い難いデータとなっているが、回答者個人の回答データをベースに相関係数を算出すると、「外国人が増えることへの評価」と相関が強いのは、3指標の中でも「排外主義指標」であることがわかる。

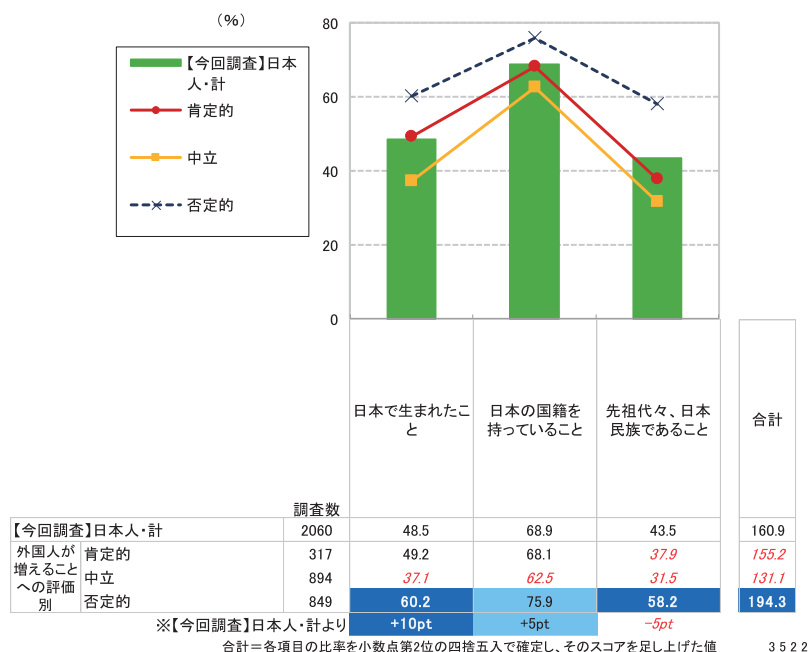
■ 愛国主義指標：「あてはまる・計」（全体／単一回答）

Q13. 以下にあげる考え方に対して、あなたの考えはどの程度あてはまりますか。



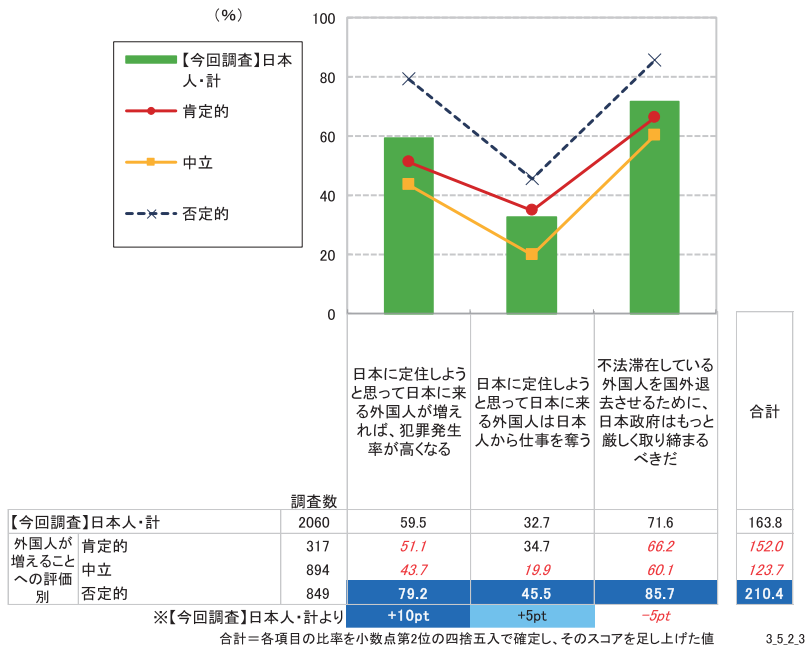
■ 純化主義指標：「あてはまる・計」（全体／単一回答）

Q14. ある人を本当に日本人であると思ふためには、以下にあげるようなことが「重要だ」という意見と「重要ではない」という意見があります。それぞれについてあなたはどの程度重要だと思いますか。

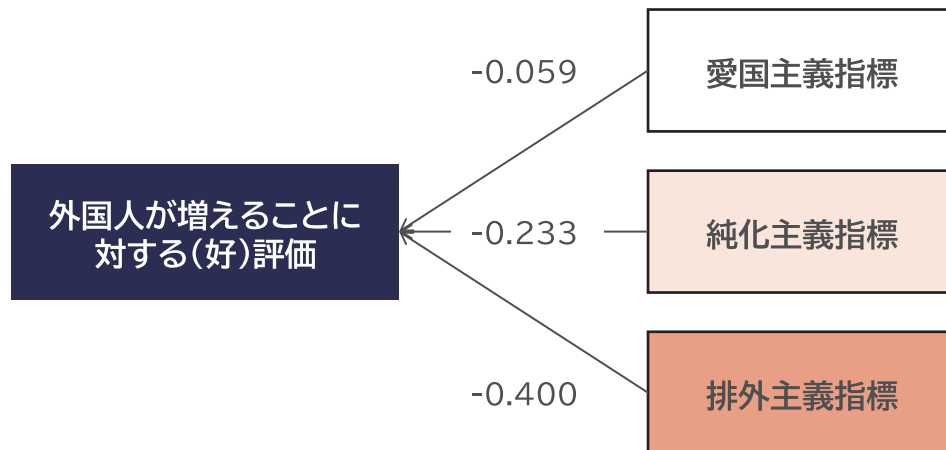


■排外主義指標:「あてはまる・計」(全体／単一回答)

Q15. 以下にあげる考え方に対して、あなたの考えはどの程度あてはまりますか。



■ナショナリズム3指標と外国人が増えることへの評価との相関係数



- ただし、「排外主義指標」を構成する3つの考え方が、外国人が増えることへの評価と意味として似通っていることを考慮する必要がある。データから一直線に、「ナショナリズムの中でも排外主義指標(の伸び)が外国人に対する寛容性を阻害している」とは言いづらい。
- ナショナリズム3つの指標のうち、「排外主義指標のみが前回調査から大幅に増えている」ことは、今回調査から得られた重要な知見ではあるが、外国人に対する寛容性を広げる手段や阻害要因を検討するには、もう少し基本プロフィールや生活実態を確認する必要がある。

②【外国人が増えることへの評価別】基本プロフィール

- 年代と外国人が増えることへの評価は、相関関係は薄い。
 - 「否定的」層の「30～39歳」の比率が相対的に高い。
 - ▶「29歳以下」は、「肯定的」層でも「否定的」でもそのシェアが高めであることは注目されよう。

■年代別（全体／実数回答）

		29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	平均（歳）
●凡例							
【今回調査】日本人・計		(n=2060)	20.0%	20.0	20.0	20.0	45.38
外国人が増えることへの評価別	肯定的	(n=317)	28.4	20.2	18.9	18.0	42.33
	中立	(n=894)	16.0	17.1	20.1	22.9	47.58
	否定的	(n=849)	21.1	23.0	20.3	17.7	44.21

3.5.1.1

- 「否定的」な層は、「女性」比率が高い。
 - 外国人が増えることへの評価が否定的になるにつれ、「女性」のシェアが高くなっている。

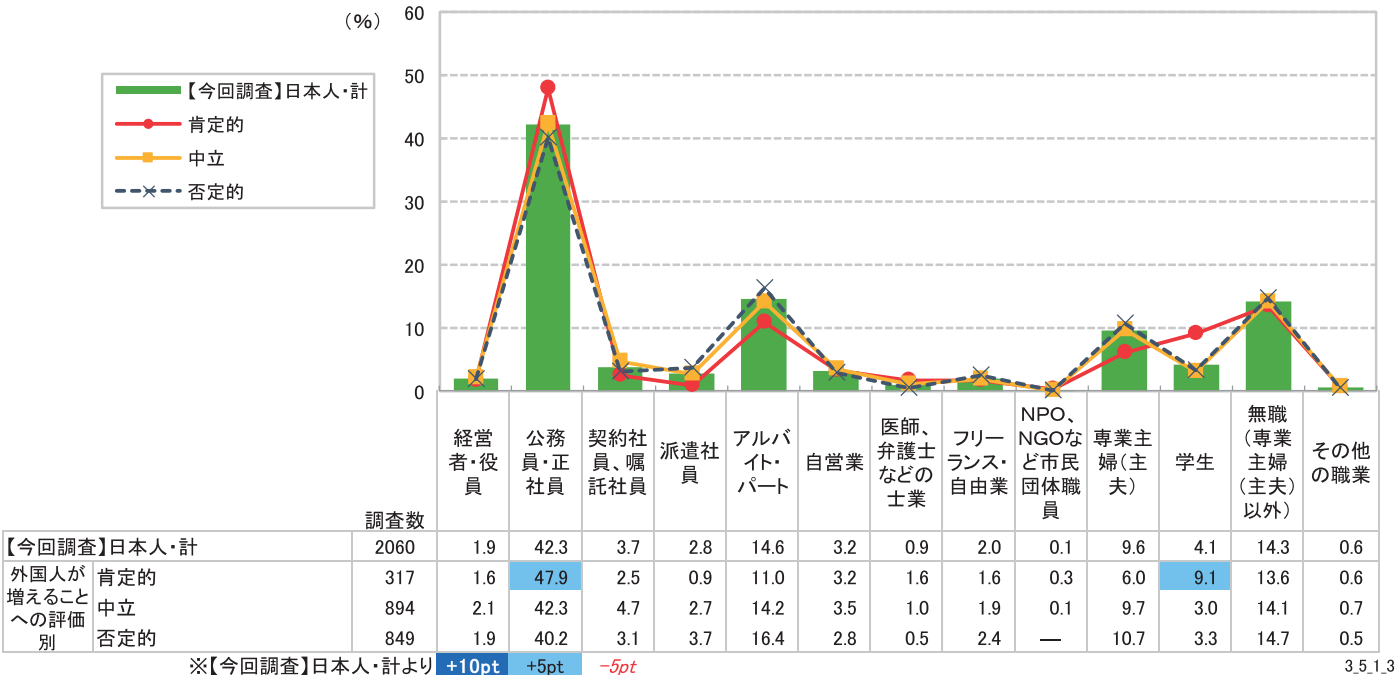
■性別（全体／単一回答）

		男性	女性
●凡例			
【今回調査】日本人・計		(n=2060) 50.0%	50.0
外国人 が増え ることへ の評価 別	肯定的	(n=317) 57.1	42.9
	中立	(n=894) 50.8	49.2
	否定的	(n=849) 46.5	53.5

3.5.1.2

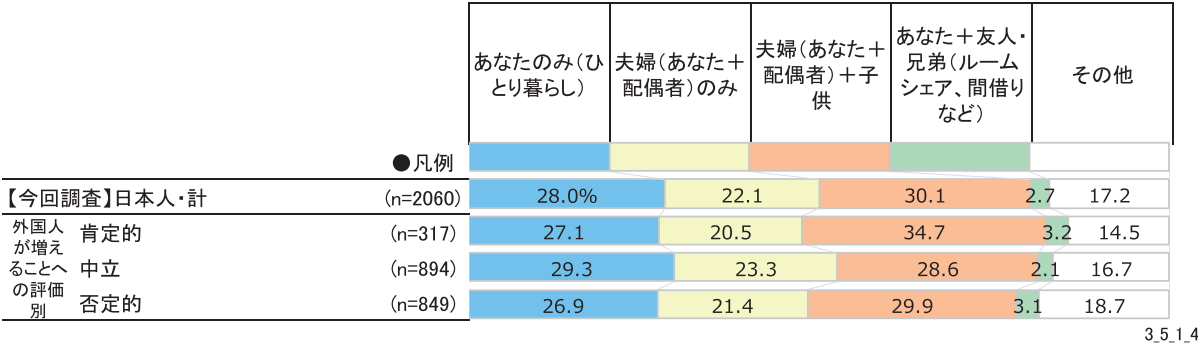
- 「肯定的」な層は「公務員・正社員」、「学生」のシェアが高い。
- 「派遣社員」、「アルバイト・パート」、「専業主婦（主夫）」などは「否定的」層で相対的に多い。

■職業（SA）（全体／単一回答）



- 「家族構成」では、「肯定的」な層の「夫婦（あなた＋配偶者）＋子供」の比率が高い。

■家族構成（全体／単一回答）



■ 外国語習熟度および海外居住経験と、外国人が増えることへの評価は相関が強い。

■外国語習熟度（全体／単一回答）

S5あなたは、外国語をどの程度使えますか。※最も習熟している日本語以外の言語についてお答えください。

		仕事や学業に使える水準	日常会話には支障がない水準	片言でなんとか何とかコミュニケーションが取れる水準	ほとんどコミュニケーションが取れない水準
●凡例					
【今回調査】日本人・計	(n=2060)	5.5% 8.6	33.3	52.5	
外国人が増えることへの評価別					
肯定的	(n=317)	13.9	14.2	36.6	35.3
中立	(n=894)	5.0	7.8	33.0	54.1
否定的	(n=849)	2.8	7.4	32.5	57.2

3.5.1.5

■海外居住経験（全体／単一回答）

Q4あなたはこれまでに、どのくらい長く日本以外の国に住んだことはありますか。※1ヶ月以上、同じ都市・エリアに滞在することを「住む」としてお答えください。※複数回にわたって住んだことがある方は、通算の期間をお答えください。

		1か月～1年未満	1年～3年未満	3年以上	日本以外の国に住んだことはない（1か月未満）
●凡例					
日本人・計	(n=2060)	6.4% 3.8	4.5	85.3	
外国人が増えることへの評価別					
肯定的	(n=317)	10.4	9.5	7.9	72.2
中立	(n=894)	5.1	13.4	5.1	86.4
否定的	(n=849)	6.1	12.1	2.6	89.2

3.5.1.6

■ 外国人との交流頻度と外国人が増えることへの評価も強い相関がみられる。

■外国人との交流頻度（SA）（全体／単一回答）

Q6あなたは日頃の生活において、日本に住んでいる外国人と、どの程度の交流がありますか。※仕事上の交流も含めてお答えください。

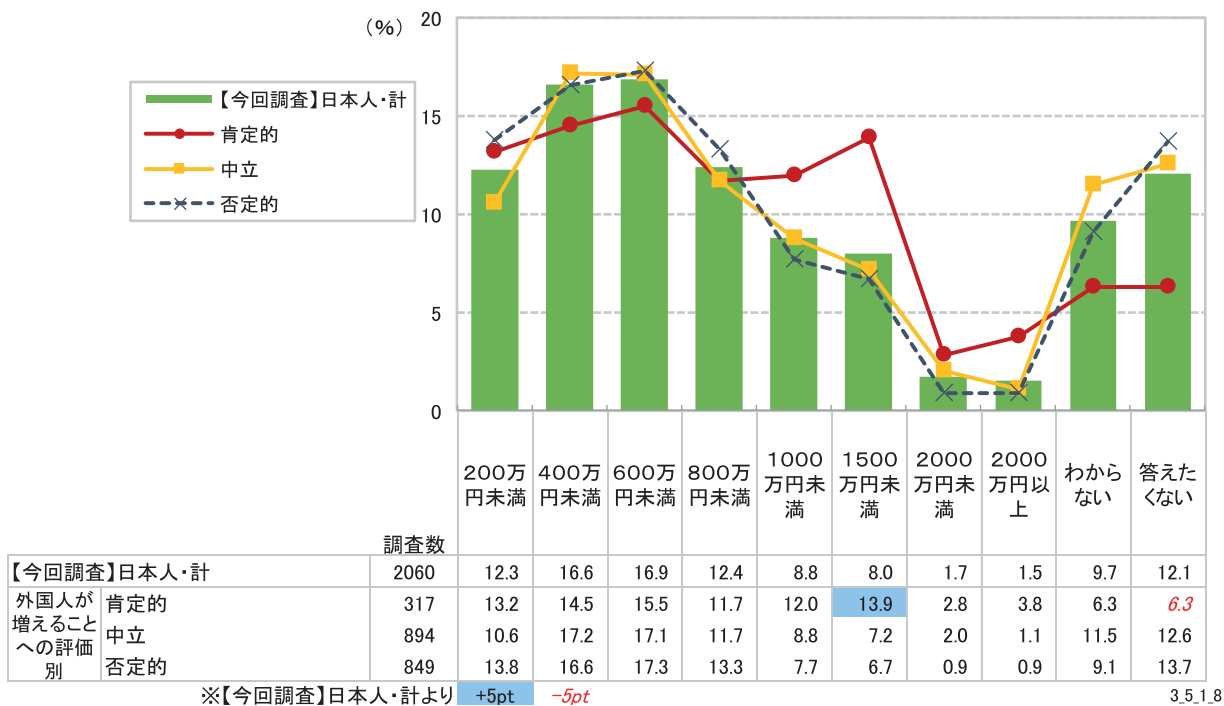
		交流あり・計			交流なし・計		交流あり・計	交流なし・計
		かなり頻繁に交流している	ある程度日常的に交流している	たまに交流している	あまり交流はない	まったく交流はない		
●凡例								
【今回調査】日本人・計	(n=2060)	3.1% 5.7	9.6	16.8	64.8		18.3	81.7
外国人が増えることへの評価別								
肯定的	(n=317)	9.5	13.9	13.2	20.5	42.9	36.6	63.4
中立	(n=894)	2.1	4.4	10.5	17.4	65.5	17.0	83.0
否定的	(n=849)	1.8	4.0	7.2	14.8	72.2	13.0	87.0

※【今回調査】日本人・計より +10pt +5pt -5pt

3.5.1.7

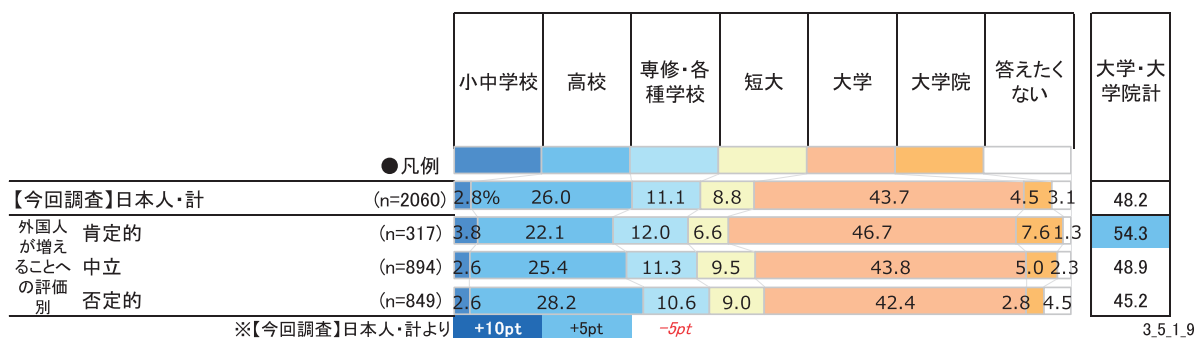
■ 外国人が増えることについて「否定的」な層は、「400万円未満」から「800万円未満」の比率が相対的に高い。

■世帯年収(全体／単一回答)



■ 外国人が増えることについて「否定的」な層ほど、最終学歴が「高校」の割合が増える。「専修・各種学校」、「大学」および「大学院」は、「肯定的」な層ほどその割合が高くなっている。

■最終学歴(全体／単一回答)

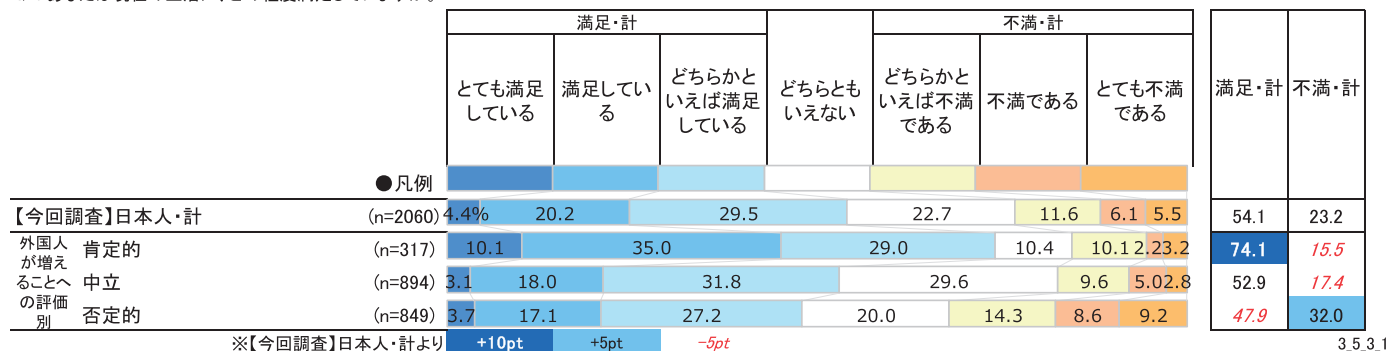


③【外国人が増えることへの評価別】満足度指標

■ 外国人が増えることへの評価が高いほど、現在の生活について「とても満足している」と「満足している」を合わせた「満足・計」の比率が高い。

■生活満足度（全体／単一回答）

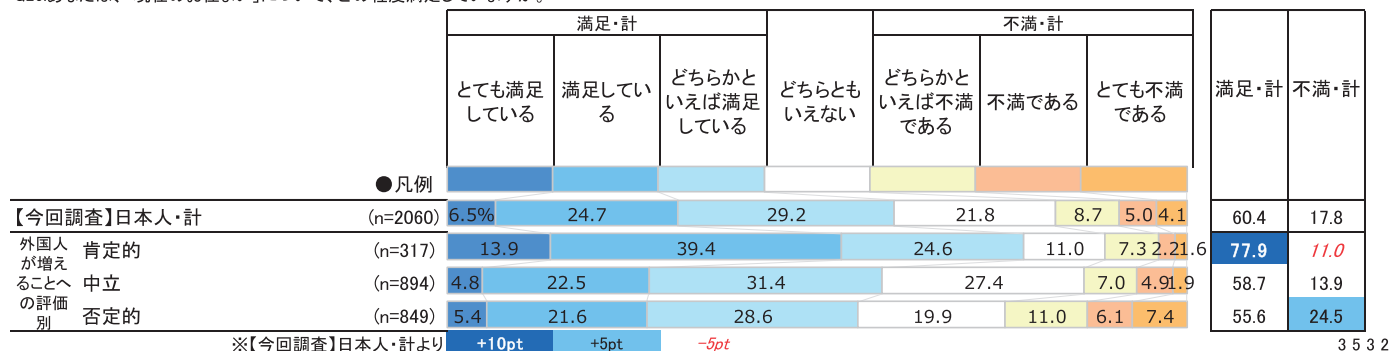
Q25.あなたは現在の生活に、どの程度満足していますか。



■ 前項目の生活満足度と同様、外国人が増えることへの評価が高いほど、現在の住居について「とても満足している」と「満足している」を合わせた「満足・計」の比率が高い。

■住居満足度（全体／単一回答）

Q26.あなたは、「現在のお住まい」について、どの程度満足していますか。

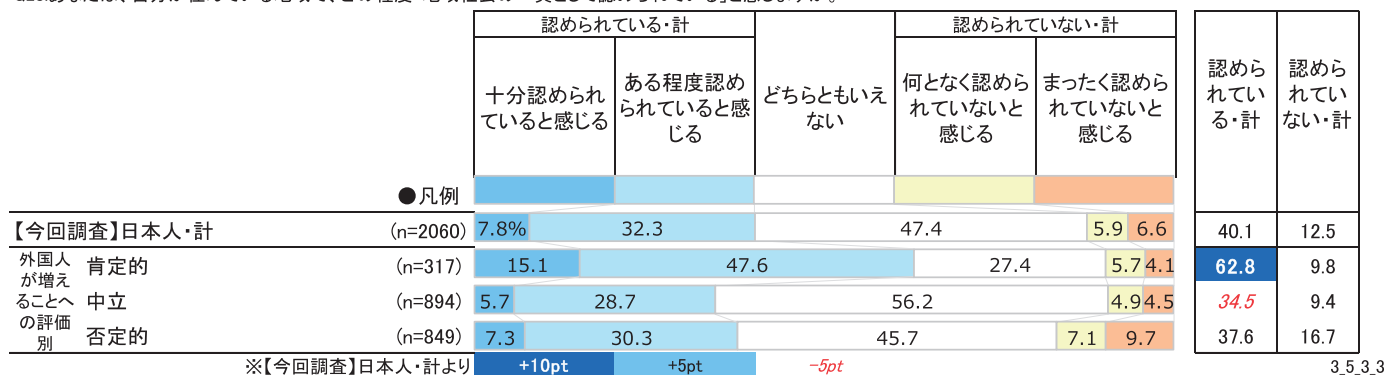


■ 「認められている・計」層のうち、外国人が増えることに対して「肯定的」な層は63%。他の層よりも突出して高くなっている。

- 住んでいる地域で自分がどの程度認められているかという「被承認度」と、外国人が増えることへの評価の関係は、他の満足度指標と異なってクロス集計ベースでの相関関係はみられないが、十分に高い水準である。

■被承認度（全体／単一回答）

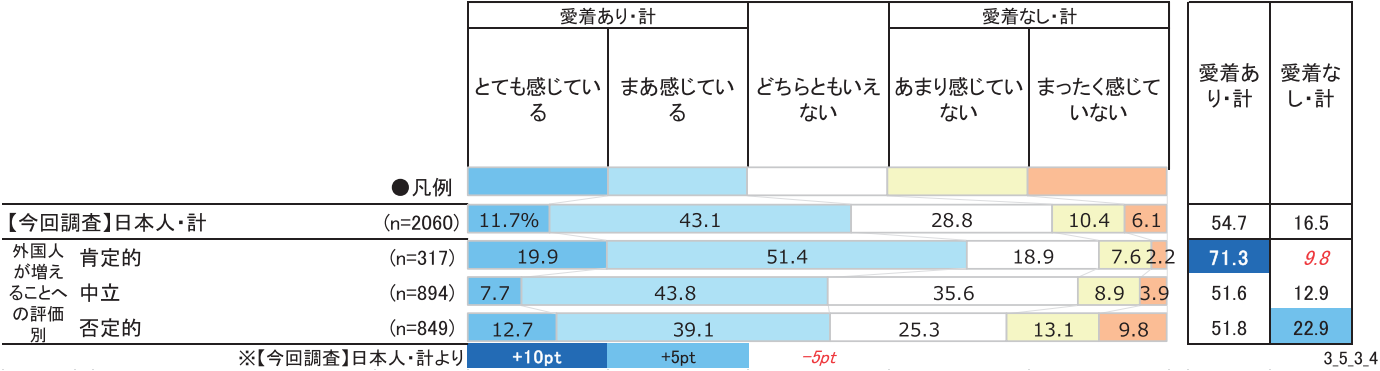
Q28.あなたは、自分が住んでいる地域で、どの程度「地域社会の一員として認められている」と感じますか。



- 住んでいる地域への愛着度と、外国人が増えることへの評価とも、クロス集計ベースでの相関の高さがわかる。
- 「愛着あり・計」は、「中立」層と「否定的」層とで同程度の割合だが、「愛着なし・計」は外国人が増えることに対して否定的な層ほど高くなっている。

■地域への愛着度(全体／単一回答)

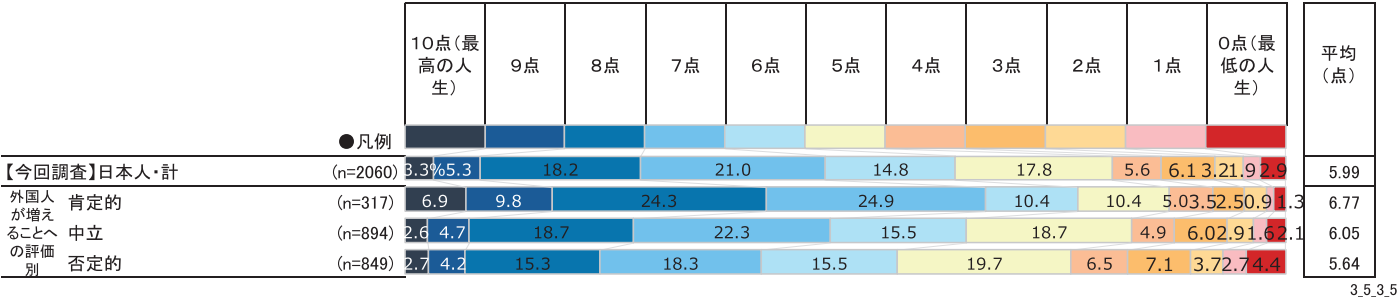
Q30 あなたは、現在住んでいる地域に愛着を感じていますか。



- 代表的な Well-being 指標のひとつであるラダー（幸福度）も、外国人が増えることに「肯定的」層の平均点（6.8点）は「否定的」層に比べて1点以上高くなっている。

■well-being指標(ラダー)(全体／単一回答)

Q31. 考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか。あなたにとっての「最高の人生」を10点、「最低の人生」を0点とした場合、現在のあなたの人生の位置が何点くらいになるかをお答えください。



日本人調査サマリー

日本人と外国人の接触は増えているが、交流そのものは限定的である

- 近隣に外国人が住む人は増え、外国人の友人がいる人も3割弱まで増加した。
- 一方、日本に住む外国人と「交流なし」は65%で、交流希望も20%にとどまり、前回調査から大きく低下。

外国人が身近に増えることへの評価は、前回調査より明確に悪化

- 「良いと思う」は15%に対し、「良いと思わない」は4割超。前回調査から肯定的評価が約10ポイント減り、否定的評価が約10ポイント増加した。
- 一方で、「日本人の働き手が足りないなら仕方ない」という消極的な容認は半数弱に達している。

日本人が外国人に強く求めているのは、地域への参加よりも「他人に迷惑をかけないこと」である

- 「集団で大騒ぎしない」「ゴミ出しのルールを守る」が6割を超え、騒音や公共空間での振る舞いへの要求も高い。
- 一方、町内会への加入や地域行事への参加など、コミュニティへの積極的な参加を求める声は相対的に低い。

外国人に求めるマナーの強さと、実際の被害経験には大きな開きがある

- 外国人に守ってほしいと考える生活ルールは多いが、実際に迷惑を被った人の割合は大幅に低い。「集団で大騒ぎしない」「ゴミ出しのルールを守る」では、要求と実体験の間に約40ポイントの差がある。

外国人増加への不安は、雇用よりも治安・マナー・土地取得に向いている

- 否定的評価の理由では、「治安が悪くなる」が56%、「公共マナーが悪くなり生活環境が悪化する」が5割超、「日本の土地が外国人に買い漁られる」が4割弱。一方、「日本人の雇用が失われる」は20%にとどまる。

前回調査から大きく伸びたのは、愛国主義や純化主義ではなく「排外主義」

- ナショナリズム3指標のうち、愛国主義指標はほぼ横ばい、純化主義指標は若干低下した一方、排外主義指標だけが大幅に上昇。また、外国人が増えることへの評価との相関も、3指標の中では排外主義が最も強い。

外国人への寛容性には、海外経験や外国人との接触経験が関係している

- 外国語習熟度、海外居住経験、外国人との交流頻度が高い人ほど、外国人が増えることを肯定的に評価する傾向が強い。

さらに、日本人自身の幸福度との関係も大きい

- 外国人が増えることを肯定的に捉える人ほど、生活満足度、住居満足度、地域への愛着が高い。
- 幸福度についても、外国人が増えることに肯定的な層の平均は6.8点で、否定的な層より1点以上高い。外国人への態度は、外国人そのものだけでなく、日本人自身が現在の暮らしをどの程度幸福に感じているかとも関係しているといえよう。

全体として

今回の調査では、外国人が増えることに対する日本人の意識が前回より明確に厳しくなり、とりわけ排外主義的な意識が強まっていることが確認された

その背景は外国人から実際に被った迷惑だけでは説明できない

- 外国人との接触経験や海外経験の有無に加え、生活満足度、住居満足度、地域への愛着、幸福度といった日本人自身のウェルビーイングも、外国人への態度と関係している。外国人に対する寛容性を考えることは、日本人自身が地域や社会の中でどのように暮らし、どの程度幸福を感じているのかを考えることでもある。

日本で暮らす外国人のウェルビーイング

有馬雄祐

九州大学大学院 人間環境学研究院 都市・建築学部門 助教

ありま・ゆうすけ／東京大学博士(工学)。専門は建築環境工学。

熱環境など物理面から建築環境の予測・評価を行うほか、ウェルビーイング概念に基づく心理面からの環境評価にも取り組んでいる。

「A. 分析の詳細(表A1～表A7)」を本報告書WEB版で公開しています。

<https://www.homes.co.jp/souken/report/202609/>

1 移住とウェルビーイング

自分が生まれた土地を離れ、異なる文化の中で暮らすことは、経済的なコストや心理的なストレスを伴うことであるに違いない。それでも人が移住するのは、移住先の土地で暮らすことで得られる利益があるからである。移住についての古典的な理論では、主な利益として経済的な側面が重視されてきた。資本主義社会における合理的な経済人を想定した移住の理論は、プッシュプル・モデルと呼ばれている。このモデルでは、賃金格差が移住の流れを生み出す主な駆動力と見なされる。あるいは、国同士の地理的な距離や、歴史的な背景なども、移住を左右する要因となるに違いない。しかし、こうした古典的な移住の理論では、上手く説明できないリアルな移住の現象がある。例えば、送り先の国の経済が発展した場合、移住先となる国との賃金格差は小さくなるため、プッシュプル・モデルでは移住する人の数は減少することが予測される。ところが実際には、経済の発展に伴い移住する人の数はむしろ増加する現象がしばしば生じる。改革開放後の中国や、近年は経済成長を続けるベトナム、インドネシアから、日本への留学・就労を目的とする移住が大幅に増加してきたことも、そうした一つの事例だ。

実世界の複雑な移住の現象を捉える理論として、オランダのアムステルダム大学のハイン・デ・ハースが提唱する「意欲—潜在能力モデル」^[1]がある。経済学者アマルティア・センのケイパビリティ(潜在能力)の概念を移住理論に応用したこのモデルでは、経済発展に伴う人々の「意欲」と「潜在能力」の関係において移住の現象を捉える。出身国の経済発展に伴い、豊かな国々の情報に触れる機会などが増すことで移住の「意欲」は高まるが、移住先との賃金格差が縮小すれば移住の意欲は弱まることになる。しかし、出身国の経済発展は、人々が移住する能力を向上させるため、賃金格差の縮小に伴う意欲の低減が部分的に補われる。結果として、移民の数は最貧国より中程度の所得の国々で最も多くなる傾向にある。デ・ハースの意欲—潜在能力モデルは、複雑な移住の現象をより実存的な人間の心理的メカニズムから上

手く説明できるモデルとして、移民研究の分野で広く受け入れられている。

デ・ハースの理論は、移住を人々がより良い生活、すなわちウェルビーイングを実現するための手段として捉える理論であると理解してもよいかもしれない。ウェルビーイングは人生の良好な状態を意味する概念であり、幸福度はその中心的な要素を成している。移住というグローバルな現象を考えるうえで、幸福度は一つのレンズとなるに違いない。国連は2012年から『世界幸福報告書』で世界各国の幸福度をモニターしているが、2018年の報告書^[2]は、移民の幸福度を中心的なテーマとして扱っている。様々な実証的な知見が報告されているが、最も注目すべき知見は、移民の幸福度は移住先の国の人々と驚くほど一致するという事実である。図1は各国の平均的な幸福度と、その国で暮らす移民(外国生まれの者)の幸福度の散布図である。ほとんどの国々が散布図の直線付近に位置しており、移民と市民の幸福度がおおよそ等しい状態であることが確認できる。世界全体で移民と市民(ネイティブ)の幸福度の相関係数は0.96と極めて高い^[2]。移民の受け入れをめぐる賛成・反対の多様な意見があるにせよ、グローバルな幸福度の観点から言えば、移住という手段が世界全体での幸福度を押し上げる機構を担っていることは確からしい。国連で2018年に策定された「安全で秩序ある正規の移住のためのグローバル・コンパクト(GCM)」^[3]では、「移住は移民と出身国、経由国、目的国のコミュニティの人々のウェルビーイングを推進するものである」との原理が掲げられているが、人々が住む場所を自由に選べる権利を保障する枠組みの構築は人道的な観点から言えば推奨されるべきものである。

本調査の目的は、移民の問題を人道的な観点から論じるものでも、ましてや各国の移民政策の是非を問うものではない。これからの移民政策や外国人との向き合い方を考えるための基礎的な知見として、日本で暮らす外国人を取り巻く現状を実証的に把握することが本調査の目的である。本分析では、幸福度という観点から外国人をめぐる問

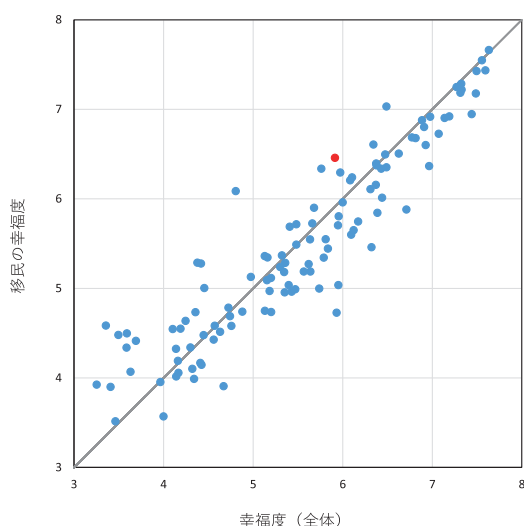


図1：世界各国の市民と移民の幸福度の散布図^{注1}
 （『世界幸福報告書 2018』のデータを使用。赤点は日本）

題について考察したい。例えば、米国の調査会社ギャラップが各国の移民に対する受容度を測るために作成した移民受容指標（MAI）^{注2}において、日本は139カ国中で47位と世界平均よりやや高い水準にあるが、日本で暮らす外国人の幸福度はどの程度なのだろうか。日本で

暮らす外国人のウェルビーイングの実態を把握することは、日本における今後の外国人受け入れの意思決定をする際の情報源の一つになると言えるだろう。また、本分析では日本人の外国人に対する考え方や価値観、ないし外国人の増加に賛成・反対と幸福度の関係性についても把握を試みる。外国人をめぐる問題は日本人の側のウェルビーイングとの関係も重要である。

本調査では、観光、商用、文化・学術活動ないし親族訪問による短期滞在を除き、日本国籍でない在留資格を有する人たちを「外国人」と呼び、分析の対象とする。先行研究の紹介などでは「移民」という言葉も使用するが、「移民」という用語には統一された定義が存在しないこともあり、本分析においては「外国人」と「移民」を厳密に区別せず、文脈に応じて使用する。本調査は2026年5月から7月にかけてWeb調査会社を介して実施した。分析対象とする外国人は1704人（平均年齢±標準偏差：35.7±8.3歳、男性822人、女性882人）であり、関東圏（1都6県）、東海圏（岐阜・静岡・愛知・三重）、関西圏（京都・大阪・兵庫）の在住者である。また、同時期に外国人に対する意識調査等のため、日本人を対象とした調査も実施した。日本人の分析対象者は2060人（45.4±15.3歳、男性1030人、女性1030人）であり、関東地方（1100人）、中部地方（512人）、近畿地方（366人）、九州地方（55人）、その他（27人）の日本全国の在住者である。

2 外国人の幸福度

まず、日本で暮らす外国人の幸福度の実態を確認してみよう。ここでの「幸福度」は、考える最高の人生と最低な人生を想像してもらい、自身の現在の位置を「最低の人生（0点）」から「最高の人生（10点）」までの11段階で回答させる、世界幸福報告書のランキングで用いられているキャントリル・ラダー（以降、ラダー）による測定値である。図2は本調査における外国人と日本人の幸福度の頻度分布である。日本人の平均的な幸福度が5.99であるのに対して、外国人では6.85であり、日本で暮らす外国人の幸福度は全体的に高い傾向にあること

が見てとれる。図1で示した米ギャラップ調査による世界各国のデータにおいても、日本で暮らす外国人は日本人の幸福度に比べて高い傾向にあり、本調査の結果と整合性がある。外国人と日本人の幸福度におけるこの特徴の要因としては、日本の移民受容指標（MAI）が比較的高いことも要因の一つであると推察される。また、諸外国と日本における外国人の属性の相違によるところも大きな要因であると考えられる。諸外国の場合、移民・外国人の中には難民や失業者が含まれるが、日本では、留学を除いて外国人は基本的に何らかの就業を前提

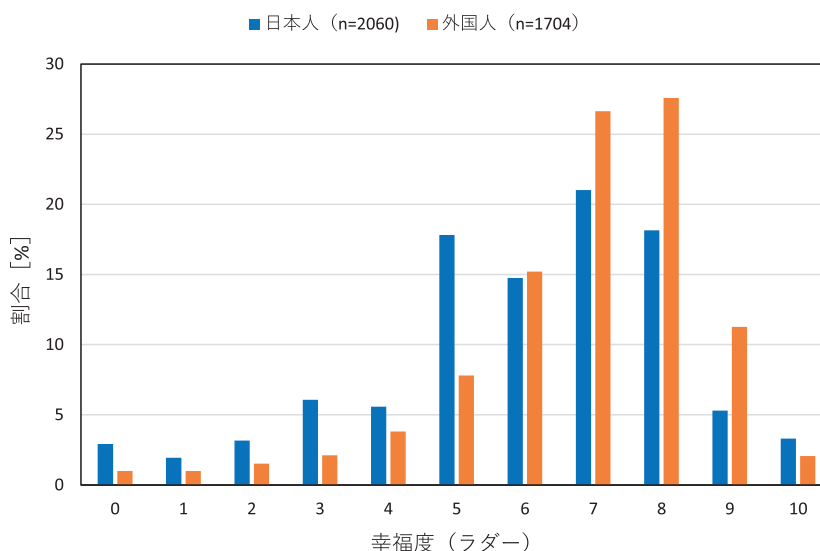


図2：日本人と外国人の幸福度の頻度分布

として受け入れがなされているため、日本で暮らす外国人の幸福度は平均的に見れば諸外国と比較して高くなる傾向があると考えられる。

図3は、日本で暮らす外国人の出身国（国籍）ごとの幸福度の平均値である。参考までに、図中には2026年版の世界幸福報告書における各国の幸福度も示す。日本在住の外国人の幸福度はほとんどの出身国において、出身国の平均値よりも高い傾向が見られるが、ブラジルでは出身国の平均値の方がやや高く、またアメリカや台湾などその差が小さい国々もある。中国や韓国、あるいはインドネシアやミャンマーなど東南アジアの途上国の出身者では、出身国の平均値との差が大きく、日本への移住がウェルビーイングを高める手段として機能していることが示唆される。また、外国人の幸福度を出身国間で比較すると、ミャンマーやネパールといった出身国の幸福度が低い国々から

来た外国人では、日本在住者の幸福度もやや低い傾向にある。外国人（移民）の幸福度が出身国の幸福度の影響を受けるという同様の傾向は、世界全体の移民の幸福度の分析においても観測される現象であり、移民の幸福度は現地の人々の平均的な幸福度と、出身国の幸福度の中間的な程度となる傾向にあることが報告されている^[2]。図1で示した世界各国の幸福度の散布図を見ても、途上国では移民の幸福度は現地の人々よりも高い傾向にあり、反対に先進諸国では現地の人々の幸福度が移民より高い傾向が見られるが、こうした傾向は同様の原理から解釈できる。この傾向の理由は、移民の幸福度が移住先の生活環境により市民に近づく一方で、出身国での社会的・文化的背景の影響が部分的に残るためであると考えられている。

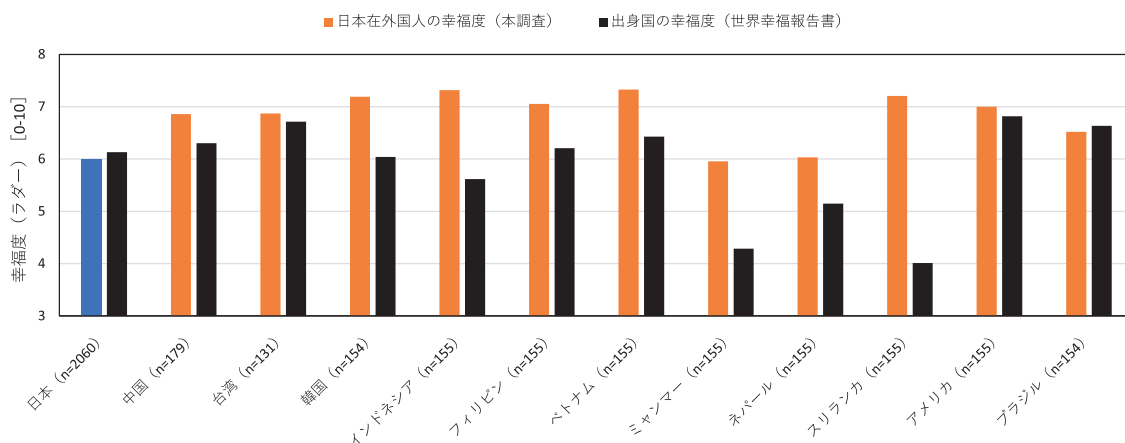


図3：出身国ごとの外国人の幸福度

幸福度は主観的なウェルビーイングであり、同じ尺度で測定されていても、日本人と外国人では幸福度に質的な相違があるかもしれない。そこで、日本人と外国人で個人属性ごとの平均的な幸福度を確認して、傾向を比較してみよう。日本人と外国人のそれぞれで、性別、年齢、所得ごとの幸福度の平均値を示したのが図4である。性別では大きな相違は見られず、日本人と外国人のいずれも女性の幸福度が男性に比べてやや高く、外国人の方がその差は小さい。年齢では、日本人では40歳代を中心に中年層で幸福度が低くなる、いわゆる「中年の危機」に相当する傾向が見られるが、外国人では年齢ごとの幸福度で明確な傾向は確認できない。所得については、日本人では所得が高くなるにつれて幸福度も上昇する傾向にあるが、興味深いことに、外国人では所得が増加しても平均的な幸福度が上昇する傾向は見られない。日本人と外国人では、幸福度と個人属性との関係性の傾向に大きな相違があることが確認できる。

外国人のウェルビーイングを考えるうえで、日本で暮らし始めてからの幸福度の変化は、外国人の日本での暮らしの実態を把握するうえで重要な手がかりであると言えるだろう。そこで、居住年数と世代ごとの外国人の幸福度を確認してみる。図5(a)に日本での居住年数ごとの外国人（1世）の幸福度の平均値を示す。移住から5年未満の外国人の幸福度が6.38と最も低く、日本での居住年数が長い外国人ほど幸福度が高い傾向が見られる。他国の移民を対象とした研究では、居住年数の増加が必ずしも幸福度の向上には結びつかず、幸福度がほ

とんど改善しない、あるいは居住年数の経過に伴い幸福度が低下する傾向も報告されている^[4,5]。居住年数と幸福度の関係性は、移住先の人々が移民をどの程度まで受容しているのかにも左右され、『世界幸福報告書』^[2]においても移民受容指標（MAI）が低い国々では居住年数の長い移民の幸福度が低くなる傾向にあることが論じられている。他国と日本では外国人の属性も異なるため単純に比較することはできないが、日本での居住年数が長い外国人の幸福度が高い傾向にあるという事実は、好ましい実態の一つであると言えるだろう。

次に、外国人（移民）の世代ごとの幸福度を図5(b)に示す。全体的な傾向として、2世の幸福度は1世と比べてやや低く、3世の外国人で最も高い傾向が見られる。2世の幸福度が1世に比べて低下する現象は他国での移民の調査においても広く観測されている現象であり、例えばSafi (2010)^[4]は欧州13カ国を対象とした分析から、両親とも移民である2世の生活満足度は、移住先で生まれ育ったにもかかわらず、1世より高くないことを示している。その背景として、2世が自らの不利な生活条件を親世代以上に不公正なものとして認識しやすいことや、移住先社会における差別の影響がある可能性を指摘している。外国人にとっての幸福度は、世代によっても質的に異なるものである可能性がある。

日本で暮らす外国人の幸福度には日本人とは異なる傾向があり、また外国人では世代ごとでも傾向に相違が見られる。こうした相違を生み出す要因の一つとして考えられるのが、幸福度を判断する際の参

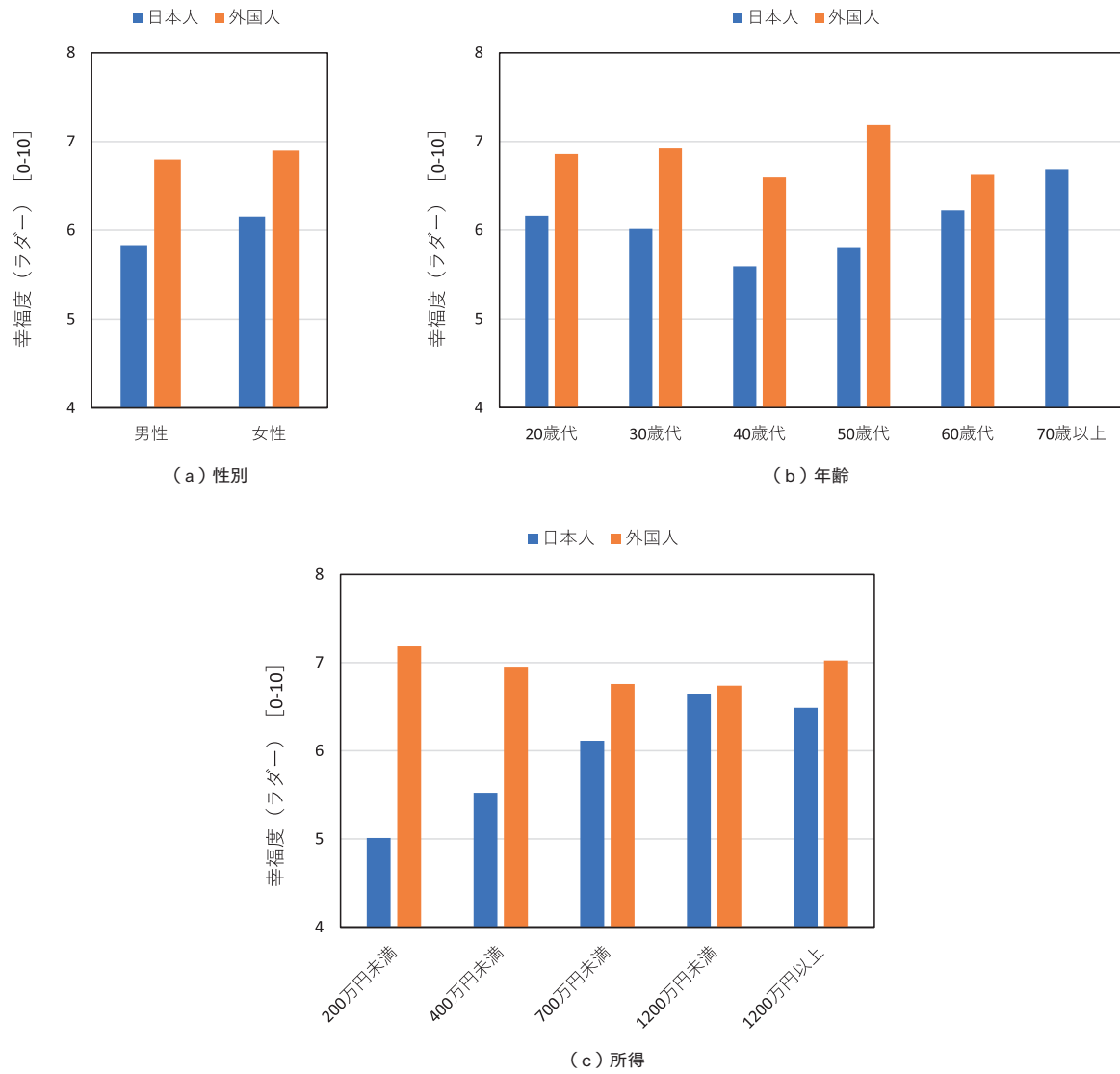


図 4：日本人と外国人の個人属性ごとの幸福度

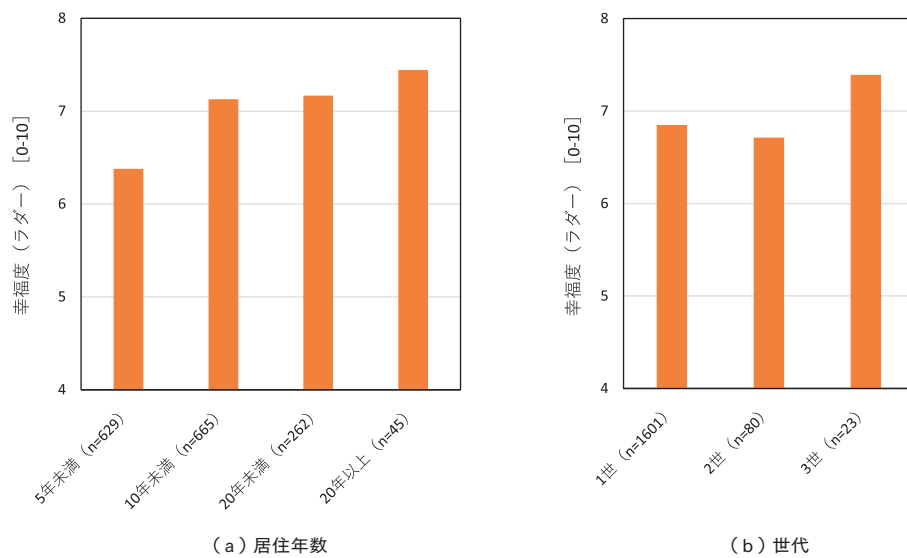


図 5：居住年数および世代ごとの外国人の幸福度

照点の違いである^[6]。日本人にとっての幸福度の基準は、基本的には周囲の日本人の暮らしが基準になる。一方で、外国人の場合、日本での暮らしだけでなく、出身国での人々の暮らしの状況も自身の幸福度を判断する際の基準に影響するに違いない。1世の場合、移住先での幸福度は、出身国で暮らしていた場合の状況を踏まえて判断されるとすれば、日本への移住によって生活状況が改善したと認識されれば、それが主観的な幸福度を高める要因になり得る。一方で、移住先で生まれ育った2世では、幸福度を左右する基準は日本社会の一般的な生活水準や日本人の暮らしに参照点の重点が置かれることになるだろう。もし仮に、2世の客観的な生活の状況が親世代から大きく改善していなければ、幸福度が低く評価される可能性がある。

外国人では所得と幸福度との間に日本人の場合ほど明確な関係性が見られない点についても、同様に参照点という観点から解釈できるかもしれない。日本人の場合でも、所得の上昇は参照点となる基準を押し上げるため、人によっては所得の増加が主観的な幸福度の向上に結びつくとは限らない。統計的に見ても、所得の増加が人々が想像するほど大きく幸福度を向上させるわけではない事実は（所得が倍増した際のラダーでの幸福度の増加は約0.3点）、参照点の変化が関係しているのかもしれない。外国人の場合、所得の上昇に伴う参照点の変化は、出身国での生活と日本での生活の両方が関係してくるため、一般的な日本人と比べてより大きい可能性がある。

3 幸福度と交流

ウェルビーイングの研究において、幸福度を左右する最も大きな要因は社会的な人間関係であることが知られている。では、外国人と日本人の交流は、双方の幸福度とどのように関係しているのだろうか。また、交流は常に望ましいかたちで行われるとは限らない。日本人にとっての外国人からの迷惑・被害、あるいは外国人が受ける差別的な経験などは、幸福度にどのような影響があるのだろうか。外国人と日本人の交流に関わる要因と幸福度の関係性を実証的なデータから分析してみよう。

日本人の幸福度を目的変数、性別や年齢等の個人属性を統制変数、交流関連の要因を説明変数とする重回帰分析を実施した。交流関連の変数は「外国人との交流頻度」「外国人からの迷惑・被害」「地域での承認」^{注3}である。「外国人との交流頻度」は「あなたは日頃の生活において、日本に住んでいる外国人と、どの程度の交流がありますか」という質問に対して「まったく交流はない（1点）」から「かなり頻繁に交流している（5点）」の5段階で回答させた。「外国人からの迷惑・被害」は、

「では、あなたは実際に、近所に住む外国人に迷惑をかけられたり、嫌な思いをしたことがありますか」という質問に対して、「分別などゴミ出しのルールを守らない」「集団で大騒ぎする人を見かける」など16項目の選択肢の合計点で評価した。「地域での承認」は「あなたは、自分が住んでいる地域で、どの程度『地域社会の一員として認められている』と感じますか」という質問に対して、「まったく認められていないと思う（1点）」から「十分認められていると感じる（5点）」までの5段階で回答させた。

図6に日本人を対象とする幸福度に対する各変数の標準化偏回帰係数を示す。標準化偏回帰係数は、各変数の目的変数に対する影響度として解釈できる。交流関連の変数はいずれも幸福度に対して統計的に有意な正の効果があることが確認できる。特に「地域での承認」では強い効果が見られる。一方で、「外国人からの迷惑・被害」は統計的に有意であるものの効果は弱く、日本人の幸福度にとってそれほど深刻な問題にはなっていないことが確認できる。

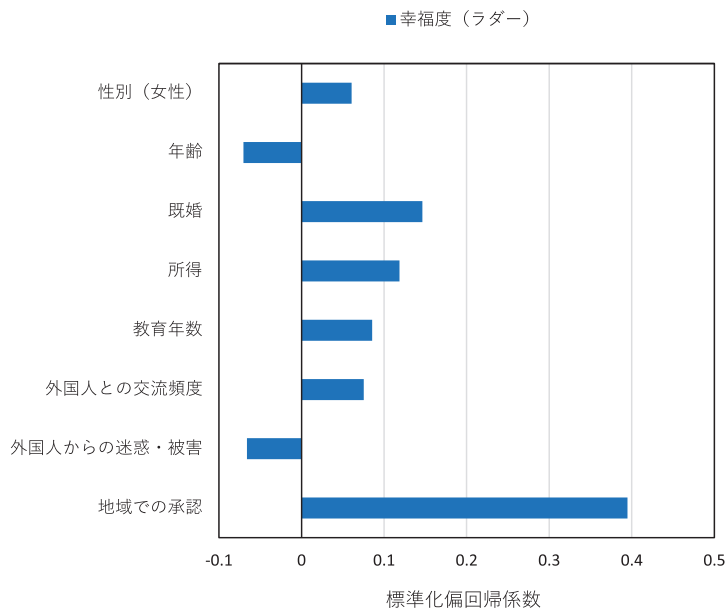


図6：日本人の幸福度に対する交流関連要因の影響度（標準化偏回帰係数）^{注4}
（表A4に記載のモデル1a）

次に、外国人を対象に交流関連の要因が幸福度に与える影響を分析する。交流関連の説明変数は「日本人との交流頻度」「差別の経験・知覚」「地域での承認」である。「差別の経験・知覚」は、「あなたが今住んでいる地域や集合住宅のコミュニティについて、苦勞したり困ったりした点はありませんか」という質問に対する選択肢のうち、差別に関わる「近隣の日本人が外国人を歓迎していない雰囲気がある」「近隣の日本人から侮蔑的・差別的な言動を受けた」「外国人ということで子供がいじめられた」の選択の合計数で評価した。

図7に外国人の幸福度を目的変数とし、個人属性と交流関連の要

因を説明変数とする重回帰分析で推定された標準化偏回帰係数を示す。外国人においても、「日本人との交流頻度」と「地域での承認」は幸福度に対して有意な正の効果があることが確認できる。特に「日本人との交流頻度」の効果は「地域での承認」と同程度の効果があり、日本で暮らす外国人の幸福度にとっては、日本人との交流が重要な要因の一つであることが示唆される。また、「差別の経験・知覚」は幸福度に対して負の効果があることが確認できる。日本人からの差別的な扱いや歓迎されていない雰囲気は、外国人にとっては人生全般の幸福度に影響している可能性があることが示唆されている。

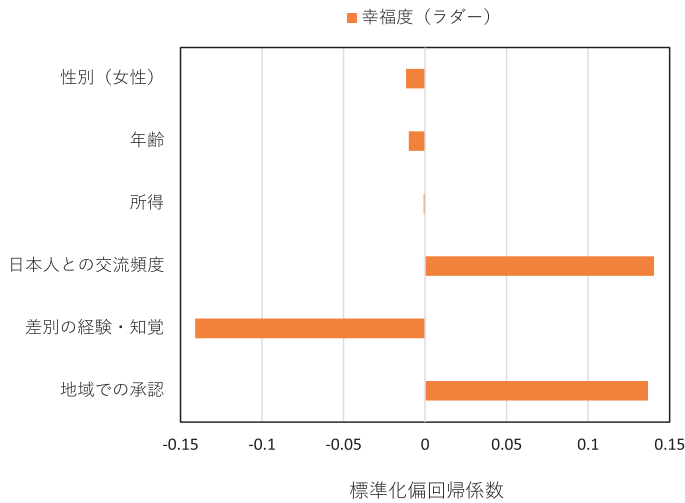


図7：外国人の幸福度に対する交流関連要因の影響度（標準化偏回帰係数）^{注4}
（表A4に記載のモデル1b）

4 外国人の継続居住意向

続いて、外国人の日本での継続居住意向について分析してみよう。日本で暮らす外国人の継続的な居住意向の把握は、外国人の政策を考えるうえでも重要である。日本での継続的な居住を希望するか否かは、幸福度とも密接に関わる問題であると推察される。そこで、幸福度がどの程度まで継続居住意向に対して効果があるのかを重回帰分析で評価してみよう。また、ここでは幸福度とともに、「日本社会への適応度」と「日本語の習熟度」も説明変数として考慮した。「日本での継続居住意向」は、「あなたは、今後何年くらい日本で暮らしたいと希望しますか」という質問に対して、「できるだけ早く自国や別の国へ移りたい」「数年住んだら自国や別の国へ移りたい」「今のところ決めていない・わからない」「できれば長く日本に住み続けたい」「できれば日本に永住したい」の5段階で回答させて、1点から5点で得点化した。「日本社会への適応度」^{注5}は、「現在、あなたが生活するうえで、どのようなことに気を配っていますか」という質問に対して、「分別などゴミ出しのルールを守る」や「約束の時間を守る」などの計12個の日本的な暗黙のルールの選択数の合計点で評価した。加えて、「日本語の習熟度」を「あなたは、日本語をどの程度使えますか」という質問に対して、「ほとんどコミュニケーションが取れない水準」「片言でなんとかコミュニケーションが取れる水準」「日常会話には支障がない水準」「仕事や

学業に使える水準」の4段階で回答させて、1点から4点で考慮した。

図8に日本での継続居住意向を目的変数とする重回帰分析で推定された標準化偏回帰係数を示す。幸福度は継続居住意向に対して有意な正の効果があり、幸福度が高い人ほど継続居住意向は高い傾向が見られる。また、「日本社会への適応度」も継続居住意向に対して有意な正の効果がある。また、「日本語の習熟度」については日本での継続居住意向に対する統計的に有意な効果は見られない。

日本社会への適応が進んでいる外国人ほど、日本での継続居住意向は高い傾向にある。日本社会への適応は居住年数とも密接に関連することが推察されるため、来日5年未満の短期滞在の外国人と、それ以外の長期滞在の外国人の日本社会への適応の実態についても把握しておこう。図9に、短期滞在と長期滞在の外国人の日本社会への適応の割合を示す。図からも明らかな通り、短期滞在と長期滞在の外国人では日本社会への適応の進み具合には大きな差があることが確認できる。継続居住意向は居住年数とも正の相関が見られるが、居住年数に伴う継続居住意向の増加の一部は日本社会への適応を介して進行すると考えられる^{注6}。

次に、日本での継続居住意向を目的変数として、在留資格の効果を重回帰分析で確認する。在留資格は人数が多いものから、就労関連

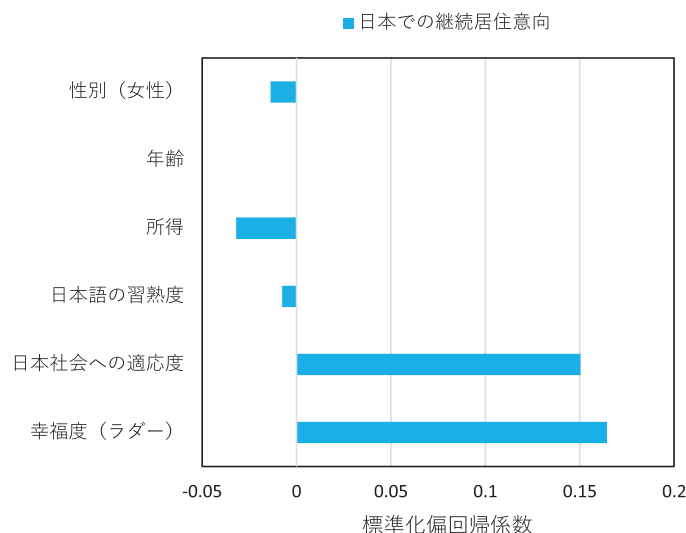


図8：継続居住意向に対する幸福度等の影響度（標準化偏回帰係数）
（表A5に記載のモデル2a）

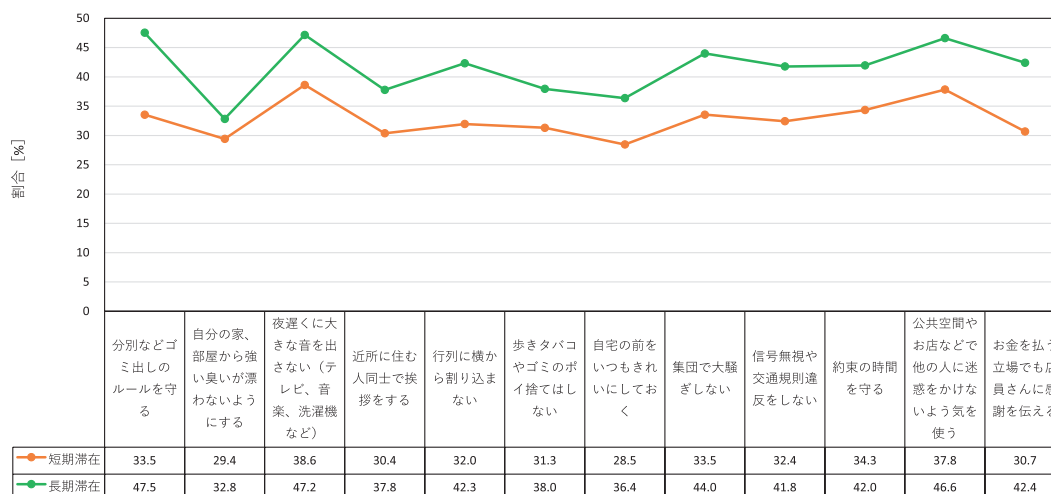


図9：短期滞在（5年未満）と長期滞在の外国人の日本社会への適応の割合

として「技術・人文知識・国際業務」「技能（調理師、スポーツ指導者等）」「技能実習および特定技能」、身分・地位に関して「永住者（永住許可を受けた者）」、そして「留学」を説明変数として考慮した。図10に在留資格を含む各説明変数の標準化偏回帰係数を示す。まず「技術・人文知識・国際業務」および「留学」は強い正の効果があり、これらの在留資格を持つ外国人は日本に住み続けたいという意向が高い傾向にあることが確認できる。また、「永住者」「技能」についても、統計的に有意な正の効果は確認される。一方で、「技能実習・特定技能」の継続居住意向に対する有意な効果は確認できない。「技能・人文知識・国際業務」と「技能実習・特定技能」との相違などを踏まえると、全般的な傾向として、日本で職業的な基盤を形成し、キャリアを継続できる見通しのある外国人ほど継続居住意向が高いことが分かる。一方、「留学」はそれ自体が一時的な在留資格であるにもかかわらず、継続居住意向との強い正の相関が確認される点は興味深い。日本で学ぶ外国人留学生の多くは卒業後の日本国内での就職やその後の日本社会での生活を視野に入れており、将来的な定着を希望する人が多い可能性が示唆される。

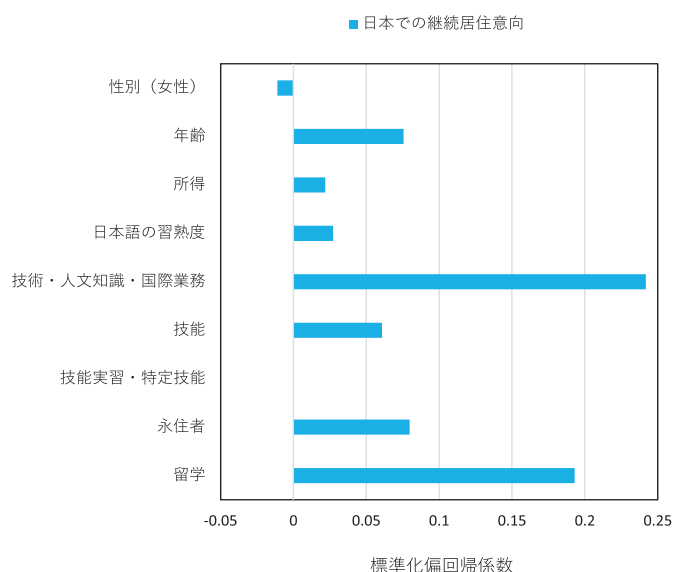


図10：継続居住意向に対する在留資格等の影響度（標準化偏回帰係数）
（表A5に記載のモデル2b）

5 幸福度と外国人をめぐる考え方・価値観、態度

外国人をめぐる考え方や価値観、あるいは受け入れの賛否には、日本人の間でも大きな相違がある。ここでは、外国人をめぐる考え方・価値観および態度と幸福度の関係性について分析してみよう。一般に、幸福度と外国人に対する態度との間には相関関係があり、幸福度が低い人々の方が外国人に対して否定的な態度を示す傾向にあることが既往研究で示唆されている。例えば、Prati (2024)^[6]は、世界各国の調査データを用いた分析から、国レベル（118カ国）と個人レベル（120カ国、約66万人）のいずれにおいても、主観的幸福度が低いほど、異なる宗派や外国人などの外集団に対して否定的な傾向にあることを報告している。

本調査において外国人をめぐる考え方・価値観としては、「排外主義」「愛国主義」「純化主義」そして「外国人への寛容さ（寛容度）」を回答させており、これらの考え方・価値観と幸福度の関係性を分析する。このうち、「排外主義」「愛国主義」「純化主義」の3つはナショナリズムの下位概念として位置付けられる。「排外主義」は「日本に定住しようと思って日本に来る外国人が増えれば、犯罪発生率が高くなる」「日本に定住しようと思って日本に来る外国人は日本人から仕事を奪う」「不法滞在している外国人を国外退去させるために、日本政府はもっと厳しく取り締まるべきだ」の3項目、「愛国主義」は「国旗・国歌を教育の場で教えるのは当然である」「日本人であることに誇りを感じる」「子どもたちにもっと愛国心や国民の責務について教えるように、戦後教育を見直さなければならない」の3項目、「純化主義」は、重要と

考える程度を「日本で生まれたこと」「日本の国籍を持っていること」「先祖代々、日本民族であること」の3項目で回答させた^{注7}。また、「寛容度」は「外国人が隣人になることに抵抗はない」「外国人の価値観や行動の違いは違いとして尊重したい」「外国人に『郷に入っては郷に従え』を強制すべきではない」「外国人増加による日本への影響は、時代の変化として受け入れるべきだ」「自分または家族や親戚が外国人と結婚することに抵抗はない」の5項目で評価した。

また、外国人が増えることへの最終的な態度を「外国人増加に反対」として、「あなたは、ご自分の住まいや職場など、日常生活の周辺に外国人が増えることについて、どのように思いますか」という質問に対して「とても良いと思う（1点）」から「まったく良いとは思わない（5点）」で回答させた。

表1に外国人をめぐる考え方・価値観および態度の相関係数を示す。「排外主義」「愛国主義」「純化主義」の3つの考え方・価値観はいずれも正の相関関係にある。これらは「外国人増加に反対」とも正の相関関係にあり、ナショナリズムは外国人の増加に否定的な態度と関連することが分かる。「排外主義」と「外国人増加に反対」の相関が0.400と最も強く、「愛国主義」との相関は比較的弱い。また、「寛容度」と「外国人増加に反対」との間には-0.672と強い負の相関が見られる。ナショナリズムに関わる3つの考え方・価値観は「寛容度」と基本的に負の相関関係にある。

表1：外国人をめぐる考え方・価値観および態度の相関係数

	排外主義	愛国主義	純化主義	寛容度	外国人増加に反対
排外主義	1				
愛国主義	0.407	1			
純化主義	0.504	0.464	1		
寛容度	-0.380	-0.069	-0.243	1	
外国人増加に反対	0.400	0.059	0.233	-0.672	1

外国人をめぐる考え方・価値観を目的変数として、個人属性を統制変数、幸福度を説明変数とする重回帰分析の結果を図11に示す。まず、幸福度は「愛国主義」に対して正の効果があり、幸福度が高い人ほど愛国主義的な傾向が見られる。また、「寛容度」についても幸福度と有意な正の相関関係が見られ、幸福度が高い人ほど外国人に対して寛容な傾向にある。「純化主義」と幸福度はそれほど強い相関は見られないが、統計的には有意な正の効果を確認される。「排外主義」については、幸福度との統計的に有意な関係は見られない。つまり、幸福度が高い人ほど愛国主義的であり、やや純化主義的である一方、外国人に対しては寛容であるという特徴がある。「愛国主義」と「純化主義」は「外国人増加に反対」と正の相関関係にある一方、「寛容度」は負の相関関係にあることを踏まえると、幸福度と外国人をめぐる態度との関係は複雑なものであることが分かる。

その他、個人属性で見れば、若い人たちほどやや排外主義的な傾向

にあることが確認できる。既往研究では、若い人ほど外国人に対して肯定的な態度であるとの議論や報告がなされてきたが^[7]、近年ではそうした傾向は変化している可能性がある。また、男性の方が愛国主義の傾向が強いことが見てとれる。

次に、「外国人増加に反対」を目的変数として、個人属性を統制変数、幸福度を説明変数とする重回帰分析の結果を図12に示す。幸福度は「外国人増加に反対」に強い負の効果があり、幸福度が低い人ほど外国人の増加に反対する傾向があることが確認できる。また、性別による違いも見られ、女性の方が外国人の増加に対して否定的な傾向にある。以上の結果をまとめると、幸福度と外国人をめぐる考え方・価値観との関係は一樣ではないものの、外国人の受け入れに対する態度という観点からは、幸福度が高い人ほど外国人に対して寛容であり、幸福度が低い人ほど外国人の増加に対して否定的な態度を示す傾向にあると言える。

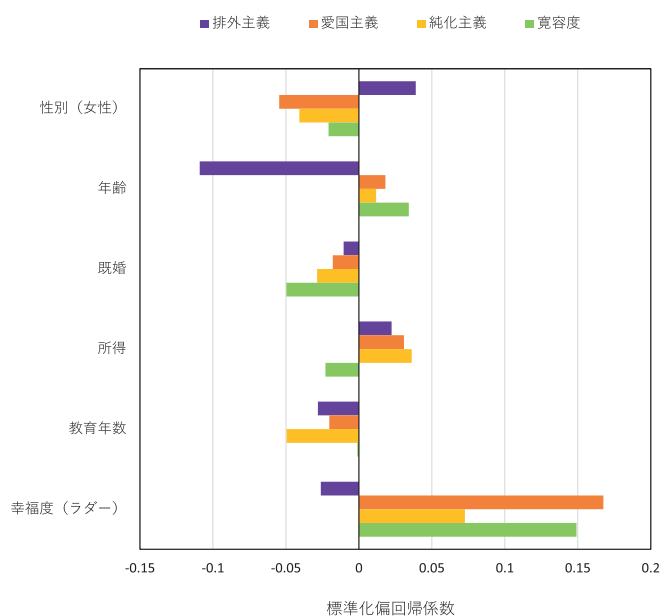


図 11：外国人をめぐる考え方・価値観に対する幸福度の影響度
(標準化偏回帰係数) 注4
(表A6に記載のモデル3a～3d)

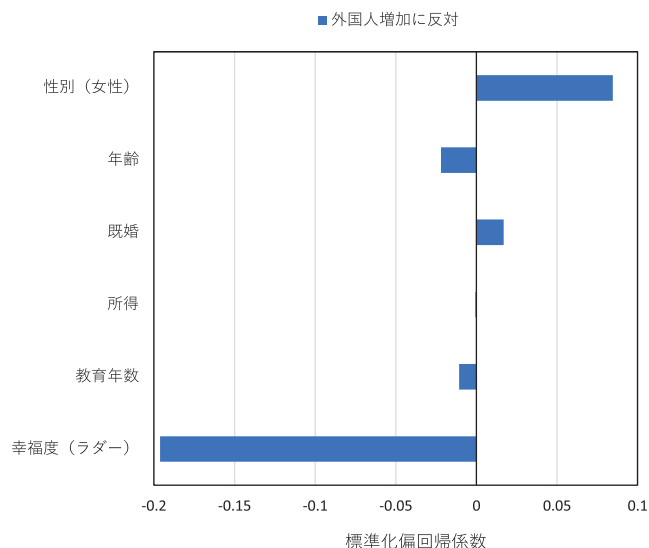


図 12：外国人増加に反対の態度に対する幸福度の影響度
(標準化偏回帰係数) 注4
(表A7に記載のモデル4a)

幸福度の低さはこういった理由から外国人の増加に対する否定的な態度と結びついているのだろうか。外国人の受け入れについての肯定的な意見と否定的な意見の回答の割合を、幸福度の高低のグループごとに確認してみよう。図13に、「幸福度(低)」「幸福度(中)」「幸福度(高)」ごとの、肯定的な意見と否定的な意見の回答割合を示す。「幸福度(低)」は幸福度(ラダー)が4点以下、「幸福度(中)」は幸福度が5～7点、「幸福度(高)」は幸福度が8点以上としてグループ分けをした。

肯定的な意見については、「幸福度(高)」の人たちで全般的に回答の割合が多い。特に、「いろいろな国籍の人が身近にいと生活が楽しくなる」「いろいろな文化が混ざり合って地域が楽しくなる」「日本人の国際感覚が養われる」「日本の良さ・魅力を海外に発信してくれる」などの項目では、幸福度が高い人たちが回答の割合が多い傾向がある。一方で、「幸福度(低)」では全般的に肯定的な意見の割合は少ない。ただし、「日本人がやりたがらない仕事をしてくれる」では「幸福度(低)」の人たちが回答の割合が最も多くなっている。

否定的な意見では、「幸福度(低)」の人たちで全般的に回答の割合が多い。特に、「自己主張の激しい人ばかりが増える」「日本社会に溶け込もうとしない人が増える」「日本人の雇用が奪われる」「賃金下がる・上がらない」「公共マナーが悪くなり生活環境が悪化する」「治安が悪くなる」などの項目では、幸福度の低い人たちが回答の割合が多くなる傾向が見られる。

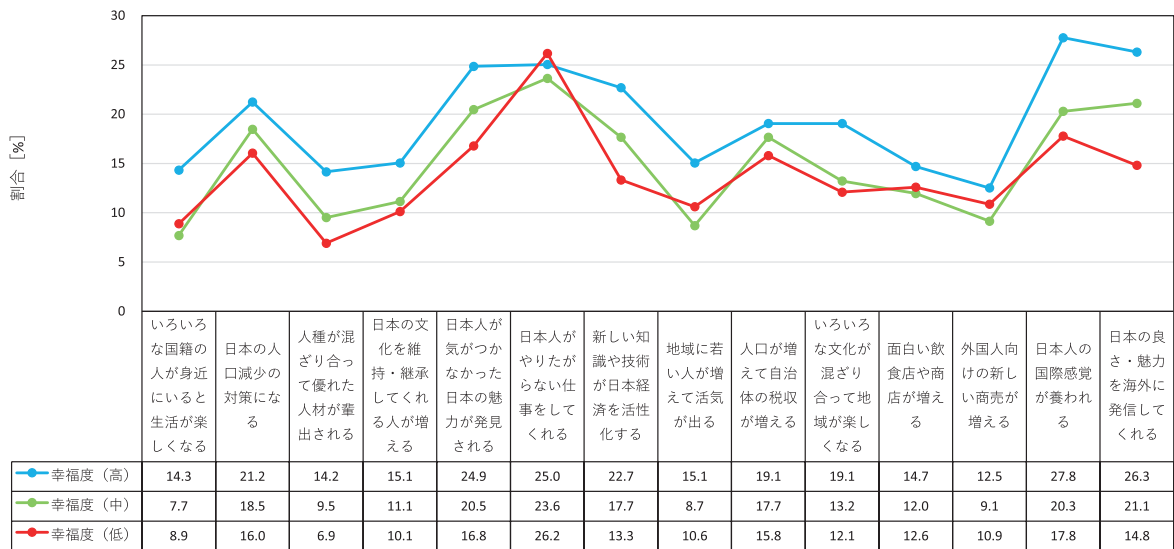
では、日本で暮らす外国人の場合、幸福度によって外国人をめぐる意見に違いは見られるのだろうか。外国人自身が外国人の受け入れについてどのような意見を持っているのか、幸福度との関係を確認してみよう。外国人をめぐる意見については、「日本社会にも移民に対してさまざまな意見があります。以下にあげるような外国人に対する日本人の意見で、あなたが賛同できるものがあればすべてお選びください」という質問に対して、「社会統合」「多文化共生」「排除・管理」に関

わる計16の選択肢で回答させた。図14に、外国人の幸福度によるグループごとの、各項目を選択した回答の割合を示す。興味深いことに、外国人においては幸福度が低い人たちで、外国人をめぐる様々な意見で回答の割合が多い傾向が見られる。特に、「受け入れする外国人の選択・審査を厳しくすべきだ」「受け入れする外国人の人数は慎重にコントロールすべきだ」といった「排除・管理」に関わる意見では、幸福度が低い人たちが回答の割合が多い傾向にある。外国人においても日本人と同様に、幸福度の高低によって外国人をめぐる意見には大きな相違があるようだ。

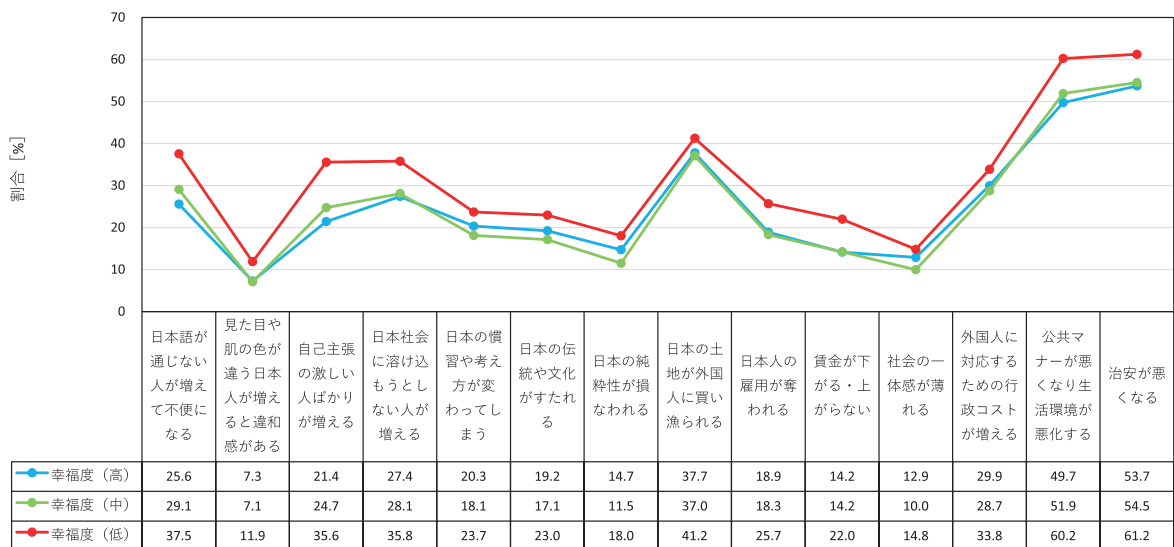
幸福度と外国人をめぐる考え方・価値観や態度との関係性は、必ずしも一方的なものではなく、両者の間には複雑な関係があると推察される。不寛容な考え方や価値観が、幸福度を押し下げている可能性もある。いずれにせよ、外国人の受け入れをめぐる態度が幸福度と密接な関係にあることは確かであり、日本人では幸福度が低い人ほど不寛容であり、外国人の増加に否定的な傾向が見られる。また、外国人では幸福度が低い人ほど、新たな外国人の受け入れに対して慎重で抑制的な態度を示す傾向が見られる。

幸福度と外国人に対する否定的な態度との結びつきは、幸福度研究で有名な大石繁宏とエド・ディーナーが論じた一般的肯定性モデル (General Positivity Model)^[7]の観点から解釈できるかもしれない。このモデルでは、幸福度の高低を心理的な特性と捉えて、幸福度の高い人たちは物事をポジティブに捉えることで生活の様々な領域を肯定的に評価しやすく、反対に幸福度が低い人ほど、脅威などのネガティブな情報に対して敏感になり、人生の様々な側面を否定的に評価する傾向があると考えられる。幸福度に関わる一般的な心理的傾向が外国人に対する態度にも反映され、幸福度が低い人ほど外国人の増加を否定的に捉えやすくしている可能性はある。

一方で、外国人をめぐる態度と幸福度の結びつきは、単なる個々人の心理的な問題に留まるものではない可能性もある。それは外国人が



(a) 肯定的な意見



(b) 否定的な意見

図 13：日本人の幸福度ごとの外国人受け入れに対する意見

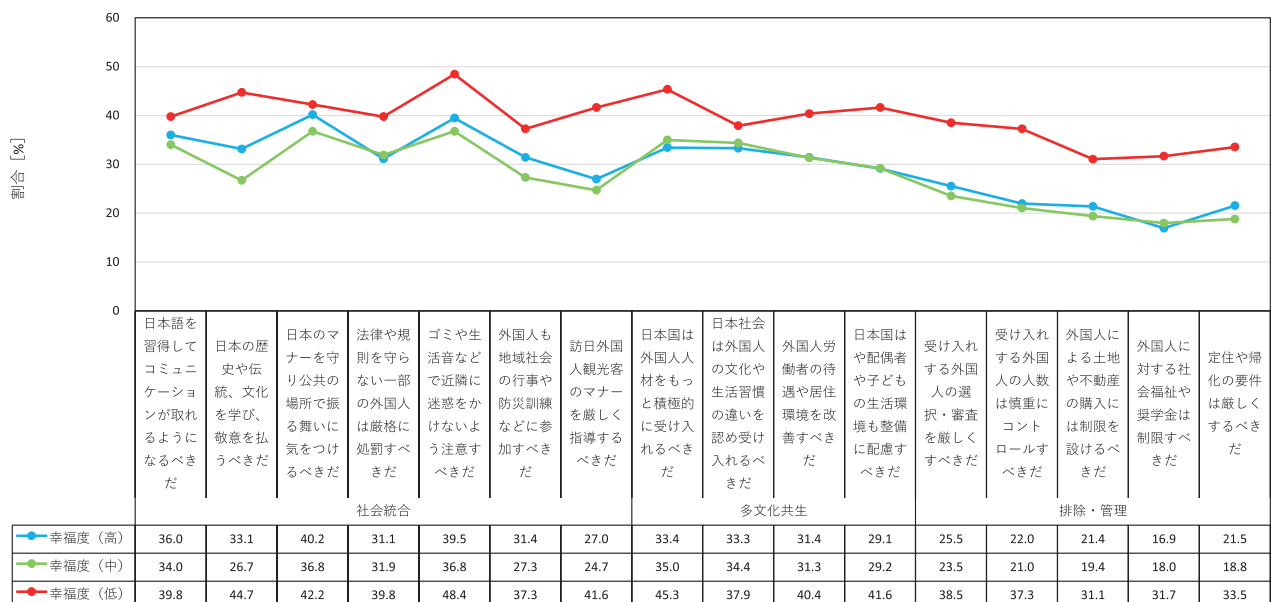


図 14：外国人の幸福度ごとの外国人をめぐる意見

市民に与える影響の社会的な構造を反映しているのかもしれない。移民が受け入れ国の経済に与える影響についての実証的研究では、利益を主張するものと、総合的に見て不利益があると主張するものの両方があり、学術的な議論が続けられている。しかし、移民を受け入れることによって、利益を受ける層と受けにくい層（あるいは不利益を受ける層）が分かれる点については、大方の研究者の間で合意があるようだ^[8]。具体的には、受け入れた外国人を雇用する経営者側では経済的な利益があるのに対して、労働者にとっての利益は小さく、賃金を押し下げる効果があることを示す研究もある。労働市場において、受け入れた外国人と競争的な関係になりやすいのは、経営者の側ではなく労働者の側であるためだ。教育や技能の水準の高低や、経営者か労働者かといった属性は、幸福度とも関連しているはずである。実際、どのような属性の人々が移民の受け入れに否定的であるかを調査した既往研究では、教育水準や技能水準の低い者ほど移民に対して否定的な態度を示す傾向が報告されている^[8,9]。また、労働市場において新たな移民と最も競争的な関係にあるのは、移民である。外国人の新たな受け入れに対して最も否定的であるのは既にその国で暮らす外国人であり、「皮肉なことに、新規の移民との雇用の競争を最も恐れているのは、元移民だ」^[10]と、移民研究者のデ・ハースは述べてい

る。幸福度が低い外国人ほど外国人の受け入れに抑制的な態度を示すという本調査の結果も、そうした事実を部分的に反映しているものと解釈できる。

ただし、現時点では、日本の場合は諸外国とは異なり、労働市場における移民との競争や賃金の低下といった実質的な問題が、日本人の外国人の増加に対する否定的な態度を大きく左右するような状況にはないようだ。例えば、非正規雇用の人々は外国人の増加に反対する割合がやや多い傾向にあることが本調査においても確認される。しかし、外国人増加に反対する態度に対する効果を非正規雇用といった属性を考慮して重回帰分析で評価した場合、「外国人増加に反対」の態度に対する「非正規雇用」あるいは「教育年数」「無職」などの統計的に有意な効果は確認されない（表A7に記載のモデル4b）。従って、日本における幸福度の低さと外国人に対する否定的な態度の結びつきは、社会的な構造の問題というよりは、個々人の心理的な要因を反映したものである可能性が高い。とはいえ、そうした状況はあくまで現時点におけるものであって、今後、日本においても社会的な構造を反映するかたちで外国人をめぐる態度に違いが生じてくる可能性はある。いずれにせよ、外国人をめぐる問題は主観と客観の両面にわたるウェルビーイングと深く関係していることは確かである。

6 まとめ

本分析では、日本で暮らす外国人の実態について、幸福度を中心とした観点から分析した。また、外国人をめぐる考え方・価値観や態度と幸福度の関係性も分析した。本分析で得られた主な知見を以下に要約する。

- ① 日本在住の外国人の平均的な幸福度は、日本人や諸外国と比較してやや高い傾向にある。また、日本人では幸福度と所得の間に正の相関関係が見られるが、外国人では所得と幸福度の間に明確な関係が見られないなど、日本人と外国人では幸福度の傾向に異なる特徴が見られる。
- ② 日本で暮らす外国人の幸福度は、居住年数が長い人ほど高い傾向にある。また、2世の幸福度は1世と比較してやや低い傾向にあり、外国人の1世と2世では幸福度を評価する際の参照点が異なる可能性がある。
- ③ 日本での継続居住意向は、幸福度が高い人ほど、および日本社会への適応が進んだ人ほど高い傾向にある。また、在留資格との関係では、「技能・人文知識・国際業務」など、日本で職業的な基盤がありキャリアを継続できる見通しのある外国人ほど継続居住意向が高い傾向にある。また、「留学」も継続居住意向との正の相関が強く、多くの留学生が日本での就職やキャリア形成を視野に入れていると推察される。
- ④ 日本人と外国人のいずれにおいても、互いの交流頻度は幸福度に対して正の効果があるが、その効果は外国人にとっての方がより強い。また、日本人では外国人からの被害・迷惑の幸福度に対する効果は弱く、一方で、外国人では差別的な経験や歓迎されてい

ない雰囲気を知覚している人ほど、幸福度は低い傾向が見られる。

- ⑤ 幸福度は、外国人をめぐる考え方・価値観や態度と密接に関係しており、日本人では幸福度が高い人ほど外国人に寛容であり、幸福度が低い人ほど外国人の増加に否定的である。また、外国人では幸福度が低い人ほど、新たな外国人の受け入れに対して慎重で抑制的な意見を持つ傾向にある。
- ⑥ 既往研究からも、外国人の受け入れは労働市場で競争関係になり得る労働者層にとっては賃金の低下などの不利益が生じる可能性があり、諸外国では教育水準や技術水準の低い人ほど外国人の受け入れに反対する傾向が高いことが知られている。一方で、日本における本調査では、教育年数や所得の低さ、非正規雇用などの社会経済的な属性が外国人の増加に反対する態度に与える効果は弱く、日本人における幸福度と外国人に対する否定的な態度の結びつきは社会的な構造を強く反映した結果ではない。

上述の実証的な知見を踏まえて、日本における外国人をめぐる状況を整理して、本分析を終えたい。まず、幸福度の観点で見れば、日本で暮らす外国人の幸福度は、諸外国と比較して現時点では比較的良好な水準にあると言えるだろう。デ・ハースの「意欲-潜在能力モデル」などを踏まえれば、移住の現象が必ずしも賃金格差などの経済的な要因だけでなく、ウェルビーイングの実現という観点が重要であることが示唆される。近年、日本経済や賃金の途上国に対する相対的な優位性が低下したことで、日本は選ばれない国になりつつある、との議論も見受けられるが、賃金格差のみに着目した移住の将来予測はおそらく正しくない。日本で暮らす外国人の幸福度の高さは、日本で

の継続的な居留意向を高めるものであり、移住がウェルビーイングの実現手段であるとするれば、賃金格差の縮小が直ちに日本への移住の減少を意味するとは限らないことが示唆される。日本における移民の受け入れは、経済の自然な状況で左右される問題というより、私たちの意思決定が重要な問題であると言えるだろう。

私は本分析パートを国連のGCMの原則を引いて人道主義的な観点から議論を始めたが、話はそれほど単純ではない。それは外国人と日本人の双方のウェルビーイングに関わる問題である。2025年末の時点で日本の在留外国人数は400万人を超え、日本が実質的な移民国家となっていることは確かである。移民研究の分野では、スイスの作家・戯曲家マックス・フリッシュの「我々が欲しかったのは労働者だが、来たのは生身の人間だった」という言葉が、異なる立場からしばしば引用される。グローバルな移住に肯定的なオックスフォード大学教授イアン・ゴールドディンは『移民は悪か?』^[11]の中でこの言葉を、移民を単なる労働力としてではなく、家族を持ち、人権があり、より豊かな生活を求める人間として捉えて、人道的で実効性のある受け入れ政策を進めるべきであるとの文脈で引用した。一方、ハーバード大学の労働経済学者ジョージ・ボージャスは『移民の政治経済学』^[9]の原題（We Wanted Workers）にこの言葉を掲げて、移民を労働力としてのみ評価する経済学的な見方を批判して、労働市場だけでなく、所得の分配、財政、治安、文化や政治など、受け入れ社会に及ぼす広範な影響を考慮する必要があると、やや否定的な意味合いでこの言葉を引用した。日本においても、労働力という経済的な観点のみで合意のないままに外国人の受け入れを進めていけば、不合理な排外主義を増長させる恐れがある。外国人の受け入れは、経済的な問題であると同時に、私たちがどのような社会で生きたいのかという、ウェルビーイングの問題として向き合わなくてはならない。

注釈

- 注1 『世界幸福報告書2018』^[2]の2章に記載されたデータを使用。各国の幸福度（全体）は2015年から2017年の回答の平均値。移民の幸福度は2005年から2017年の回答者数が100以上となる国々での平均値。ここでの「移民」とは、居住国とは異なる国で生まれた回答者として定義されている。幸福度はキャントリ・ラダーによる測定。
- 注2 移民受容指標（Migrant Acceptance Index: MAI）は米ギャラップ社が市民の移民に対する受容度を測定するために作成した指標である。「移民が自国に住むこと」「移民が自分の隣人になること」「移民が自分の近親者と結婚すること」に対して「良いこと（3点）」「場合による・分からない（1点）」「悪いこと（0点）」の3段階で回答して、その合計点で移民に対する受容度を評価する。
- 注3 「外国人との交流頻度」は、「あなたは日頃の生活において、日本に住んでいる外国人と、どの程度の交流がありますか」という質問に対して、「まったく交流はない」「あまり交流はない」「たまに交流している」「ある程度日常的に交流している」「かなり頻繁に交流している」の5段階で回答させて、1点から5点で得点化した。「外国人からの迷惑・被害」は、「では、あなたは実際に、近所に住む外国人に迷惑をかけられたり、嫌な思いをしたことがありますか。または、あてはまるものをすべてお選びください」という質問に対して、「分別などゴミ出しのルールを守らない」「自分の家、部屋から強い臭いが漂ってくる」「夜遅くに大きな音を出す（テレビ、音楽、洗濯機など）」「近所に住む人に挨拶をしない」「町内会・自治会に加盟していない」「迷惑な民泊を運営する人がいる」「チャリティやお祭りなど地域の行事に積極的に参加しない」「行列に横から割り込む人が多い」「歩きタバコやゴミ捨てをする人が多い」「自宅の前がきれいでない人が多い」「集団で大騒ぎする人を見かける」「信号無視や交通規則違反をする人が多い」「約束の時間を守らない人が多い」「公共空間やお店などで他の人に気を使うそぶりがみえない」「お店の店員さんに感謝を伝える人が少ない」「その他」の16項目について、該当する項目をそれぞれ1点として合計点で得点化した。「地域での承認」は、「あなたは、自分が住んでいる地域で、どの程度『地域社会の一員として認められている』と感じますか」という質問に対して、「まったく認められていないと思う」「何となく認められていないと感じる」「どちらともいえない」「ある程度認められていると感じる」「十分認められていると感じる」の5段階で回答させて、1点から5点で得点化した。
- 注4 重回帰分析の個人属性の説明変数の得点化は、日本人と外国人の分析において共通である。「性別（女性）」は女性を1、男性を0とするダミー変数、「年齢」は年齢の連続変数、「既婚」は既婚を1、未婚を0とするダミー変数として扱った。「所得」は世帯年収（税込み）の各選択肢の中間値（例えば、「400万～500万円未満」なら450万円）を用いて連続変数を作成し、自然対数化（Ln 所得）して分析に用いた。「教育年数」は最終学歴ごとに教育を受けた年数を換算し（例えば、最終学歴が「高校」の場合は12年）、連続変数として扱った。
- 注5 「日本社会への適応度」は、「現在、あなたが生活するうえで、どのようなことに気を配っていますか」という質問に対して、「分別などゴミ出しのルールを守る」「自分の家、部屋から強い臭いが漂わないようにする」「夜遅くに大きな音を出さない（テレビ、音楽、洗濯機など）」「近所に住む人同士で挨拶をする」「行列に横から割り込まない」「歩きタバコやゴミのゴミ捨てはしない」「自宅の前をいつもきれいにしておく」「集団で大騒ぎしない」「信号無視や交通規則違反をしない」「約束の時間を守る」「公共空間やお店などで他の人に迷惑をかけないよう気を使う」「お金を払う立場でも店員さんに感謝を伝える」の12項目について、該当する項目をそれぞれ1点として合計点で得点化した。同じ設問には「町内会・自治会に加盟して会費を払う」「チャリティやお祭りなど地域の行事には積極的に参加する」の2項目も含まれているが、因子的妥当性の観点から「日本社会への適応度」の得点からは除外した。
- 注6 同じ重回帰分析モデルの説明変数において、「日本社会への適応度」に代えて「日本居住年数」を説明変数として考慮した場合に「日本居住年数」は有意な正の効果があり、また「日本社会への適応度」と「日本居住年数」の両方を説明変数として考慮した場合は互いに効果は弱まるが、いずれも統計的に有意な効果が確認される（表A5に記載のモデル2c, 2d 参照）。
- 注7 「排外主義」と「愛国主義」は「以下にあげる考え方に対して、あなたの考えはどの程度あてはまりますか」という質問に対して、各3項目について「まったくあてはまらない」「あまりあてはまらない」「どちらともいえない」「ある程度あてはまる」「とてもあてはまる」の5段階で回答させて、1点から5点で得点化した。「純化主義」は「ある人を本当に日本人であると見なすためには、以下にあげるようなことが『重要だ』という意見と『重要ではない』という意見があります。それぞれについてあなたはどの程度重要だと思いますか」という質問に対して、3項目について「まったくあてはまらない」「あまりあてはまらない」「どちらともいえない」「ある程度重要である」「とても重要である」の5段階で回答させて、1点から5点で得点化した。

参考文献

- [1] De Haas, H.: A theory of migration: The aspirations-capabilities framework. *Comparative Migration Studies*, 9, 8, 2021
- [2] Helliwell, J.F., Layard, R. & Sachs, J. (eds.): *World Happiness Report 2018*. Sustainable Development Solutions Network, New York, 2018 (<https://www.worldhappiness.report/ed/2018/>)
- [3] 国際移住機関 (IOM): 安全で秩序ある正規の移住のためのグローバル・コンパクト (GCM) (<https://japan.iom.int/gcm>)
- [4] Safi, M.: Immigrants' life satisfaction in Europe: Between assimilation and discrimination. *European Sociological Review*, 26(2), 159–176, 2010
- [5] Hendriks, M. & Burger, M.J.: Unsuccessful subjective well-being assimilation among immigrants: The role of faltering perceptions of the host society. *Journal of Happiness Studies*, 21, 1985–2006, 2020
- [6] Prati, G.: Subjective well-being and attitudes toward outgroup members. *International Journal of Intercultural Relations*, 103, 102055, 2024
- [7] Oishi, S. & Diener, E.: Re-examining the general positivity model of subjective well-being: The discrepancy between specific and global domain satisfaction. *Journal of Personality*, 69(4), 641–666, 2001
- [8] 友原章典: 移民の経済学—雇用、経済成長から治安まで、日本は変わるか。中央公論新社, 2020
- [9] ジョージ・ボージャス (著), 岩本正明 (訳): 移民の政治経済学。白水社, 2017
- [10] De Haas, H.: Myths of migration: Much of what we think we know is wrong. (<https://heindehaas.blogspot.com/2017/03/myths-of-migration-much-of-what-we.html>)
- [11] イアン・ゴールディン (著), 斎藤栄一郎 (訳): 移民は悪か？人類に驚異的な進歩をもたらしてきた移住・移民の歴史。プレジデント社, 2026

A. 1 統計モデル

本稿で実施した重回帰分析におけるモデルの一覧を表 A1 に示す。

表 A1 モデルの一覧

モデル名	統計モデル	対象	目的変数 Y	説明変数 X_m
モデル 1a	重回帰モデル	日本人	幸福度	個人属性、交流関連の要因
モデル 1b	重回帰モデル	外国人	幸福度	個人属性、交流関連の要因
モデル 2a	重回帰モデル	外国人	継続居留意向	個人属性、日本語の習熟度、日本社会への適応度、幸福度
モデル 2b	重回帰モデル	外国人	継続居留意向	個人属性、日本語の習熟度、在留資格
モデル 2c	重回帰モデル	外国人	継続居留意向	個人属性、日本語の習熟度、居住年数、幸福度
モデル 2d	重回帰モデル	外国人	継続居留意向	個人属性、日本語の習熟度、居住年数、日本社会への適応度、幸福度
モデル 3a	重回帰モデル	日本人	排外主義	個人属性、幸福度
モデル 3b	重回帰モデル	日本人	愛国主義	個人属性、幸福度
モデル 3c	重回帰モデル	日本人	純化主義	個人属性、幸福度
モデル 3d	重回帰モデル	日本人	寛容度	個人属性、幸福度
モデル 4a	重回帰モデル	日本人	外国人増加に反対	個人属性、幸福度
モデル 4b	重回帰モデル	日本人	外国人増加に反対	個人属性、無職（65 歳未満）、非正規雇用、幸福度

重回帰モデルは、目的変数 Y と説明変数 X_m を以下の統計モデル（式 1）で表現したものである。予測値 $\hat{Y}$ と観測値 Y の差（誤差項）の平方和が最小になるよう、最小二乗法で切片 α と偏回帰係数 $\beta_1, \dots, \beta_m$ を推定する。重回帰モデルにおける各説明変数の偏回帰係数は、その他の説明変数を統制した場合の目的変数に対する影響度として解釈できる。

重回帰モデル：

$$\hat{Y} = \alpha + \beta_1 X_1 + \beta_2 X_2 + \dots + \beta_m X_m \quad (\text{式 1})$$

A. 2 変数の要約統計量

本分析で使用した変数の要約統計量を、日本人と外国人それぞれで表 A2 と表 A3 に示す。サンプルサイズは日本人は 2060、外国人は 1704 である。

表 A2 変数の要約統計量（日本人）

変数		平均値	標準偏差	最小値	最大値
幸福度（ラダー）		5.994	2.220	0	10
個人の属性	性別（女性）*	0.500	0.500	0	1
	年齢	45.38	15.33	18	79
	既婚*	0.508	0.500	0	1
	所得（自然対数変換前）	597.5	452.5	0	2400
	教育年数	14.41	2.042	9	18
	無職（65 歳未満）*	0.090	0.286	0	1
	非正規雇用*	0.211	0.408	0	1
交流関連	外国人との交流頻度	1.654	1.064	1	5
	外国人からの迷惑・被害	1.533	2.554	0	15
	地域での承認	3.289	0.935	1	5
外国人をめぐる考え方・ 価値観、意見	排外主義	3.635	0.747	1	5
	愛国主義	3.505	0.850	1	5
	純化主義	3.555	0.896	1	5
	寛容度	2.884	0.874	1	5
	受け入れ反対	3.409	0.998	1	5

*はダミー変数を意味しており、平均値は割合を表す。

表 A3 変数の要約統計量（外国人）

変数		平均値	標準偏差	最小値	最大値
幸福度（ラダー）		6.850	1.807	0	10
日本での継続居住意向		3.383	1.188	1	5
個人の属性	性別（女性）*	0.518	0.500	0	1
	年齢	35.65	8.333	20	69
	所得（自然対数変換前）	618.1	369.0	0	2400
交流関連	日本人との交流頻度	3.625	1.116	1	5
	差別の知覚・経験	0.543	0.755	0	3
	地域での承認	3.532	1.030	1	5
日本社会への適応度他	日本社会への適応度	4.595	3.257	0	12
	日本語の習熟度	3.422	0.682	1	4
	日本居住年数	6.741	5.211	1	46
在留資格他	技術・人文知識・国際業務	0.236	0.425	0	1
	技能	0.089	0.285	0	1
	技能実習・特定技能	0.121	0.327	0	1
	永住者	0.198	0.399	0	1
	留学	0.090	0.287	0	1

*はダミー変数を意味しており、平均値は割合を表す。

A. 3 モデルの推定結果

本分析で実施されたモデルの推定値を表 A4 から表 A7 に示す。

表 A4 重回帰モデル（モデル 1a, モデル 1b）の推定値（切片, 偏回帰係数）

	モデル 1a	モデル 1b
切片	0.449	5.468 ***
性別（女性）	0.267 **	-0.043
年齢	-0.010 **	-0.002
既婚	0.643 ***	
Ln(所得)	0.177 ***	-0.002
教育年数	0.092 ***	
外国人との交流頻度	0.152 ***	
外国人からの迷惑・被害	-0.058 **	
日本人との交流頻度		0.230 ***
差別の知覚・経験		-0.338 ***
地域での承認	0.927 ***	0.243 ***
R ²	0.274	0.075
サンプルサイズ	1599	1601

*** p < 0.001 (0.1%水準) ; ** p < 0.01 (1%水準) ; * p < 0.05 (5%水準)

表 A5 重回帰モデル（モデル 2a, モデル 2b, モデル 2c, モデル 2d）の推定値（切片, 偏回帰係数）

	モデル 2a	モデル 2b	モデル 2c	モデル 2d
切片	2.788 ***	2.273 ***	3.007 ***	3.033 ***
性別（女性）	-0.032	-0.026	-0.036	-0.050
年齢	0.000	0.011 **	-0.005	-0.005
Ln(所得)	-0.056	0.038	-0.047	-0.072
日本語の習熟度	-0.014	0.048	-0.002	-0.017
日本社会への適応度	0.056 ***			0.046 ***
日本居住年数			0.034 ***	0.025 ***
幸福度（ラダー）	0.107 ***		0.091 ***	0.097 ***
技術・人文知識・国際業務		0.685 ***		
技能		0.254 *		
技能実習・特定技能		0.001		
永住者		0.240 **		
留学		0.867 ***		
R ²	0.047	0.059	0.042	0.055
サンプルサイズ	1601	1601	1601	1601

*** p < 0.001 (0.1%水準) ; ** p < 0.01 (1%水準) ; * p < 0.05 (5%水準)

表 A6 重回帰モデル（モデル 3a, モデル 3b, モデル 3c, モデル 3d）の推定値（切片, 偏回帰係数）

	モデル 3a	モデル 3b	モデル 3c	モデル 3d
切片	4.002 ***	3.173 ***	3.596 ***	2.605 ***
性別（女性）	0.058	-0.092 *	-0.073	-0.037
年齢	-0.005 ***	0.001	0.001	0.002
既婚	-0.016	-0.030	-0.051	-0.087
Ln(所得)	0.011	0.018	0.022	-0.014
教育年数	-0.010	-0.008	-0.022	0.000
幸福度（ラダー）	-0.009	0.064 ***	0.029 **	0.060 ***
R ²	0.016	0.031	0.008	0.021
サンプルサイズ	1599	1599	1599	1599

*** p < 0.001 (0.1%水準) ; ** p < 0.01 (1%水準) ; * p < 0.05 (5%水準)

表 A7 重回帰モデル（モデル 4a, モデル 4b）の推定値（切片, 偏回帰係数）

	モデル 4a	モデル 4b
切片	3.960 ***	3.927 ***
性別（女性）	0.170 ***	0.158 **
年齢	-0.001	-0.002
既婚	0.034	0.036
Ln(所得)	0.000	0.001
教育年数	-0.005	-0.004
無職（65 歳未満）		0.027
非正規雇用		0.067
幸福度（ラダー）	-0.089 ***	-0.089 ***
R ²	0.044	0.044
サンプルサイズ	1599	1599

*** p < 0.001（0.1%水準）；** p < 0.01（1%水準）；* p < 0.05（5%水準）